

IV 市民意識調査に基づく「指標の現状（値）」

1 指標の現状（値）

第1節 連携型地域社会の形成

第1項 市民と行政の協働を推進します

めざしたい将来像：

「市民の自立」「市民や事業者などと行政の対等な関係」をめざす協働のまちづくりを推進し、安全・安心な豊かで、活力のある郷土愛に満ち、市民みんなが誇りに思える”ふるさとまつど”を実現します。そのため、支所など地域拠点の機能を高め、市民同士、市民と行政、行政組織同士などの連携を進めます。また、地域活動（町会・自治会活動、地区社会福祉協議会の活動）、NPO活動、ボランティア活動のそれぞれの活性化を図ります。

指標

市民活動（地域活動、NPO活動、ボランティア活動など）に参加している人の割合

（1）指標の説明

市民が、企業、NPO法人、ボランティア団体、町会、自治会などの一員として社会に貢献するという意志をもち、積極的に地域活動に参加している状況を把握するため、市民活動に参加している人の割合を指標とします。

（2）設問

この指標は、次の設問により地域を限定すると共に、積極性を加味し、直接的に聞いています。「社会・行動」

Q7 あなたは、市内で地域に貢献する活動を行っている団体、組織やグループの活動に、日頃積極的に参加していますか。次の中で、参加しているものをお答え下さい。（あてはまるもの全てに○）

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1 町会・自治会 | 6 企業による奉仕活動 |
| 2 ボランティア団体 | 7 有志・仲間との奉仕活動 |
| 3 PTA | 8 その他（ ） |
| 4 NPO法人（特定非営利活動法人） | 9 積極的に参加しているものはない |
| 5 子ども会育成会 | |

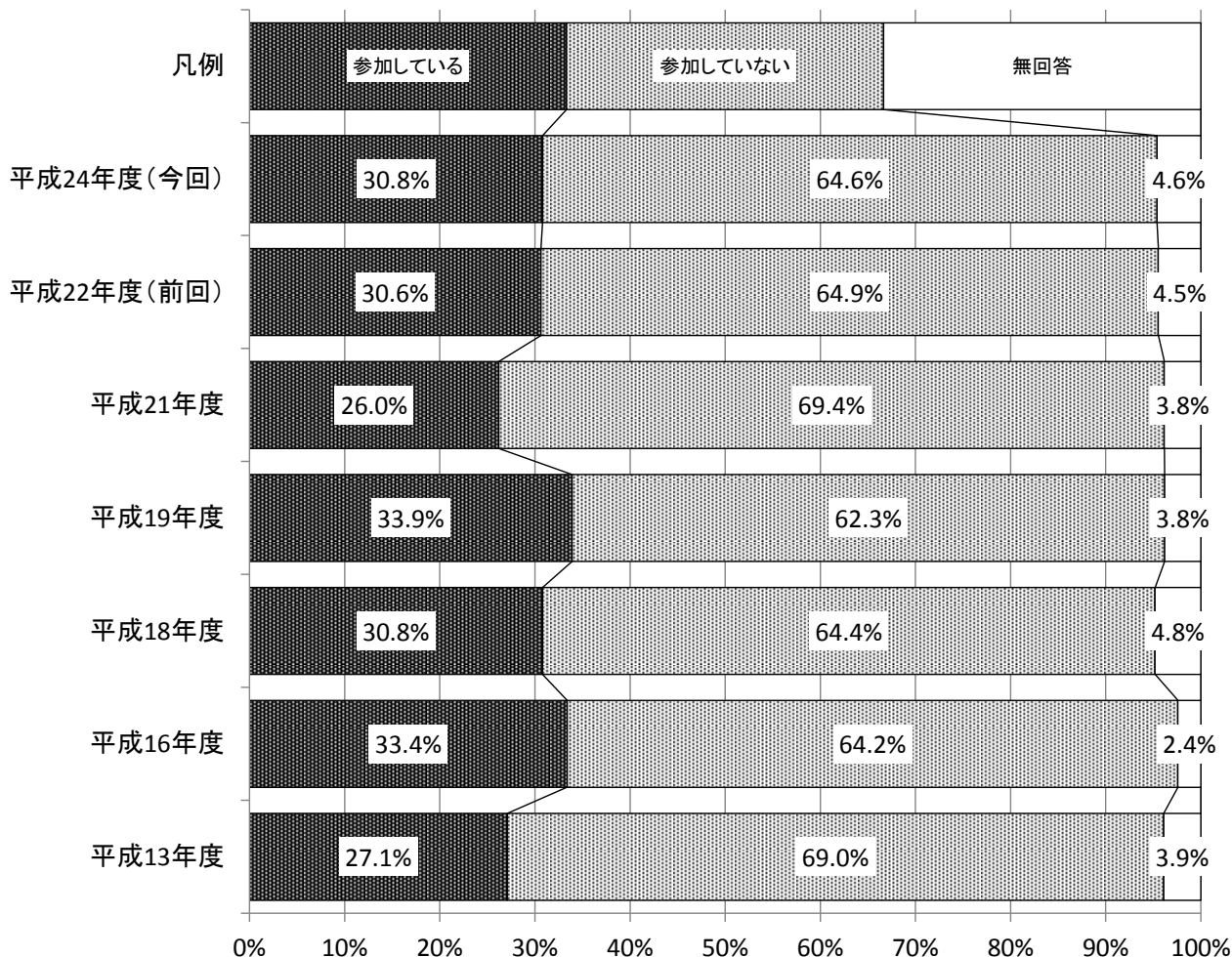
（3）指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度
参加している	27.1%	33.4%	30.8%	33.9%	26.0%	30.6%	30.8%

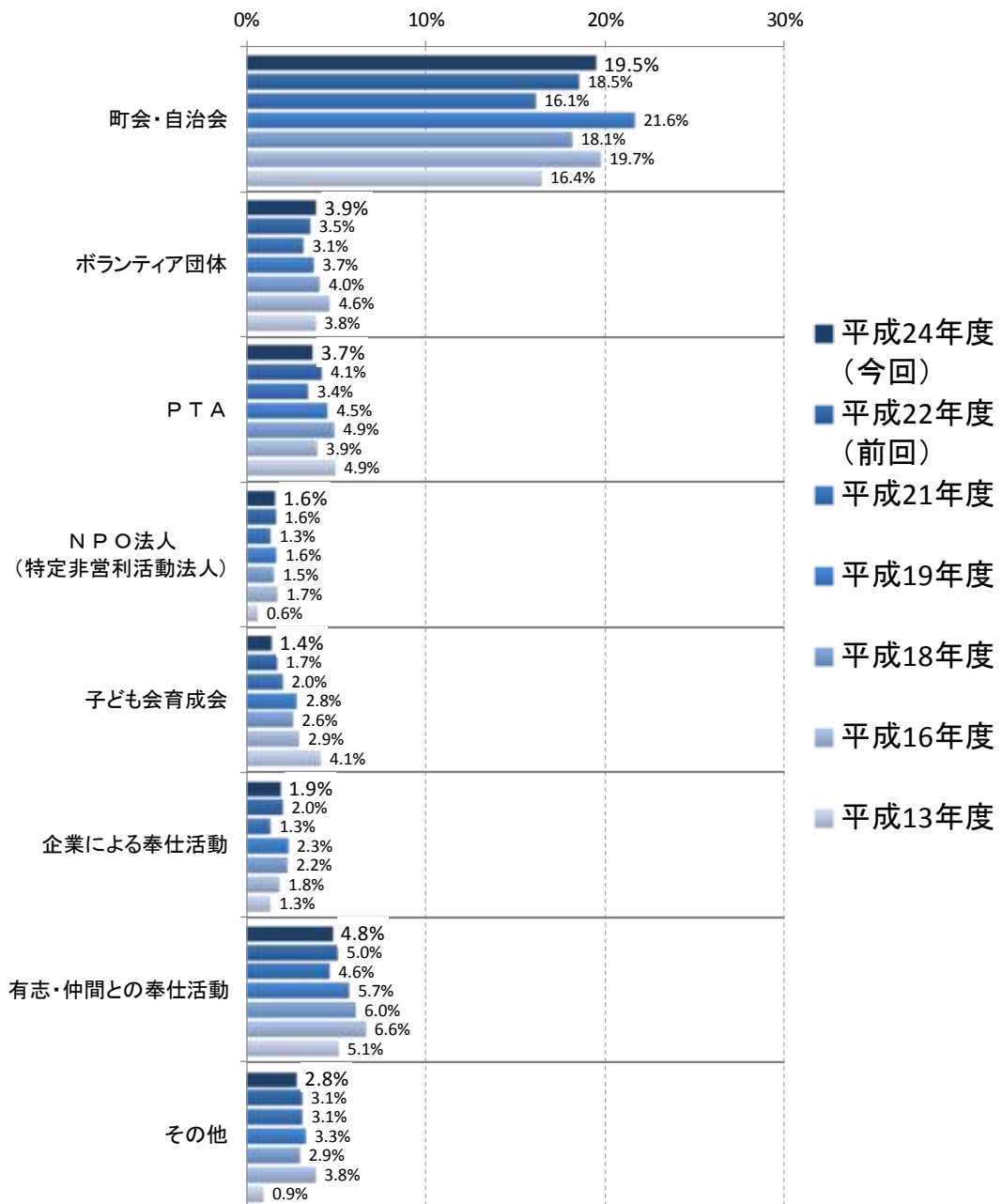
(4) 指標の分析

☆**地域活動への参加者はわずかに増えているものの、6割以上は「参加していない」としています。**

市内で地域に貢献する活動を行っている団体、組織やグループの活動に、日頃積極的に“参加している”という回答は30.8%と前回調査よりわずかに高い回答の割合となっています。しかし、全体では“参加していない”(64.6%)という回答が6割以上を占め、参加経験者を大きく上回っています。

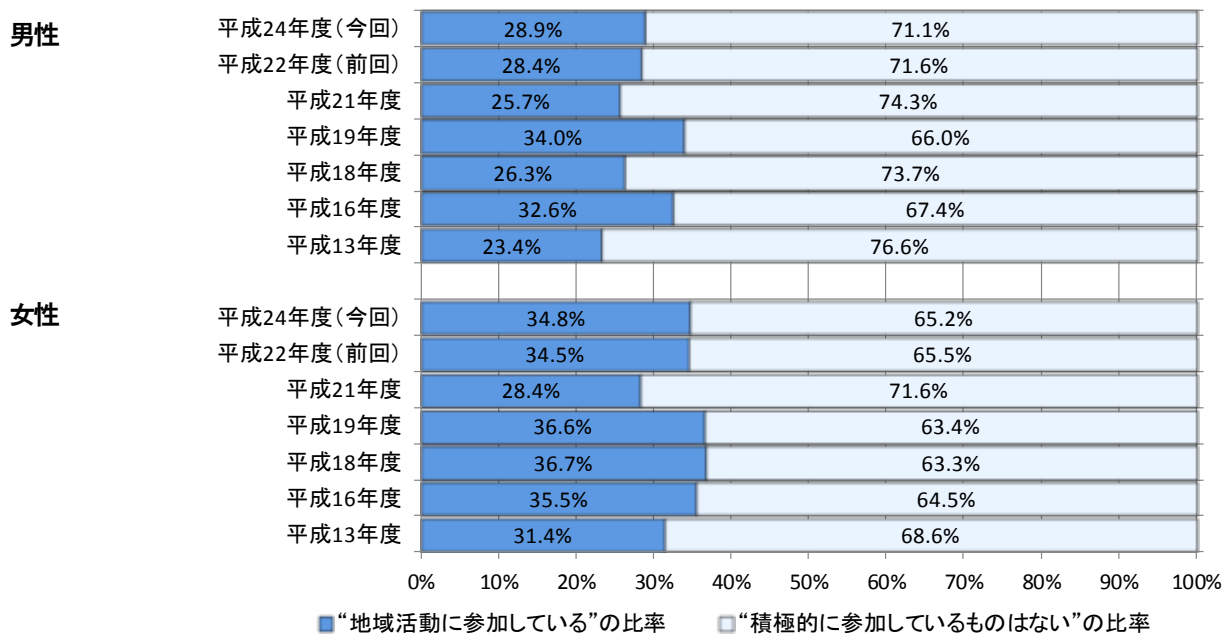


参加している活動としては、“町会・自治会”が19.5%と多く、前回調査に比べると“ボランティア団体”がわずかながら回答の割合が増えています。



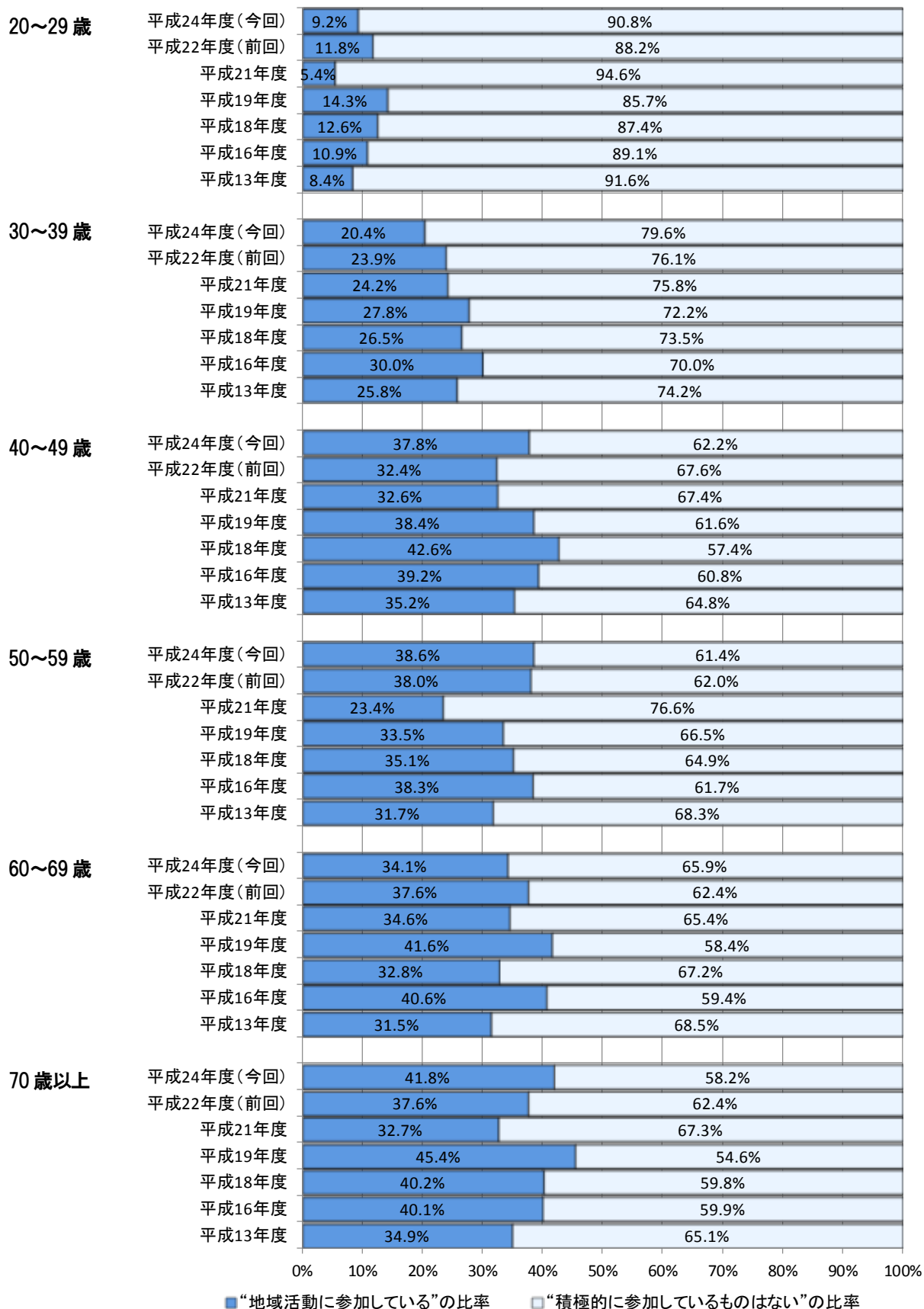
性別で見ると、女性の方が参加している割合が高くなっていますが、男女とも前回調査に比べ若干増えています。

【地域活動×性別】



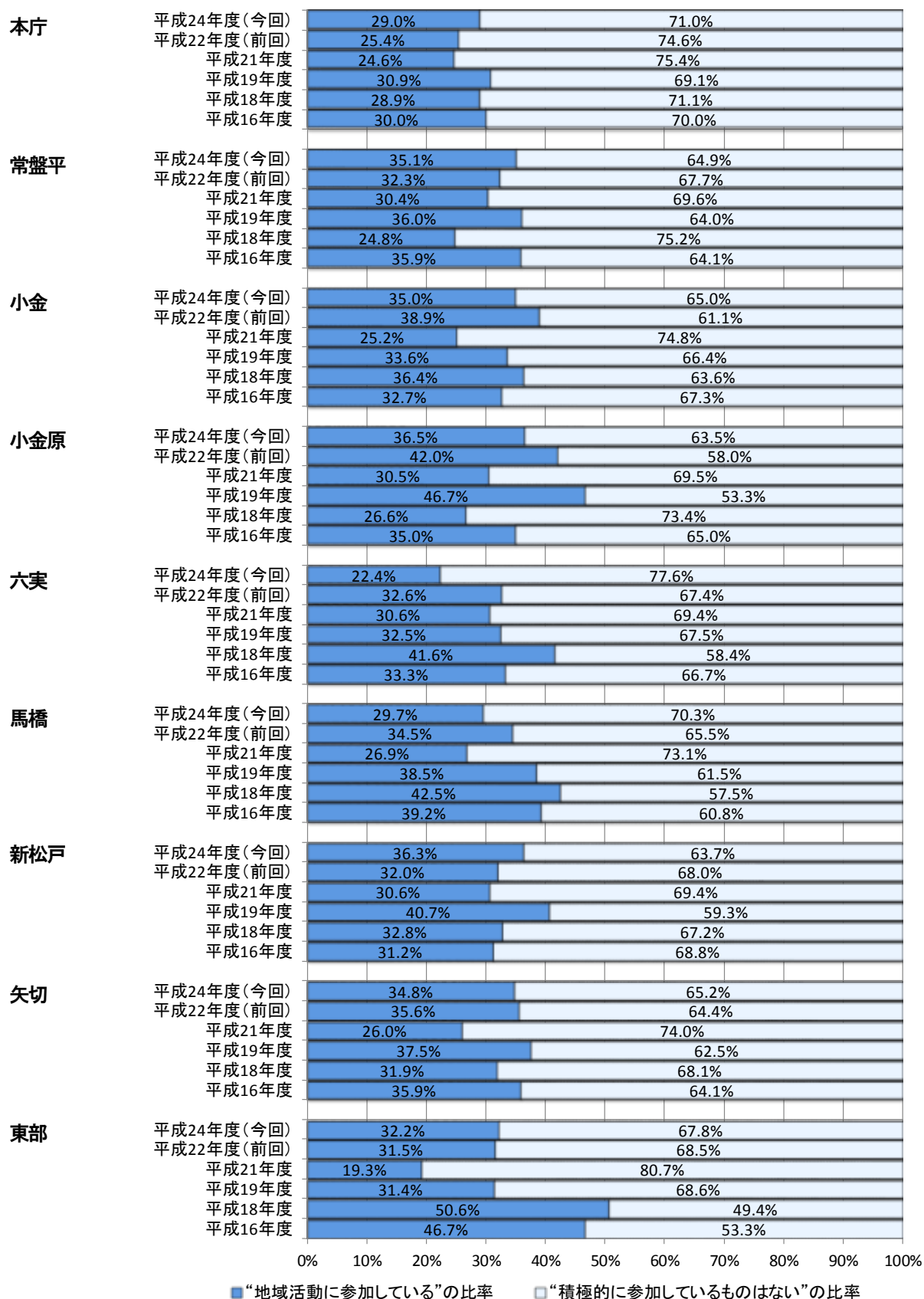
年齢別でみると、40歳代、50歳代、70歳以上の年代で参加している割合が前回調査に比べ増えています。

【地域活動×年齢】



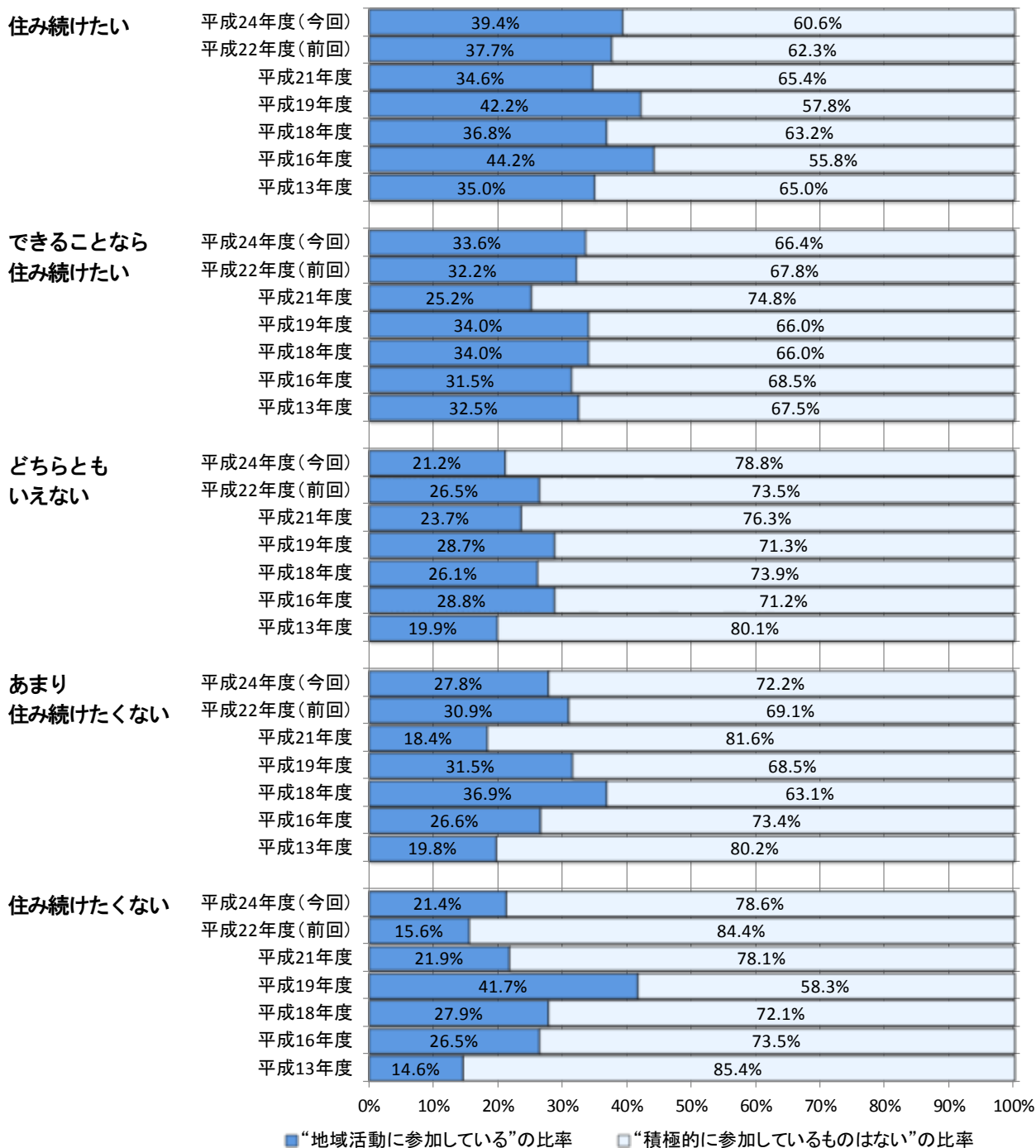
地区別でみると、六実地区(22.4%)以外の地区では地域活動に参加している割合は概ね3割前後となっています。

【地域活動×地区】



定住意向との関係においても、地域活動に参加している割合は「住み続けたい」・「できることなら住み続けたい」と回答している人では3割を上回る結果となり、「住み続けたくない」・「あまり住み続けたくない」と回答している人に比べ高くなっています。

【地域活動×定住意向】



第1節 連携型地域社会の形成

第2項 一人ひとりの人権が尊重される地域社会をつくります

めざしたい将来像：

松戸に住む全ての人々が互いに認め合い、多様な形でかかわりあえる「平等で人間性豊かな地域社会」を、自分たちで創り上げることがめざします。そのために、学習・交流など、様々な活動を心掛けます。

指標

身の回りで人権が守られていると思っている人の割合

(1) 指標の説明

差別や偏見などに代表される人権問題は、問題を他人ごととして捉えられがちな傾向や、被害にあった方々が声を出しにくい環境などから、その実態を正確なデータとして捉えることは難しい状況にあります。このことから、身の回りで人権が守られていると思っている人の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「社会・態度(認知)」

Q1 あなたの身の回りでは人権が守られていると思いますか。次の中で、人権が守られていないと日頃感じることをお答え下さい。(あてはまるもの全てに○)

1 女性の人権問題	4 障害者の人権問題	7 患者の人権問題
2 子どもの人権問題	5 同和問題	8 その他()
3 高齢者の人権問題	6 外国籍市民の人権問題	9 人権問題は特にない

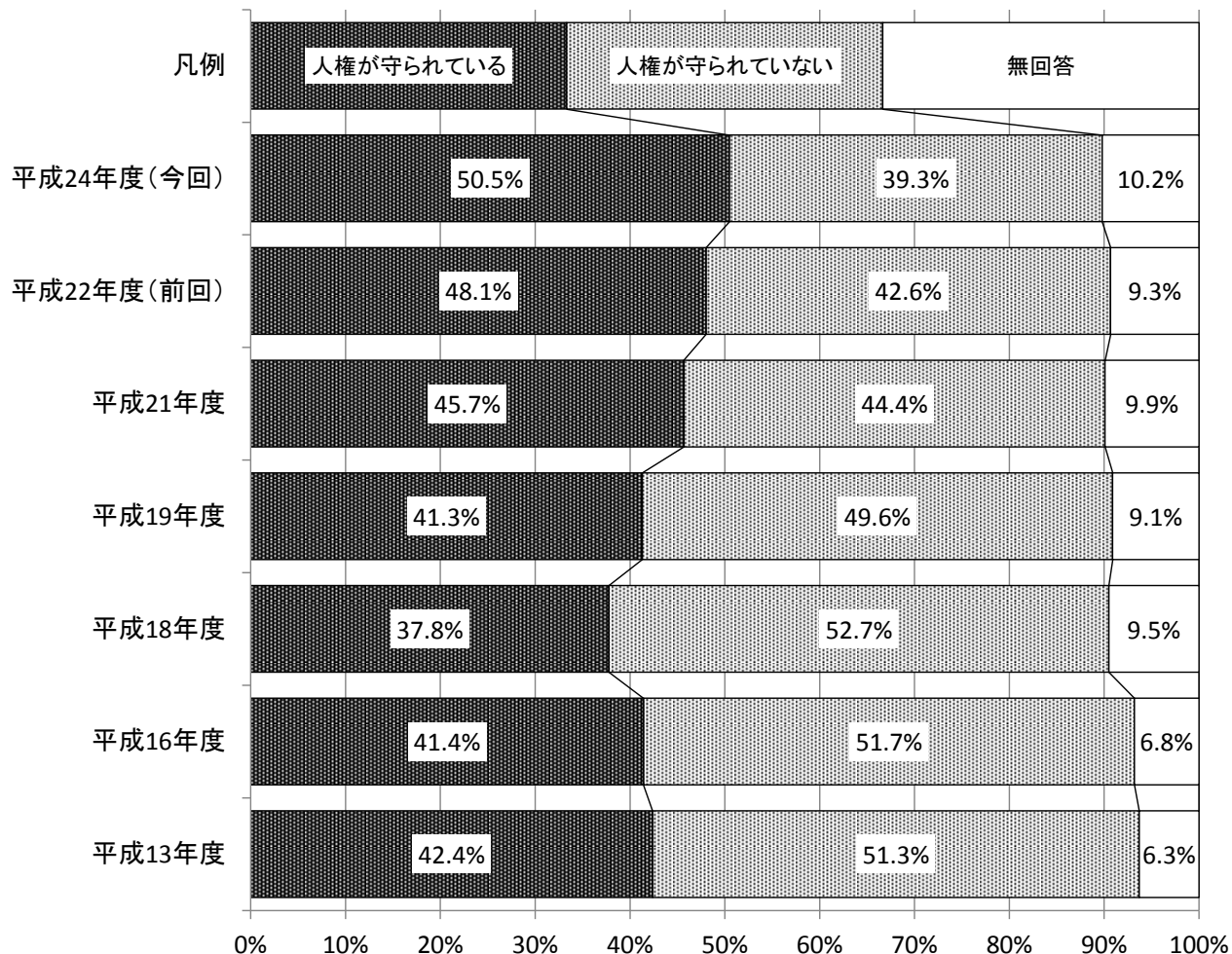
(3) 指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度
人権問題は特にない	42.4%	41.4%	37.8%	41.3%	45.7%	48.1%	50.5%

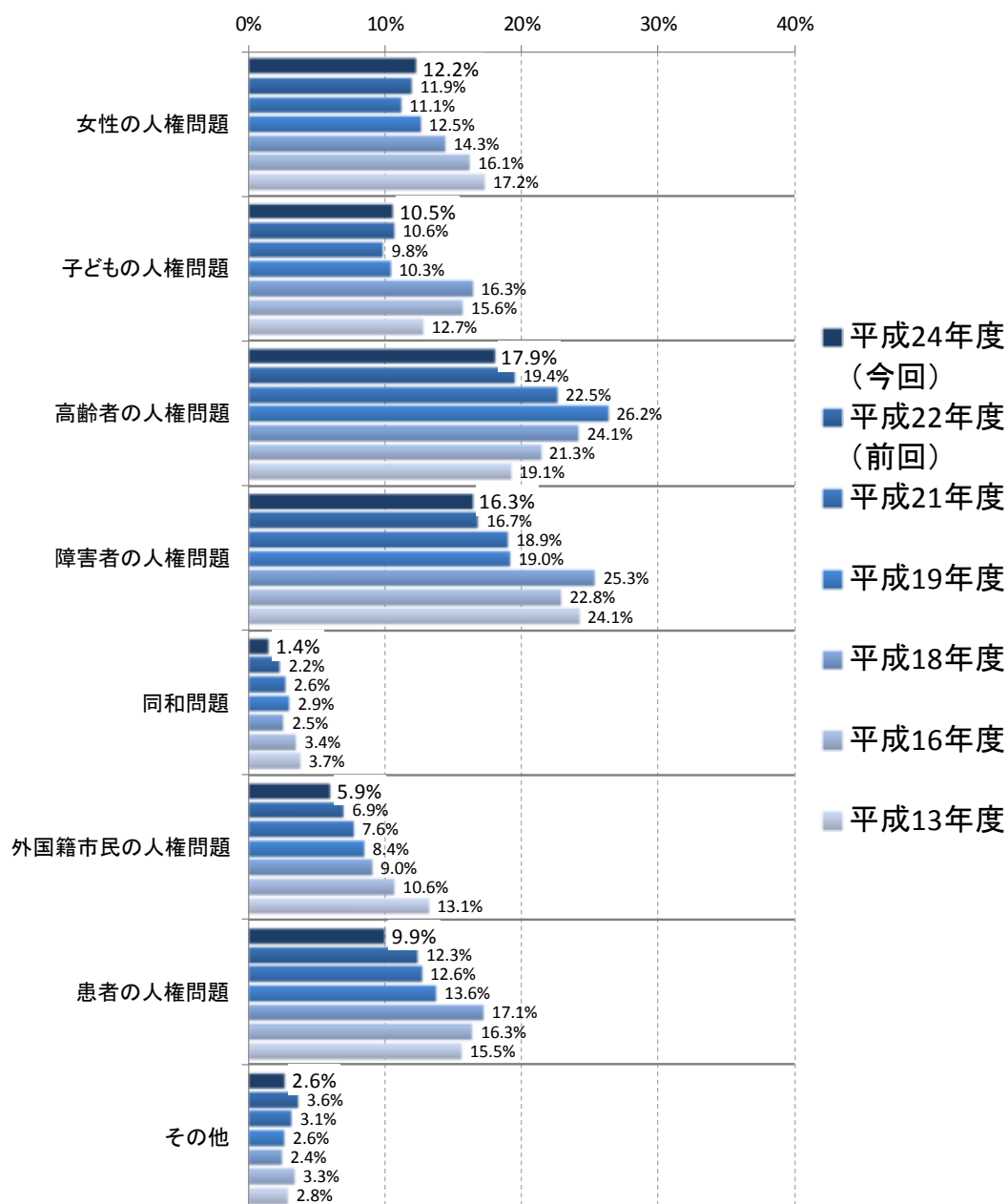
(4) 指標の分析

☆半数は人権が守られていると評価しており、人権が守られていないと考えている人は減少しています。

“人権が守られている”との回答は、平成18年以降高まっており、今回の調査では、50.5%と半数以上の人が回答しています。一方で、“人権が守られていない”という回答は39.3%と減少しています。



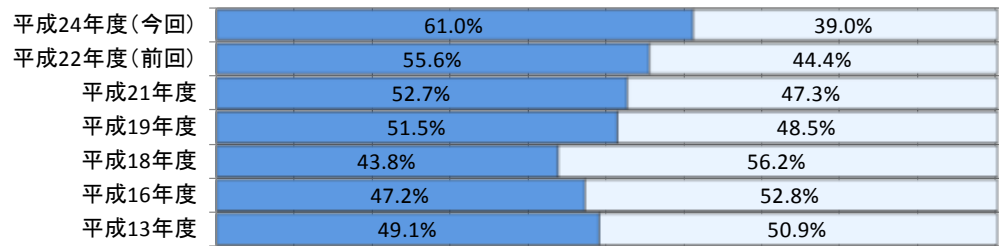
人権が日頃守られていないと感じることとしては、“高齢者の人権問題”(17.9%)と“障害者の人権問題”(16.3%)への回答が多いものの、これらの項目への回答は平成19年度以降減少傾向にあり、反対に“女性の人権問題”(12.2%)については、わずかながら回答の割合が高くなっています。



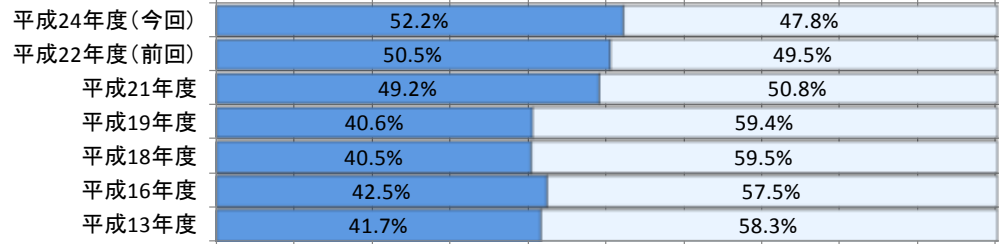
性別で見ると、「人権が守られている」との意識は、前回調査と同様に男性が高く、6割を超えています。

【人権問題×性別】

男性



女性

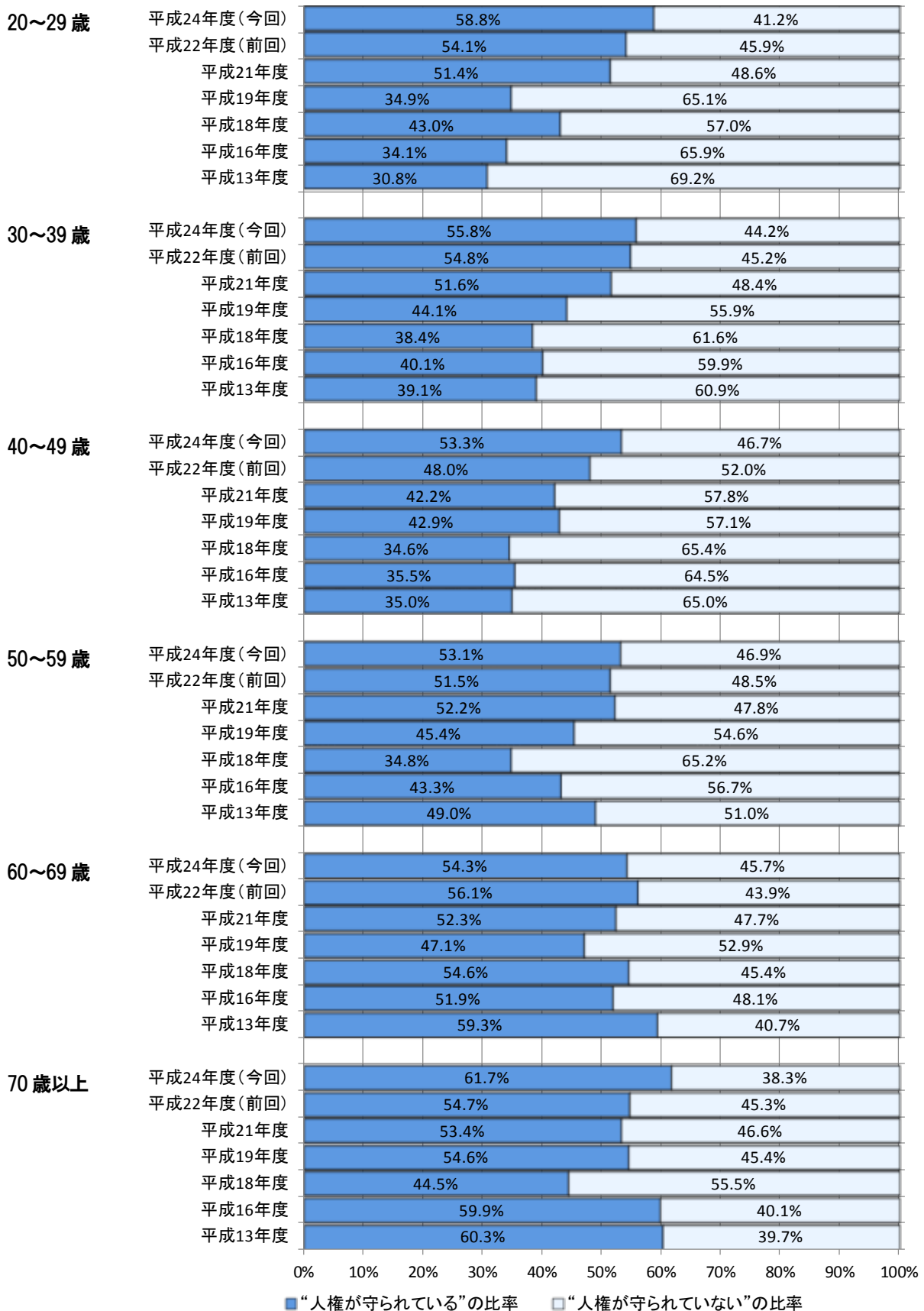


0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

■ “人権が守られている”の比率 □ “人権が守られていない”の比率

年齢別でみると、「人権が守られている」との意識が、全ての年代で5割を超えています。70歳以上では61.7%と6割を超え、最も高くなっています。

【人権問題×年齢】



第1節 連携型地域社会の形成

第3項 男女共同参画の地域社会をつくります

めざしたい将来像：

男女がお互いに相手の人権を大切に思い、ともに責任を分かち合い、個性や能力をフルに発揮できるまちをめざします。それは、男女が対等なパートナーとして、いろいろな分野に参画できるまちです。

指標

固定的性別役割分担を支持しない人の割合

(1) 指標の説明

固定的な男女の役割意識が払拭されていくことで、家庭環境、社会環境が改善され、性別に係わらず役割が今以上に選択できるようになると考えられます。そこで、固定的性別役割分担を支持しない人の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「個人・態度(認知)」

Q3 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはこの考え方に同感するほうですか、それとも同感しないほうですか。(1つに○)

- | | |
|-------------|-----------|
| 1 同感するほう | 3 同感しないほう |
| 2 どちらともいえない | 4 わからない |

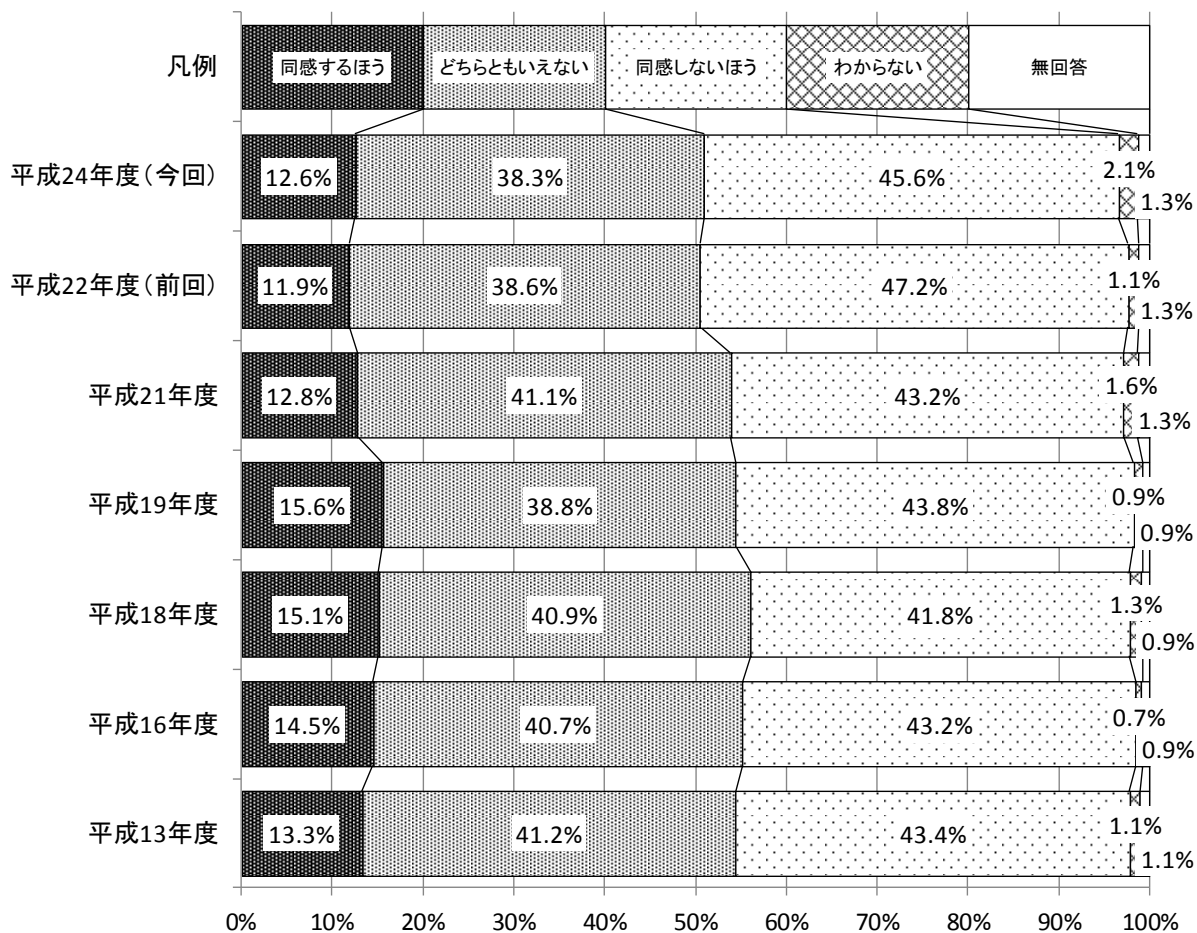
(3) 指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度
同感しないほう	43.4%	43.2%	41.8%	43.8%	43.2%	47.2%	45.6%

(4) 指標の分析

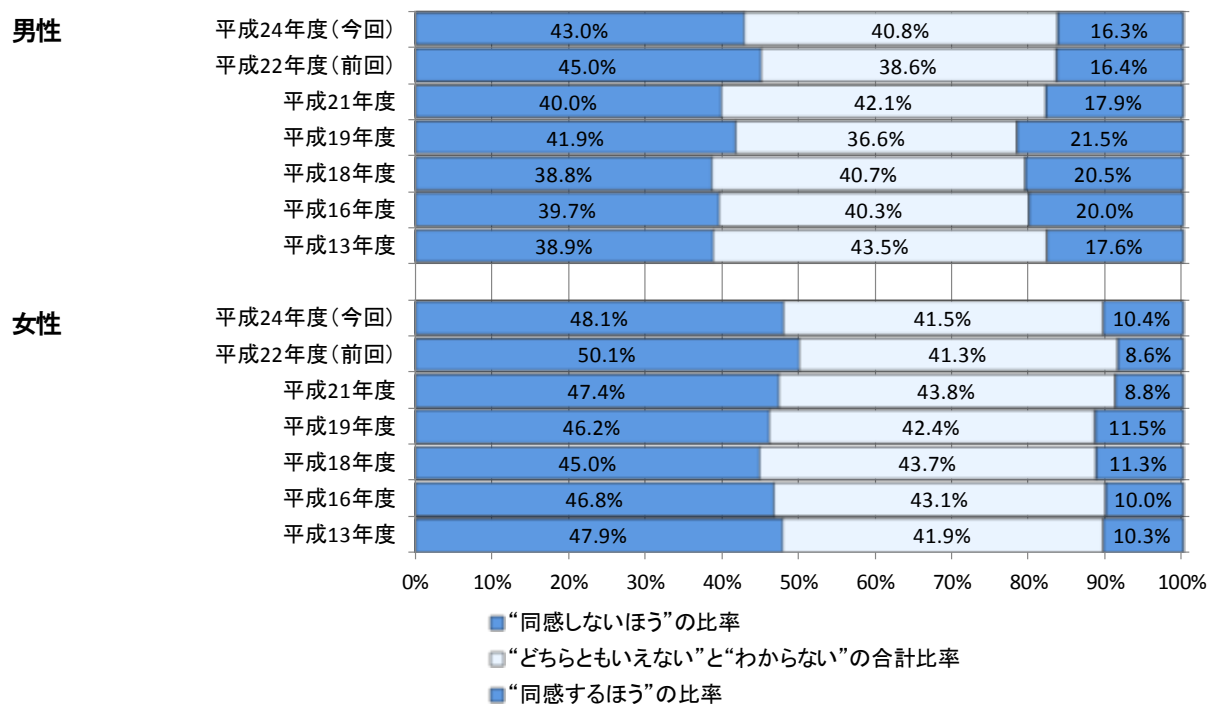
☆性別による役割固定を支持しない人はわずかに減少しています。

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、「同感しないほう」という回答は、今回の調査では47.2%から45.6%と減少しています。逆に「同感するほう」という回答は、今回の調査ではわずかに増えています。



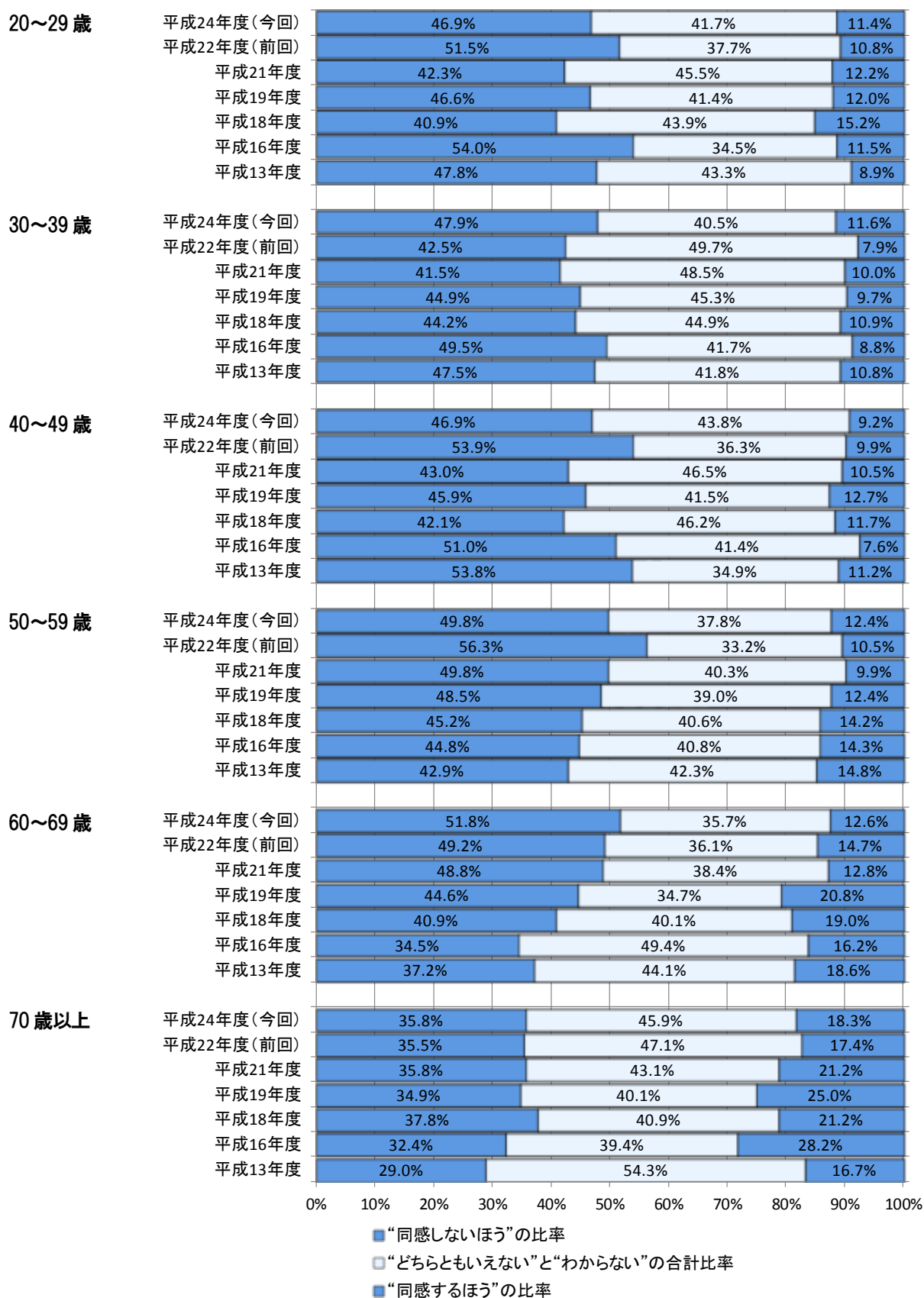
性別で見ると、前回調査と同様に男女とも“同感しないほう”の割合が高く、また男性(43.0%)より女性(48.1%)の方が割合が高くなっています。

【性別による役割×性別】



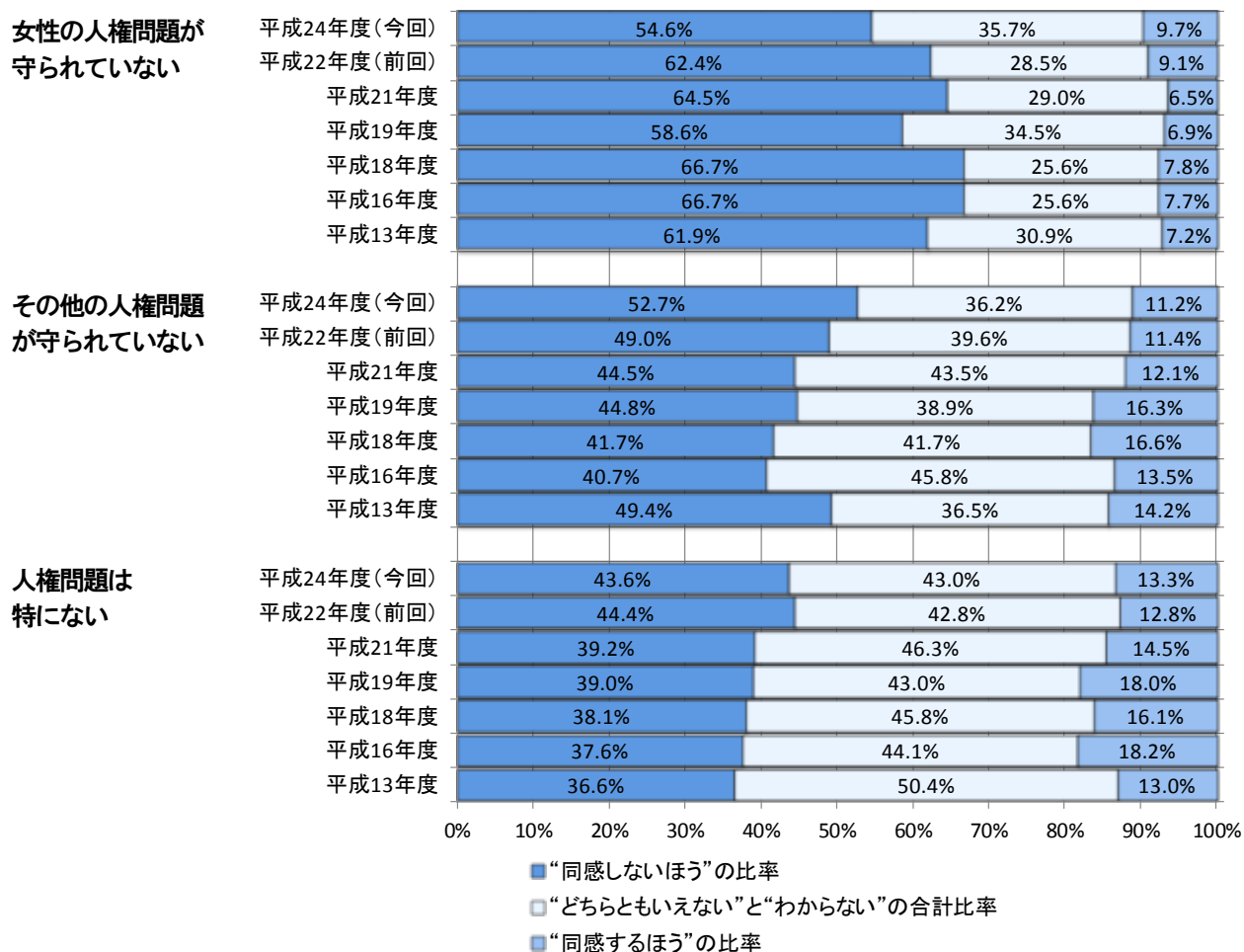
年齢別にみると、“同感しないほう”の割合が60～69歳で51.8%と最も高くなっています。次いで50～59歳で49.8%、30～39歳で47.9%となっています。

【性別による役割×年齢】



人権問題への認識別でみると、“同感しないほう”の割合は、女性の人権問題が守られていないと回答している人で最も高くなっています。前回調査と同様に男女共同参画に係る問題が、女性の人権と密接に結びついた問題として意識されていると考えられます。

【性別による役割×人権問題の認識】



指標

女性の就業割合

(1) 指標の説明

就労を希望する女性が働けるようになることで、男女が対等なパートナーとしてさまざまな分野に参画でき、能力を発揮できるまちになると考えられます。そこで、女性の就業割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いている

F3 あなたの職業をお答えください。(1つに○)

- | | |
|-------------------------------|--------|
| 1 会社員 | 7 専業主婦 |
| 2 公務員（教員、団体職員などを含む。） | 8 無職 |
| 3 自営業（農業を含む。） | |
| 4 アルバイトやパートなどの臨時雇用 | |
| 5 学生 | |
| 6 その他（ <input type="text"/> ） | |

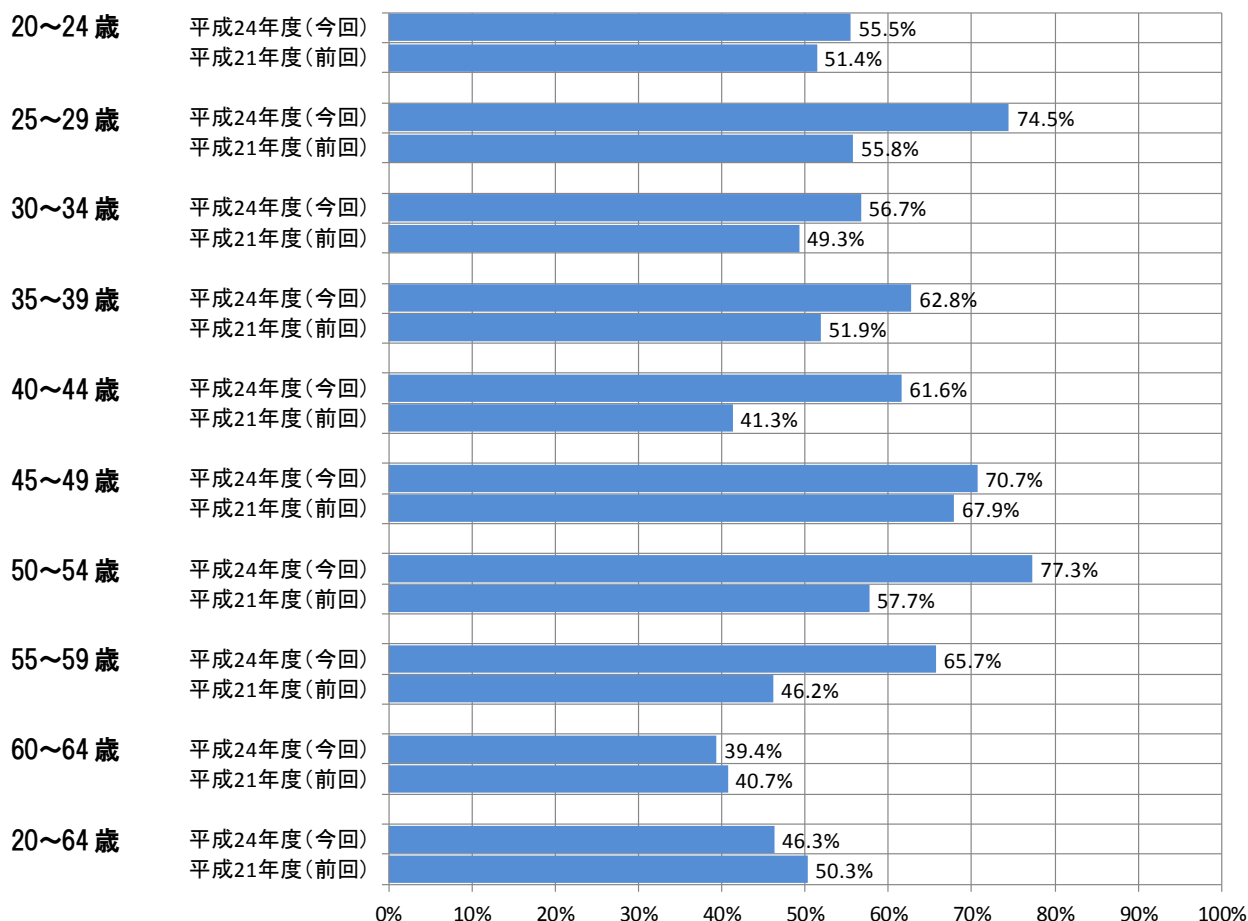
(3) 指標の現状

	平成 21年度	平成 24年度
働いている女性の割合	50.3%	46.3%

(4) 指標の分析

☆20～65歳未満の女性の就業割合は4割台半ばで、およそ半数の人が就業しています。

年齢別にみると、女性の就業割合は50～54歳が77.3%と最も高く、次いで25～29歳(74.5%)、45～49歳(70.7%)となっています。



第2節 豊かな人生を支える福祉社会の実現

第1項 健康に暮らすことができるようにします

めざしたい将来像：

自らの健康に関心を持ち、社会参加することを通して、一人ひとりが目的を持った生きがいのある暮らしを生み出します。

指標

生きがい感を持っている人の割合

(1) 指標の説明

生涯にわたり、その意欲や能力に応じて地域活動や就労等の社会参加の機会をもち、年齢や身体状況に係わりなく、いつでも心のはりや生きがいを持ち続ける人を把握するため、生きがい感を持っている人の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「個人・態度(認知)」

Q4 あなたは日頃、生活の中で生きがいを感じていますか。(1つに○)

- | | | |
|------------|-------------|--------------|
| 1 大変感じている | 3 ある程度感じている | 5 ほとんど感じていない |
| 2 かなり感じている | 4 あまり感じていない | |

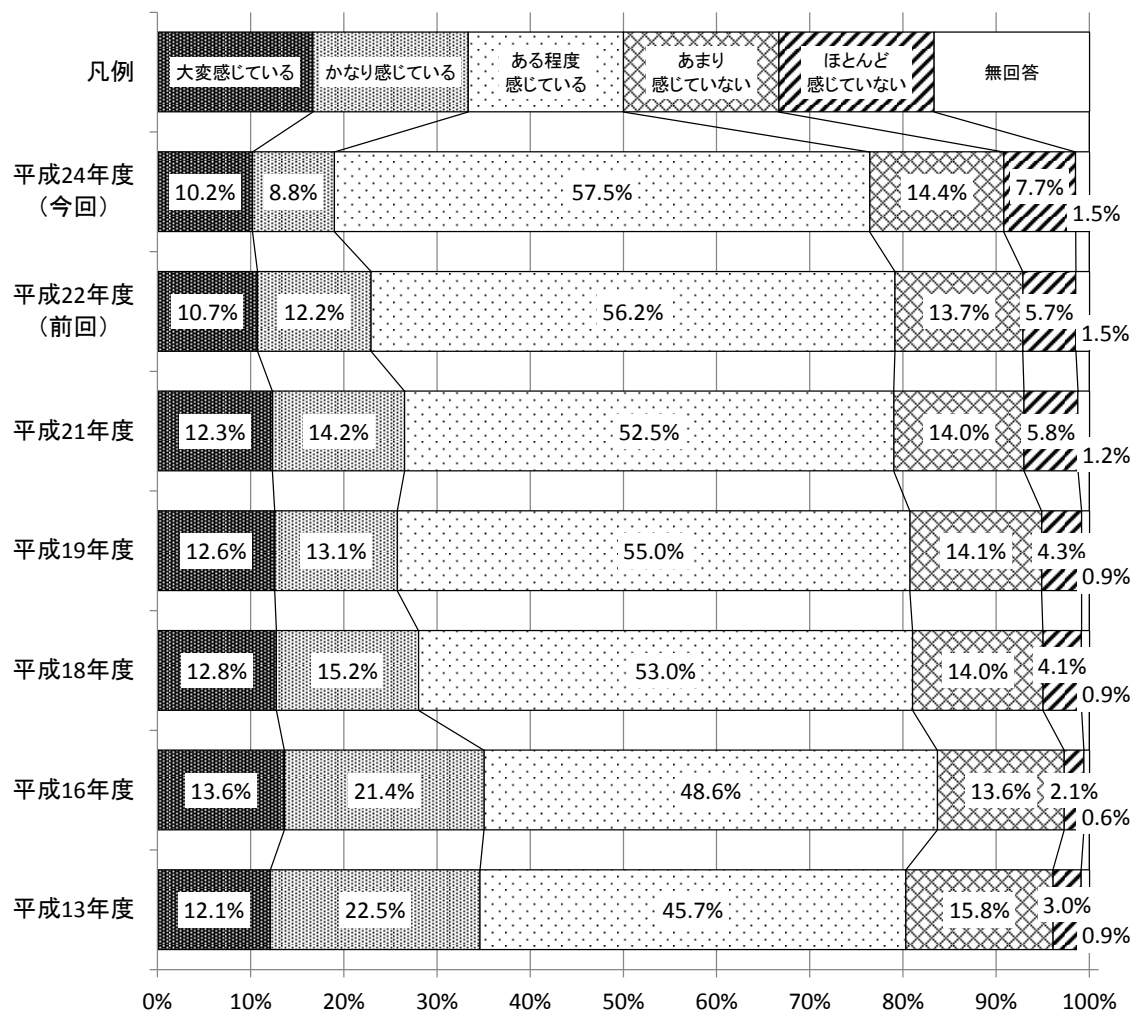
(3) 指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度
大変感じている	12.1%	13.6%	12.8%	12.6%	12.3%	10.7%	10.2%
かなり感じている	22.5%	21.4%	15.2%	13.1%	14.2%	12.2%	8.8%
ある程度感じている	45.7%	48.6%	53.0%	55.0%	52.5%	56.2%	57.5%
計	80.3%	83.6%	81.0%	80.7%	79.0%	79.1%	76.5%

(4) 指標の分析

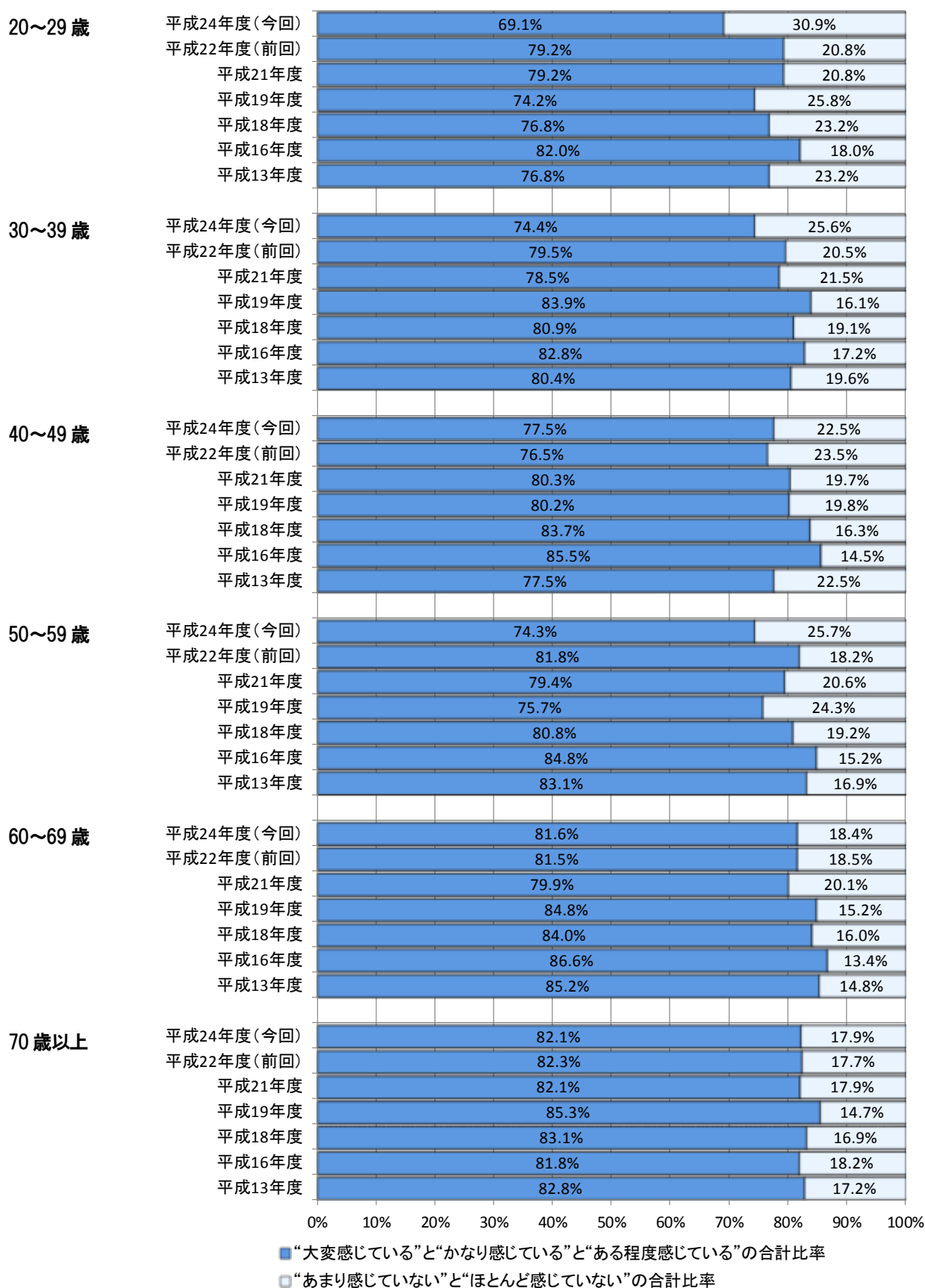
☆**何らかの生きがいを感じている人は76.5%となり、やや減少しています。**

日頃の生活の中で生きがいを感じているかどうかについてみると、“大変感じている”、“かなり感じている”、“ある程度感じている”をあわせた生きがいを感じている人の割合は76.5%と前回調査に比べやや減少しています。



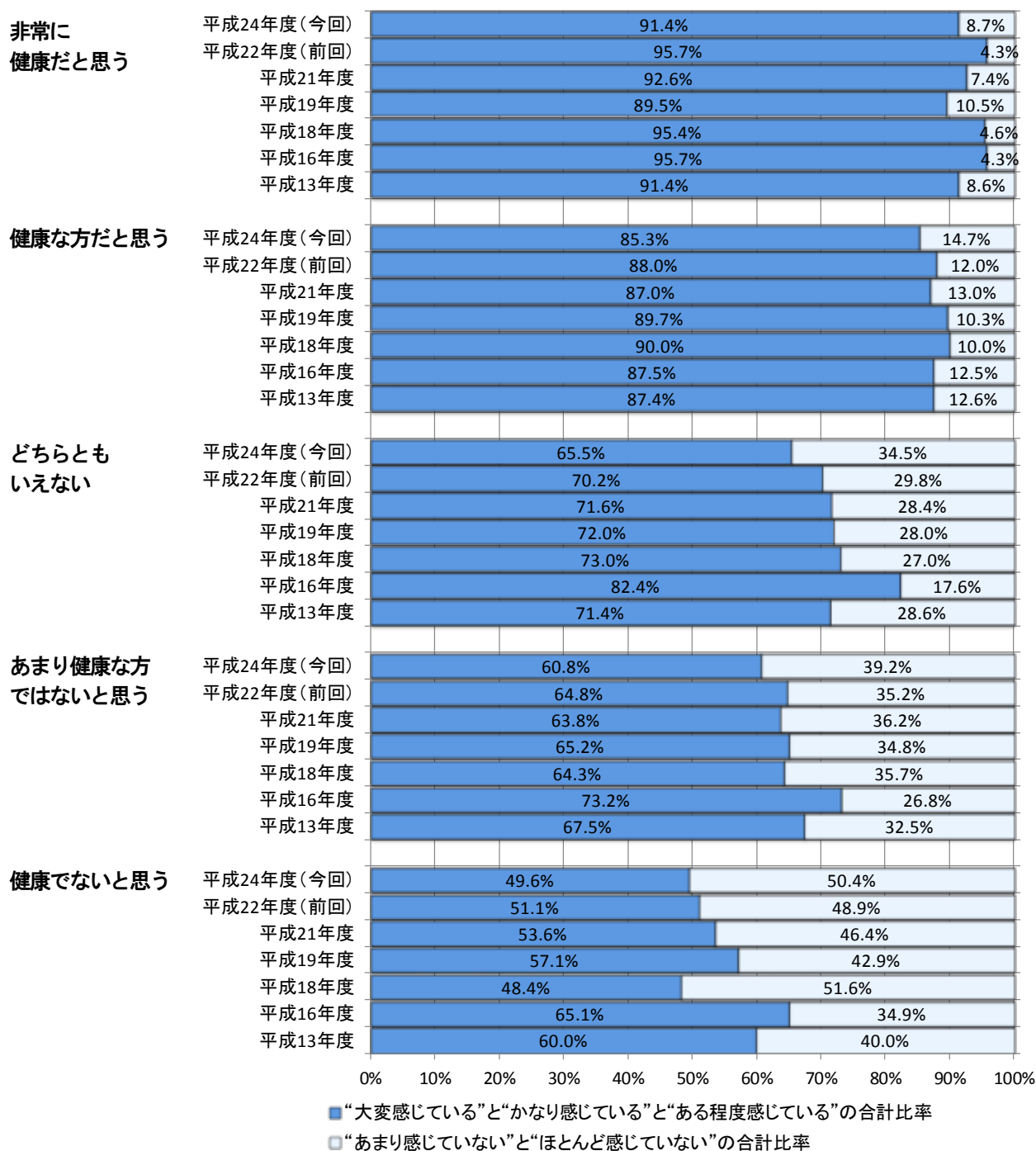
年齢別にみると、各年代とも生きがい感を持っている人の割合が高く、20歳代を除くすべての年代で7割を超えています。前回調査に比べ、20歳代で79.2%から69.1%と生きがい感を持つ人が減少しています。

【生きがい感×年齢】



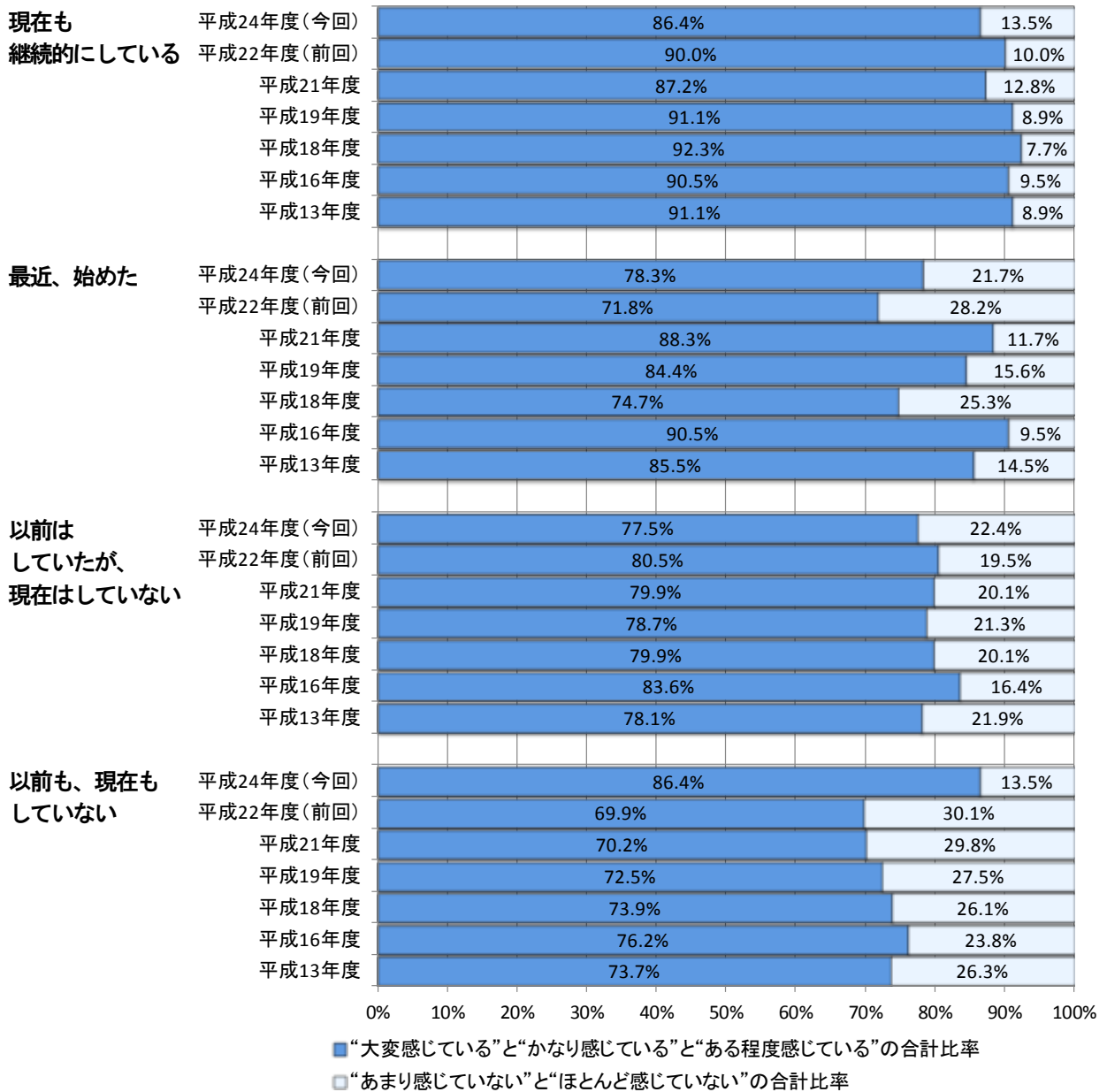
本人の健康感別にみると、前回調査と同様に健康状況に比例して生きがい感が高まる傾向が見られます。前回調査と比べ、全ての層で生きがい感が減少しています。

【生きがい感×本人の健康感】



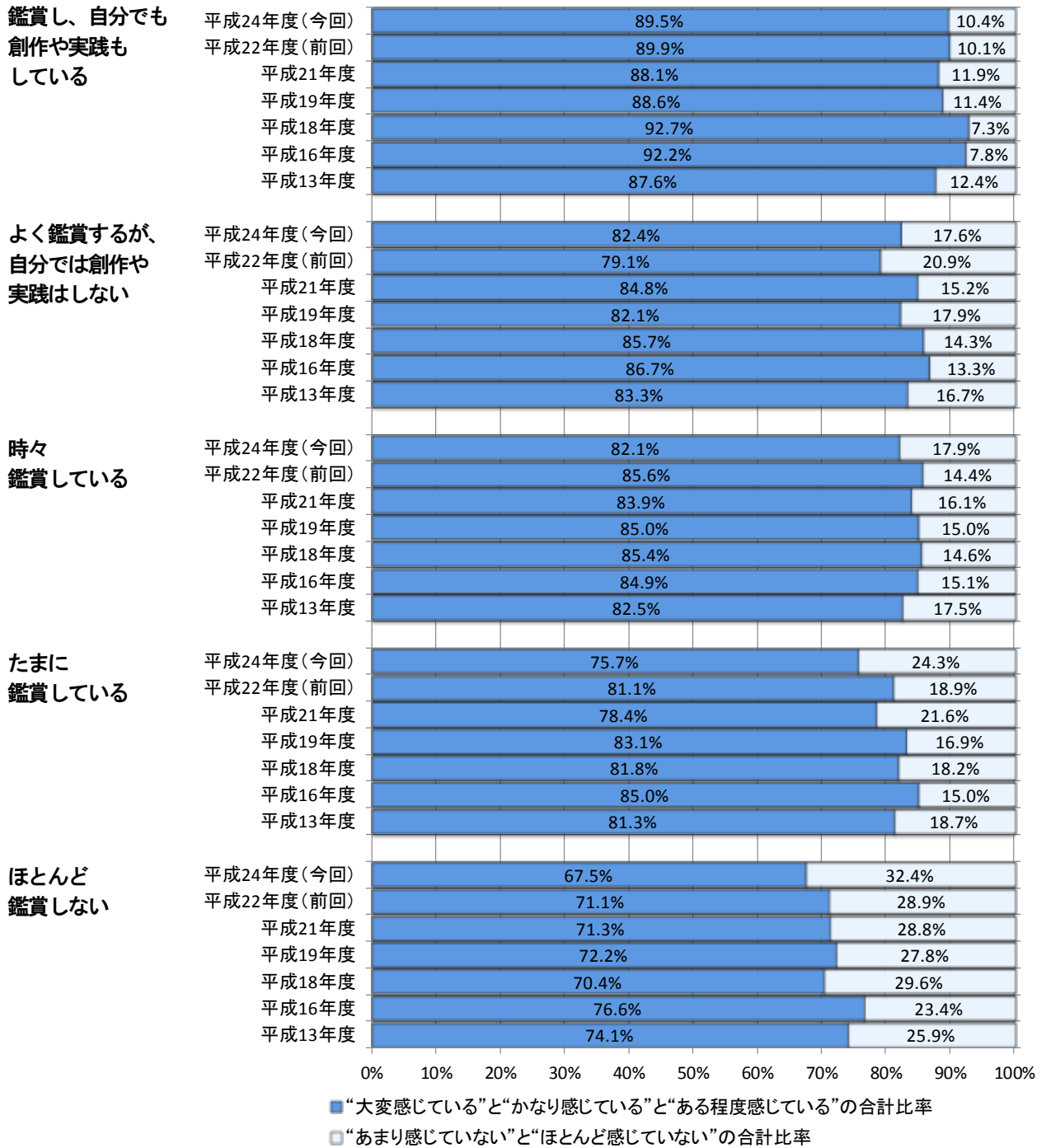
スポーツの実施状況別でみると、前回調査に比べ“以前も、現在もしていない”人で69.9%から86.4%と16.5ポイント増えています。

【生きがい感×スポーツの実施状況】



芸術文化の実施状況別でみると、鑑賞している人の生きがい感が鑑賞していない人に比べ高くなっています。

【生きがい感×芸術文化の実施状況】



指標

本人が健康であると思う人の割合

(1) 指標の説明

健康は、あらゆる社会活動と市民生活の基盤であり、病気や障害を持つことになっても、その人の置かれた状況に応じて健康な生活が送れることが必要となります。そこで、本人が健康であると思う人の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「個人・態度(認知)」

Q5 あなたは今、健康だと思いますか。(1つに○)

- | | | |
|-------------|-------------------|------------|
| 1 非常に健康だと思う | 3 どちらとも言えない | 5 健康でないと思う |
| 2 健康なほうだと思う | 4 あまり健康なほうではないと思う | |

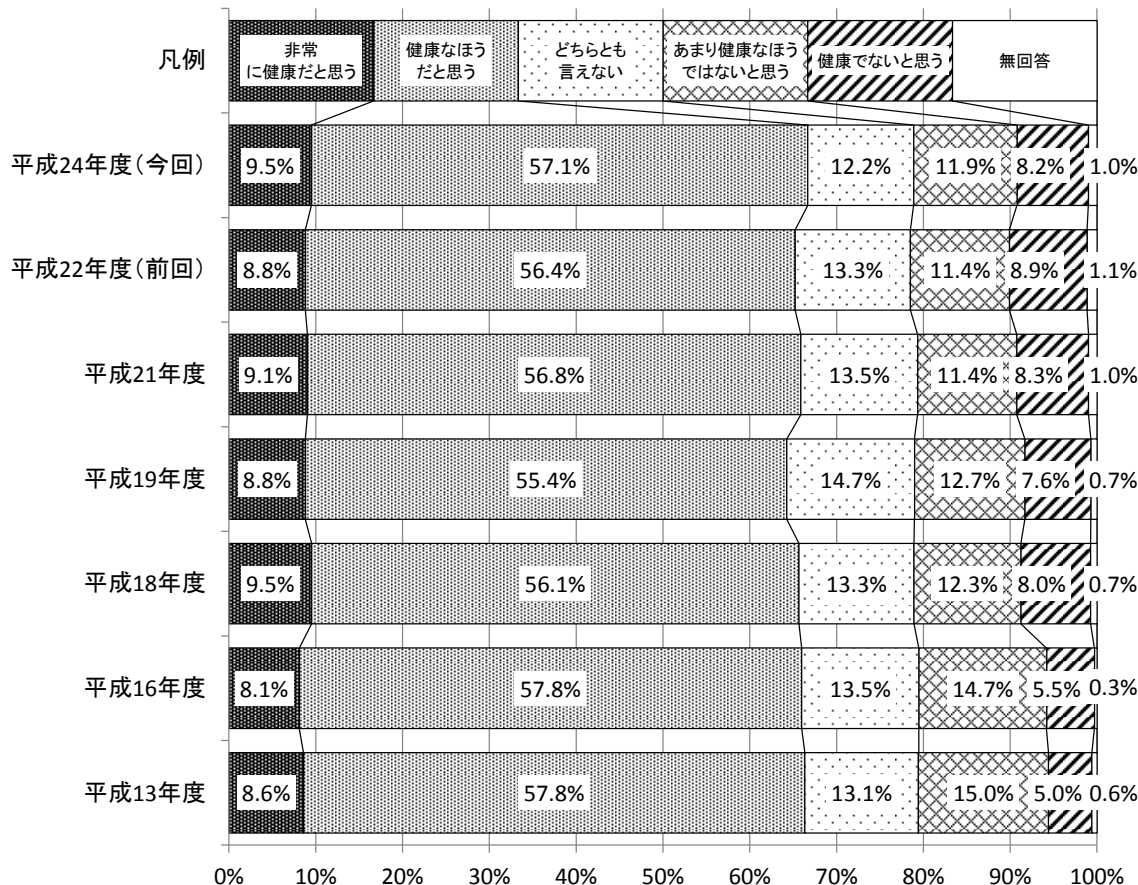
(3) 指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度
非常に健康だと思う	8.6%	8.1%	9.5%	8.8%	9.1%	8.8%	9.5%
健康なほうだと思う	57.8%	57.8%	56.1%	55.4%	56.8%	56.4%	57.1%
計	66.4%	65.9%	65.7%	64.3%	65.9%	65.2%	66.6%

(4) 指標の分析

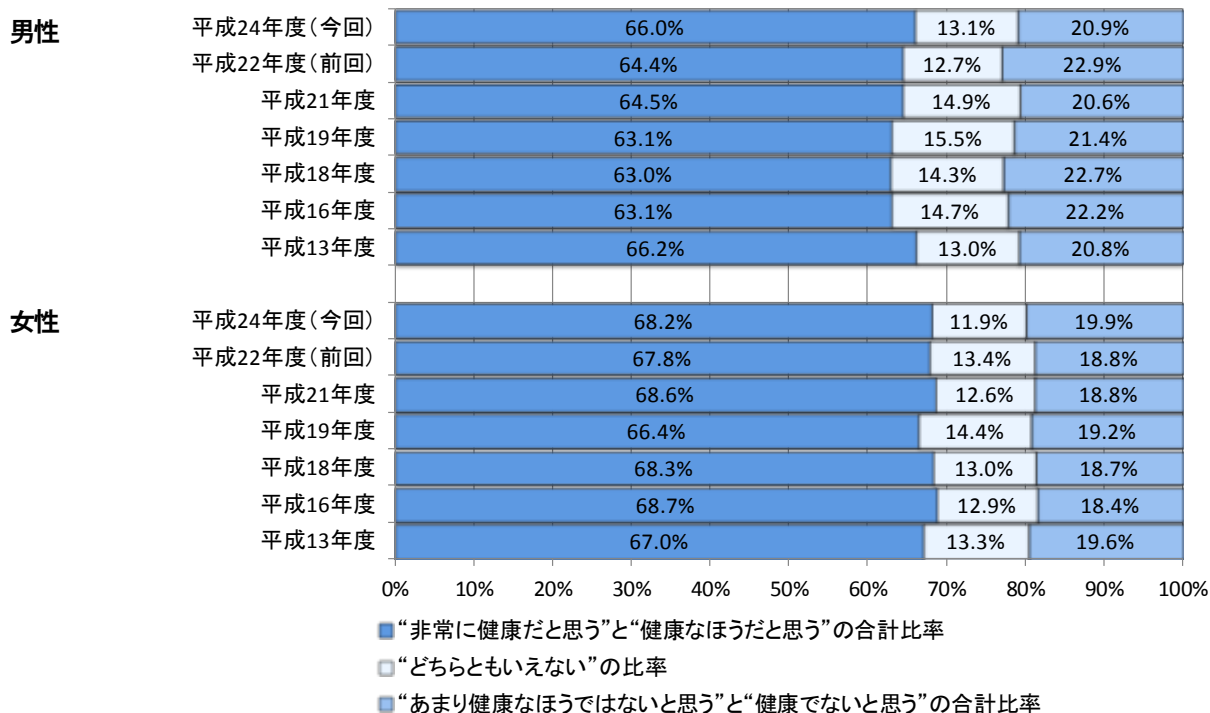
☆「健康である」と思う人がやや増加し、市民の3分の2を占めています。

主観的な自身の健康に対する評価をみると、前回調査と同様に 57.1%と半数以上が“健康なほうだと思う”と回答しており、“非常に健康だと思う”(9.5%)とあわせると、66.6%が自分を健康だと考えています。これまでの調査に比べ、やや増加しています。



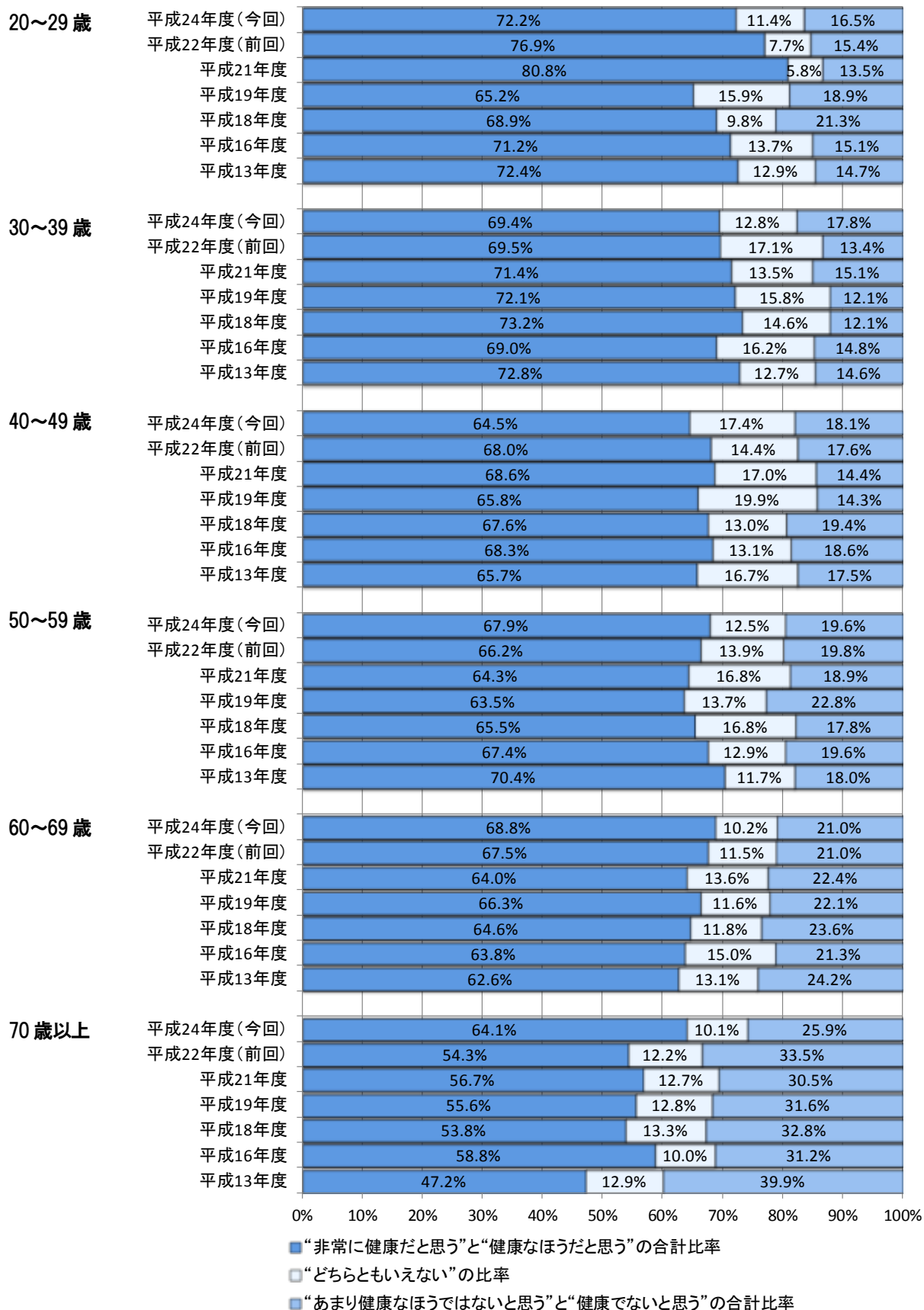
性別でみると、女性の方が健康であると思う人の割合がわずかに高くなっています。

【健康感×性別】



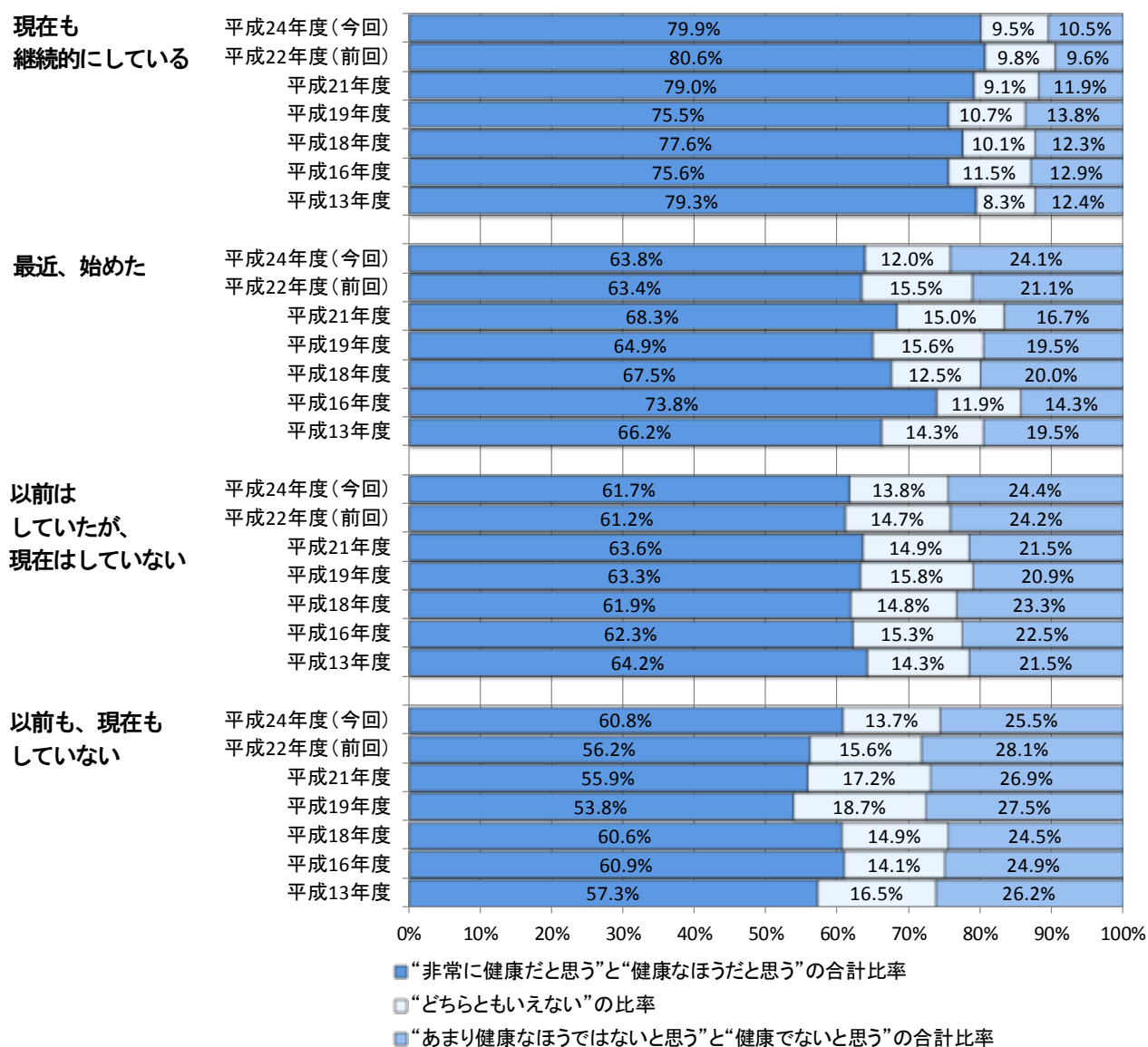
年齢別でみると、全年代で健康であると感じている人の割合は6割を超えています。特に20歳代では7割を超えています。また、70歳以上で健康であると感じている人の割合は54.3%から64.1%と前回調査と比べ9.8ポイント高くなっています。

【健康感×年齢】



スポーツの実施状況別でみると、スポーツを実施している人の方が健康であると感じている割合が高くなっています。

【健康感×スポーツの実施状況】



指標

多様な世代と交流する機会のある人の割合

(1) 指標の説明

生きがいを持って暮らせるように、多様な世代と交流する機会のある人の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「地域・態度(評価)」

Q20-ソ あなたが松戸市で生活する中で、次のことについてどの程度満足しているかについて、次のア～タの各項目ごとに、あなたの考えに最も近い番号それぞれ1つに○をつけてください。

項目	十分満足している	まあまあ満足している	普通である	やや不満である	きわめて不満である	わからない
ソ 多様な世代との交流	1	2	3	4	5	6

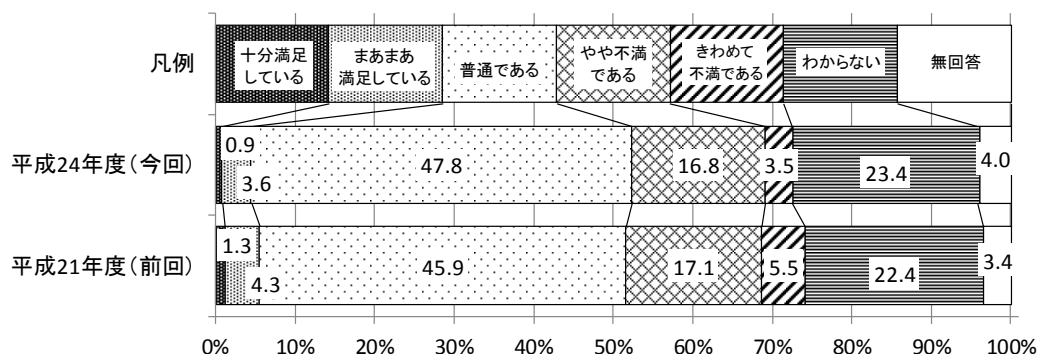
(3) 指標の現状

	平成21年度	平成24年度
十分満足している	1.3%	0.9%
まあまあ満足している	4.3%	3.6%
計	5.6%	4.5%

(4) 指標の分析

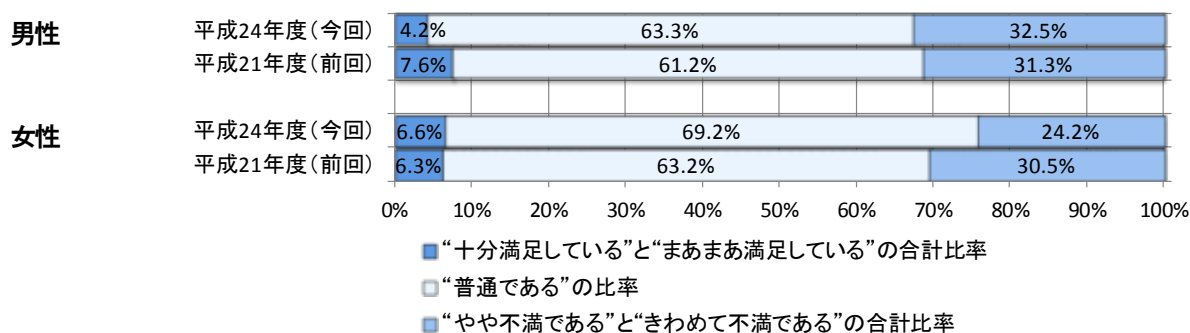
☆多様な世代との交流への満足度は前回調査と同様に1割未満

多様な世代との交流についての満足度は、4.5%と1割を下回っています。前回調査に比べ5.6%から4.5%とさらに減少しています。



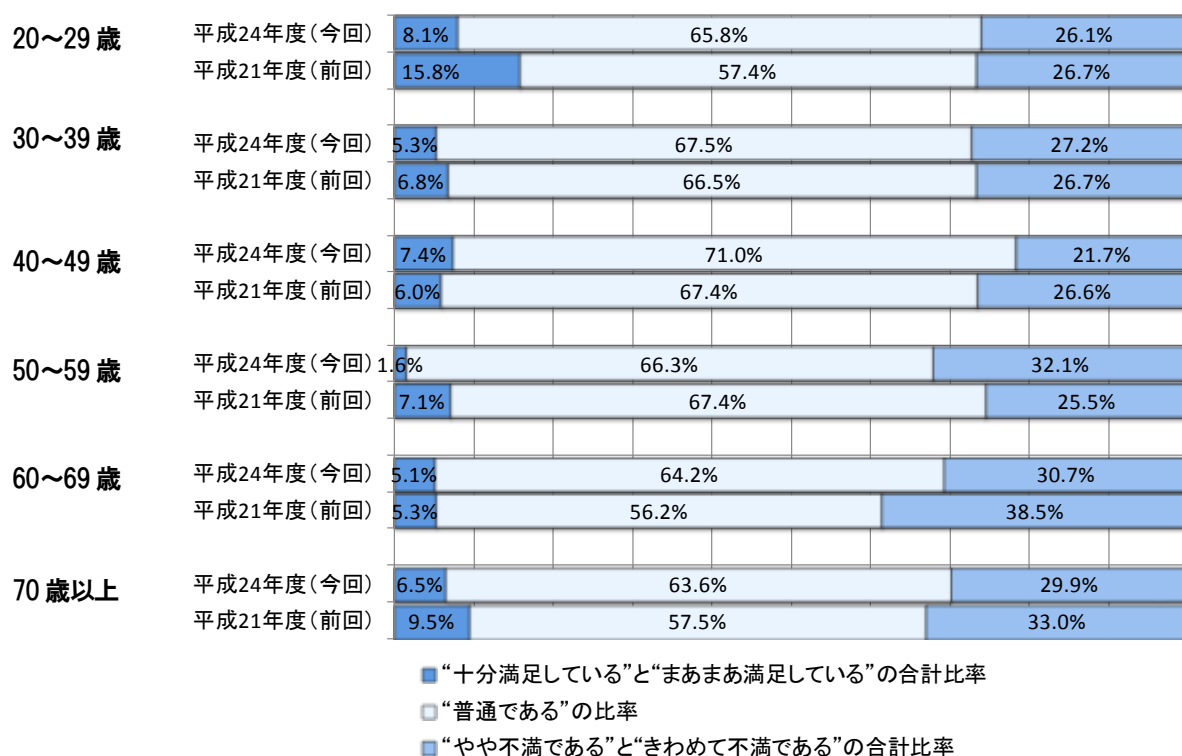
性別で見ると、男性(4.2%)よりも女性(6.6%)の方が多様な世代との交流に“満足している”という回答の割合が高くなっています。

【多様な世代との交流×性別】



年齢別にみると、40歳代で前回調査よりも多様な世代との交流に“満足している”人の割合が増えています。40歳代を除く全年代で“満足している”人の割合は減少しています。

【多様な世代との交流×年齢】



第2節 豊かな人生を支える福祉社会の実現

第2項 病気や障害、高齢などを理由に生活に支障があっても、自立した生活が送れるようにします

めざしたい将来像：

市民一人ひとりが、どう生きたいか、どう老いるかを考えて生活を送るようにします。そして、自助・共助・公助を高めて、個人の尊厳を保ちながら生きられ、誰もが自立した生活を安心して送れるまちを実現します。

指標

日常生活に対して不安を感じていない人の割合

(1) 指標の説明

社会的・経済的状況による生活保護世帯の増加、万が一のための救急医療体制、高齢化社会の進展による要介護者の増加等、市民を取り巻く社会環境のなかで、日常生活上のセーフティネット(安全網)を確立し、生活する上での安心感を把握する必要があると考えられます。そこで、日常生活に対して不安を感じていない人の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により逆説的に聞いています。「個人・態度(認知)」

Q6 あなたは今、生活の中で不安になったり、心配になったりすることがありますか。次の中から特に気になることをお答え下さい。(あてはまる番号全てに○)

- | | |
|-----------------------|------------|
| 1 自分の健康 | 8 子どもの将来 |
| 2 家族の健康 | 9 住居や住まい |
| 3 将来自分や家族が必要になったときの介護 | 10 財産や資産 |
| 4 現在の生活や家計 | 11 人との付き合い |
| 5 将来の生活や家計 | 12 生きがい |
| 6 仕事 | 13 その他() |
| 7 出産や子育て | 14 特にない |

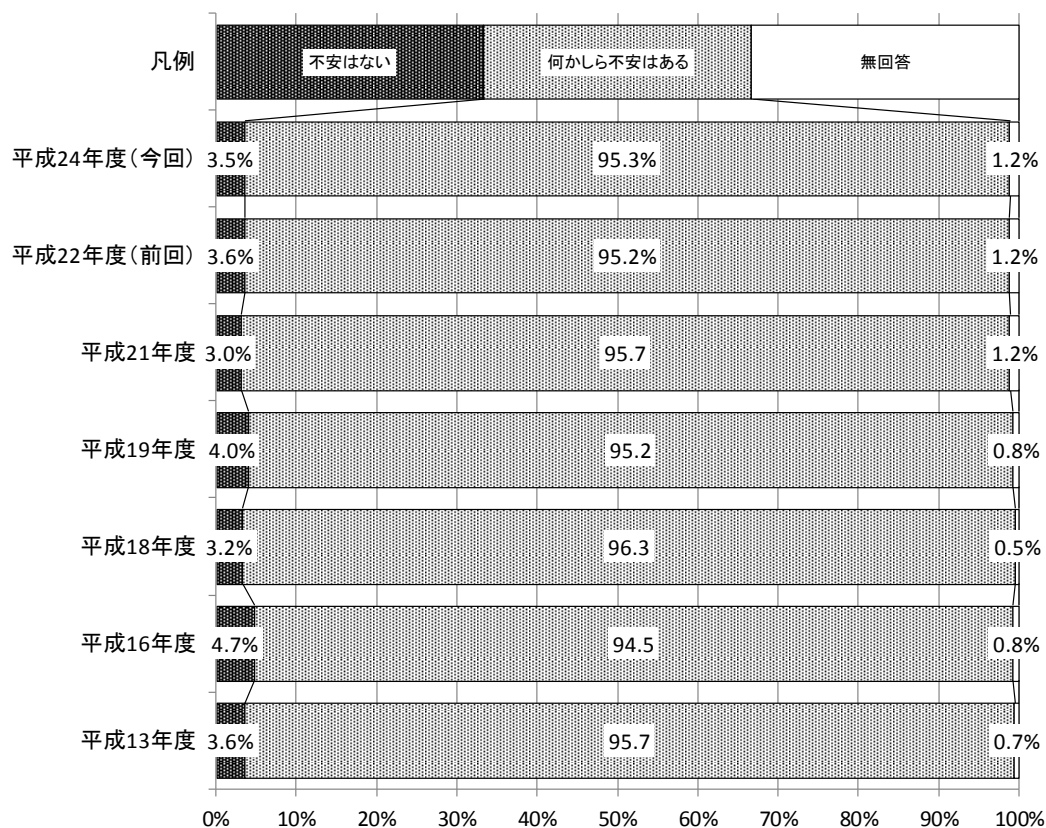
(3) 指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度
特になし	3.6%	4.7%	3.2%	4.0%	3.0%	3.6%	3.5%

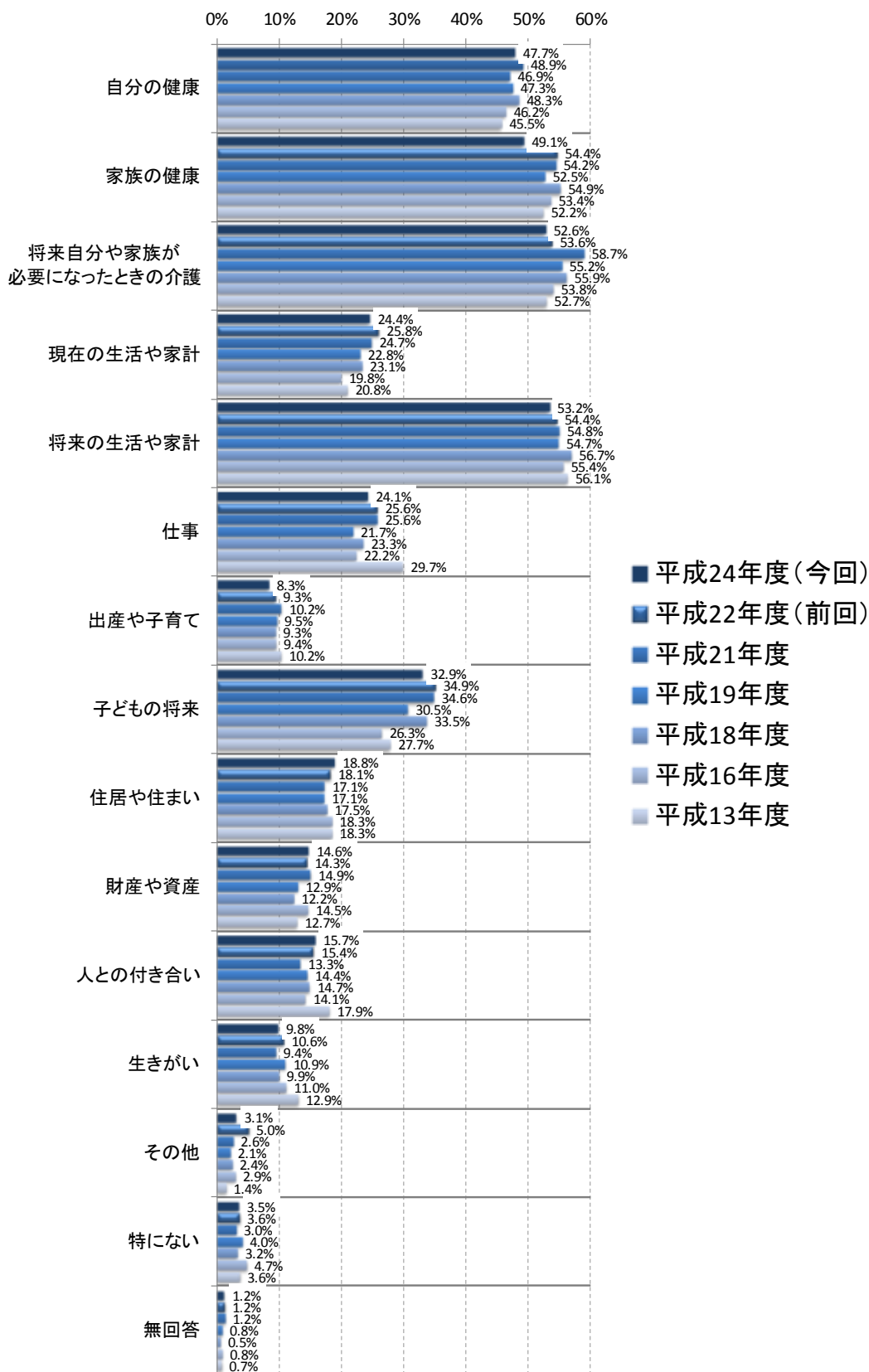
(4) 指標の分析

☆日常生活に不安はないとする人の割合に大きな変化はみられません。

“日常生活に不安はない”という回答は 3.5%でこれまでの調査と大きな差はみられません。大半は何かしらの不安を感じており、不安を感じている人の割合にも大きな変化はみられません。

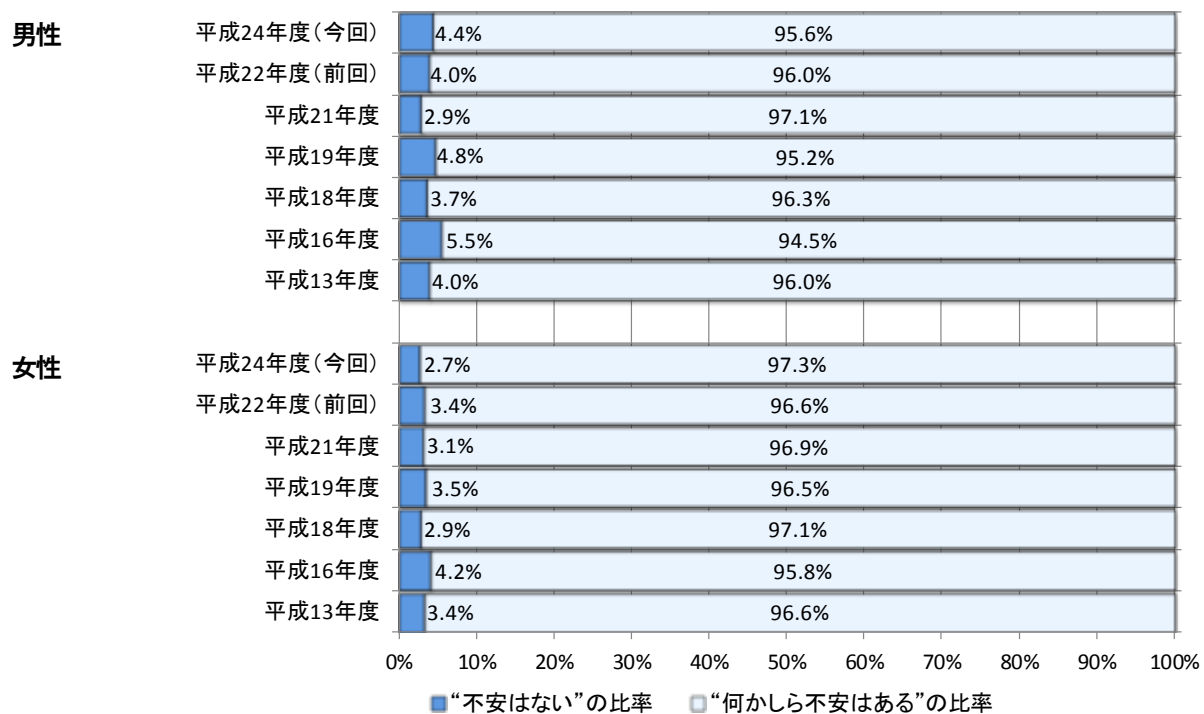


不安や心配なこととしては、“将来の生活や家計” (53.2%)、“将来自分や家族が必要になったときの介護” (52.6%)、“家族の健康” (49.1%)、“自分の健康” (47.7%)などへの回答が多くなっています。

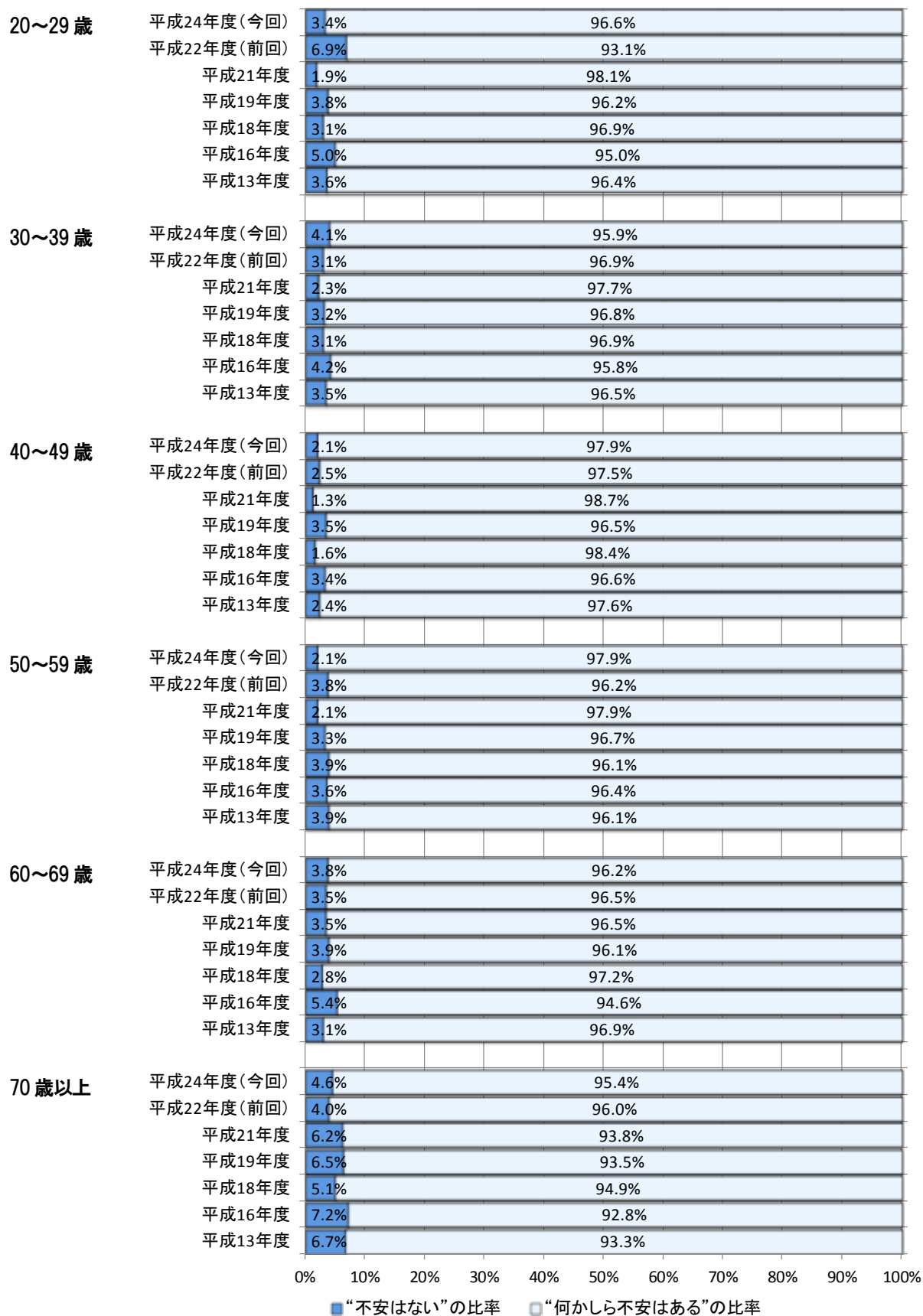


性別や年齢別でも、大半の人は何かしらの不安を抱えている結果となっています。

【安心感×性別】



【安心感×年齢】



第2節 豊かな人生を支える福祉社会の実現

第3項 安心して子どもを生み、健やかに育てることができるようにします

めざしたい将来像：

地域ぐるみで子育てを支援し様々なサービスが選択できるようにすることによって、子育てしやすく、子どもの笑顔があふれる街まつどを実現します。

指標

子育ての満足度

(1) 指標の説明

子育てしやすく、子どもの笑顔があふれる街にするには、子育て支援体制の充実が最も重要な課題のひとつとなっています。そこで、子育ての満足度を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により出産や子育てに不安や心配がない人の割合を逆説的に取得しています。「個人・態度(認知)」

Q6 あなたは今、生活の中で不安になったり、心配になったりすることがありますか。次の中から特に気になることをお答え下さい。(あてはまる番号全てに○)

- | | |
|-----------------------|------------|
| 1 自分の健康 | 8 子どもの将来 |
| 2 家族の健康 | 9 住居や住まい |
| 3 将来自分や家族が必要になったときの介護 | 10 財産や資産 |
| 4 現在の生活や家計 | 11 人との付き合い |
| 5 将来の生活や家計 | 12 生きがい |
| 6 仕事 | 13 その他() |
| 7 出産や子育て | 14 特にない |

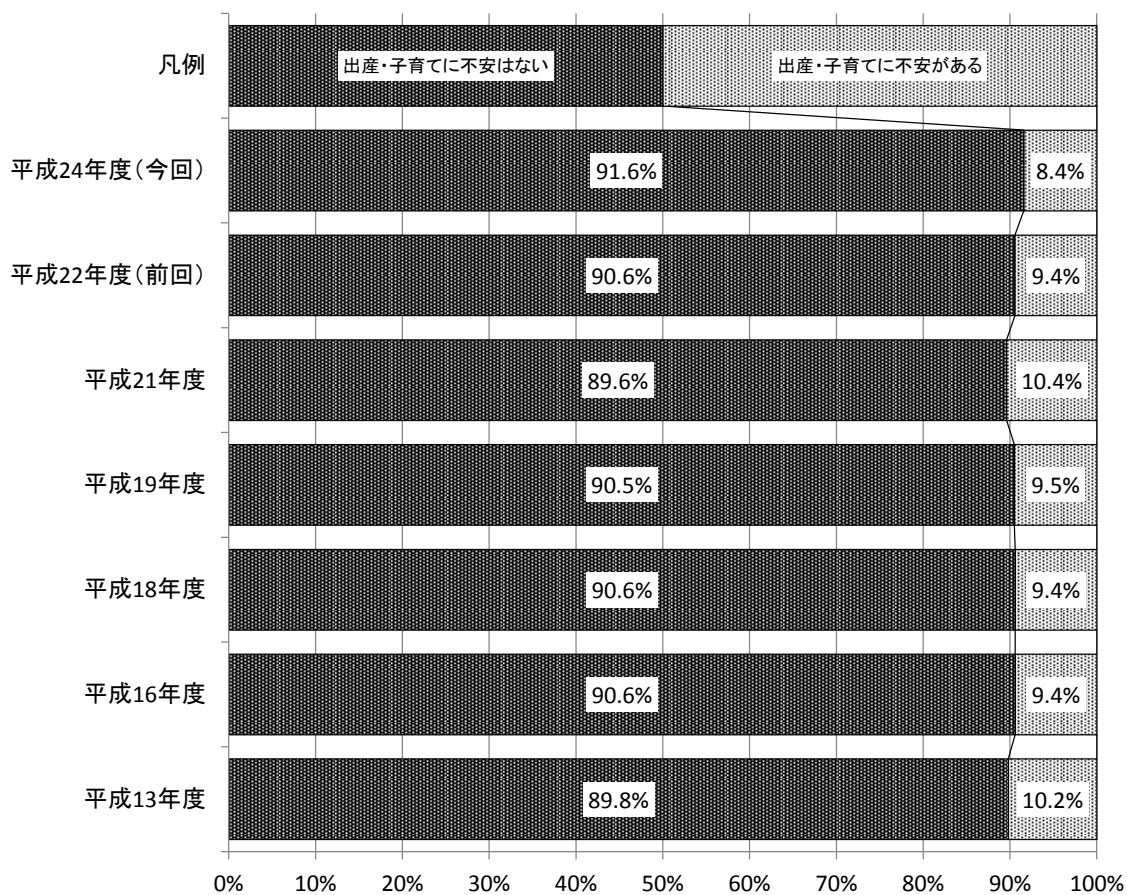
(3) 指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度
出産や子育てに不安や心配がない	89.8%	90.6%	90.6%	90.5%	89.6%	90.6%	91.6%

(4) 指標の分析

☆**出産や子育てについて不安を感じない人が大多数を占めています。**

出産や子育てに対して不安を感じている人は前回調査に比べやや減少しています。



第3節 次代を育む文化・教育環境の創造

第2項 生涯学習やスポーツを楽しむことができるようにします

めざしたい将来像：

生涯を通じて学んだり、スポーツをする楽しさを味わい続けられるように、自主的に参加しやすい場所や機会を増やすことで、年齢に関わらず心身ともにいきいきと暮らせるまちを実現します。

指標

学習活動を行っている市民の割合

(1) 指標の説明

地域づくりの基盤となる生涯学習社会の実現に向けて、学習活動を行っている市民の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により期間を限定して直接的に聞いています。「個人・行動」

Q8 あなたは日頃、特定の関心があるテーマについて、自主的に学習活動をしていることがありますか。過去1年間を振り返って、学習活動に取り組んだ日数は平均するとどのくらいですか。

(1つに○)

- | | | |
|----------|----------|--------|
| 1 ほぼ毎日 | 3 月に数日ほど | 5 全くない |
| 2 週に数日ほど | 4 年に数日ほど | |

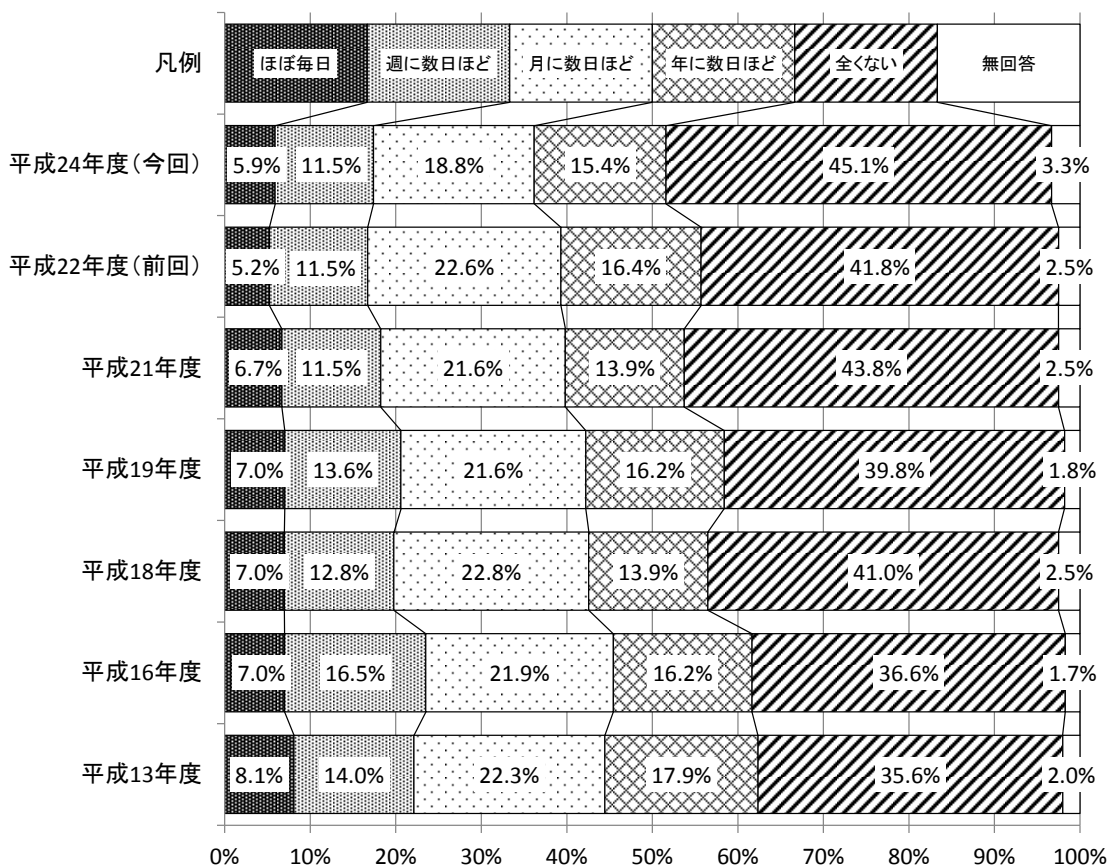
(3) 指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度
ほぼ毎日	8.1%	7.0%	7.0%	7.0%	6.7%	5.2%	5.9%
週に数日ほど	14.0%	16.5%	12.8%	13.6%	11.5%	11.5%	11.5%
月に数日ほど	22.3%	21.9%	22.8%	21.6%	21.6%	22.6%	18.8%
計	44.4%	45.4%	42.6%	42.2%	39.8%	39.3%	36.2%

(4) 指標の分析

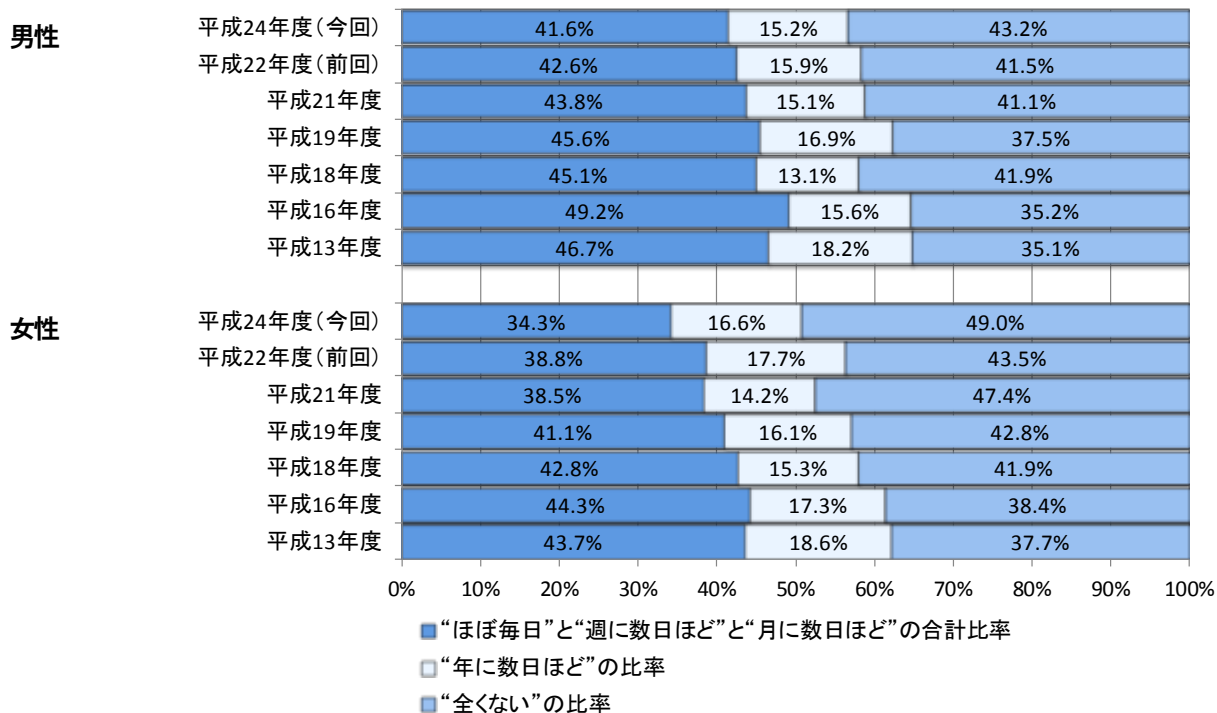
☆定期的に学習活動を行う人は3割以上を占めています。

月に数日以上自主的に学習活動を行う人は36.2%と3割以上を占めています。月に数日以上の定期的な学習活動を行う人の割合は減少傾向を示しています。



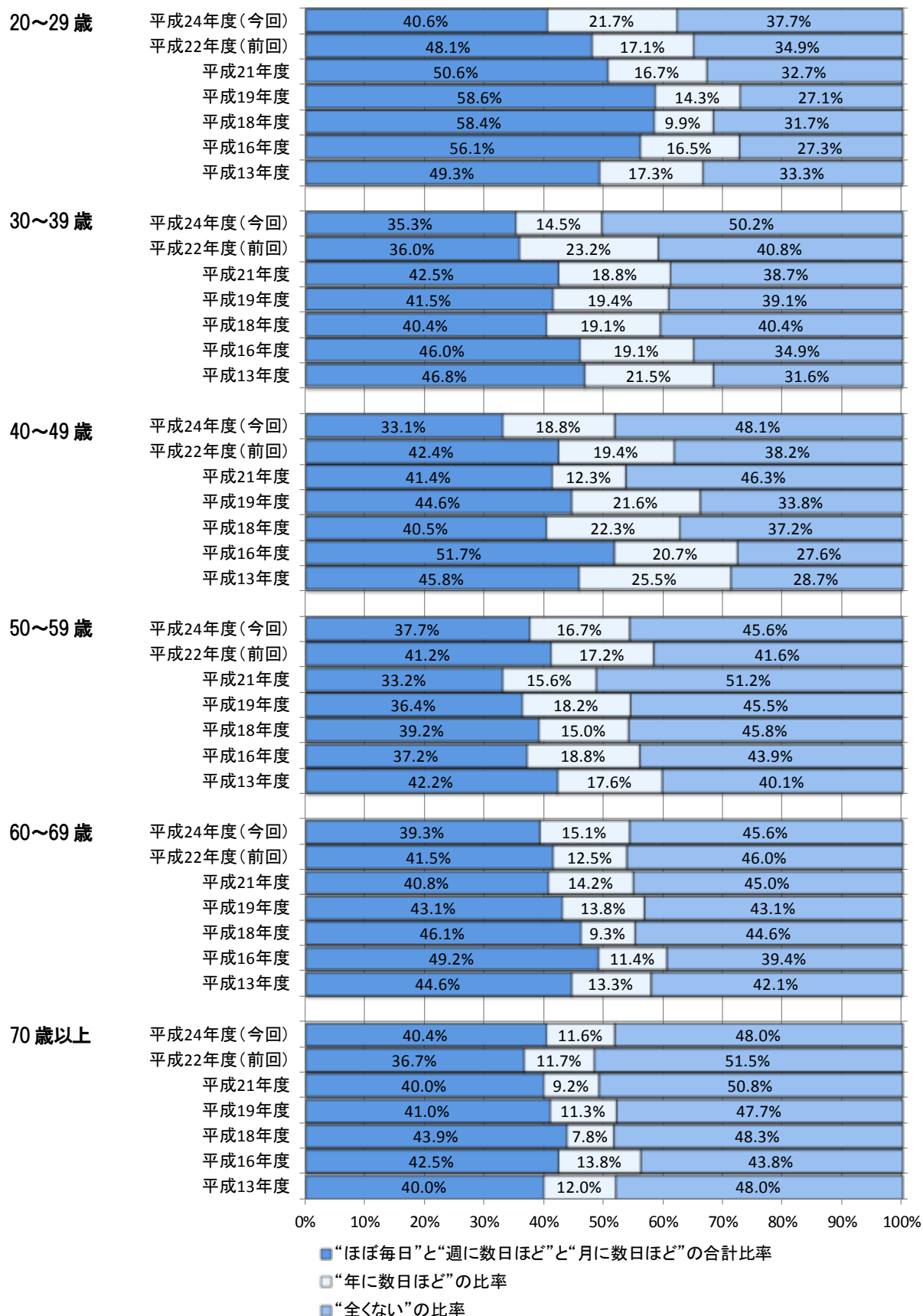
性別でみると、前回調査と同様に女性よりも男性の方が定期的に学習活動をしている人の割合が高くなっています。女性では“全くない”が43.5%から49.0%と5.5ポイント増えています。

【学習活動×性別】



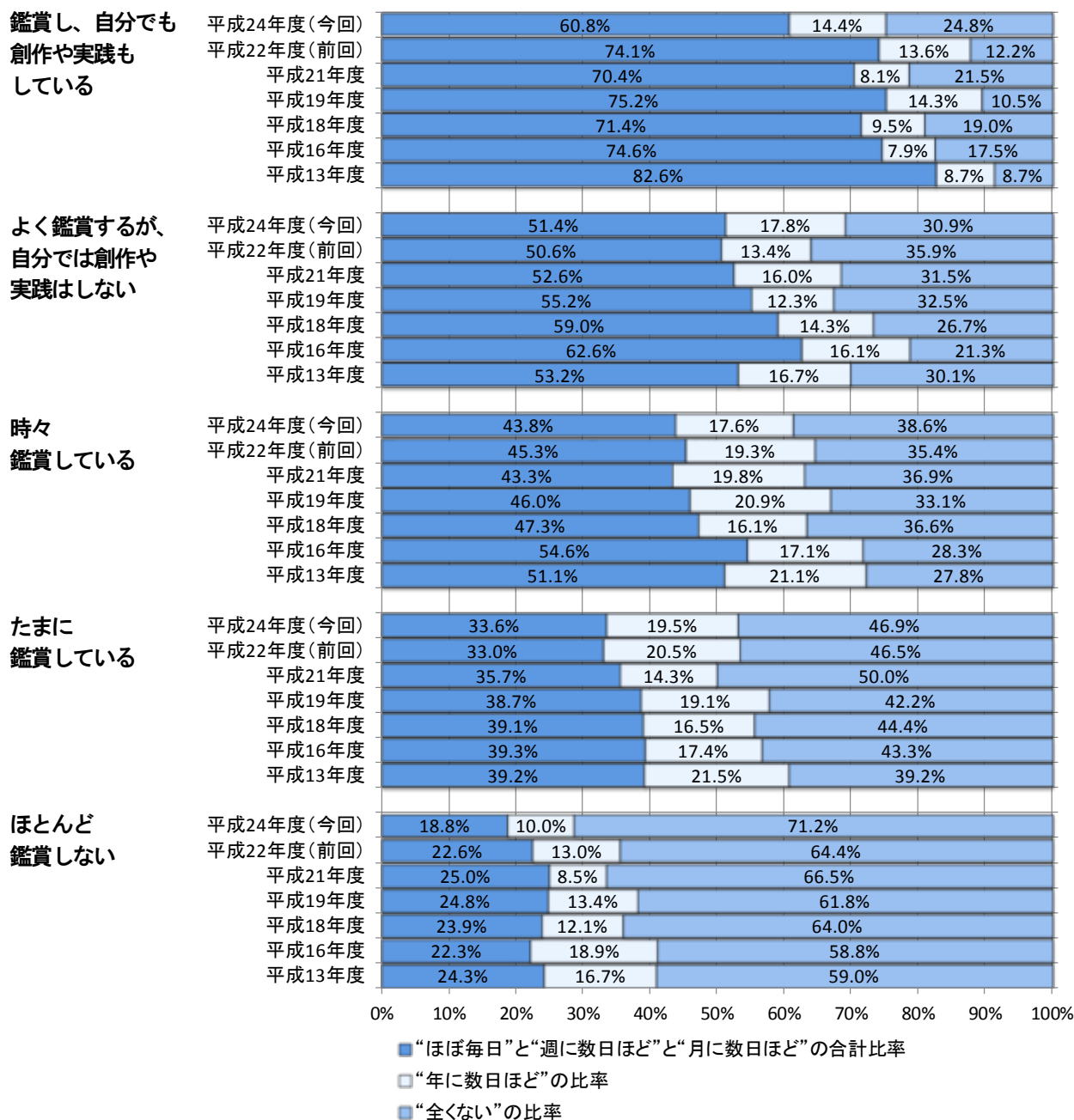
年齢別にみると、定期的に学習活動を行っている人は20歳代で40.6%と最も高くなっています。前回調査に比べ、70歳以上以外の年代では減少しています。特に30歳代では“全くない”の割合が50.2%と5割を超えています。

【学習活動×年齢】



芸術文化活動別にみると、芸術文化活動を行っている人の方が定期的に学習活動をしている人の割合が高くなっています。前回調査に比べ、“鑑賞し、自分でも創作や実践もしている”人で定期的に学習活動をしている人の割合が74.1%から60.8%と13.3ポイント減少しています。

【学習活動×芸術文化の実施状況】



指標

学習活動の成果を地域社会で活かしている市民の割合

(1) 指標の説明

地域づくりの基盤となる生涯学習社会の実現に向けて、学習活動の成果を地域社会で活かしている市民の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「個人・態度(認知)」

Q9 あなたがこれまでに、自主的に取り組んだ学習活動の成果が活かされていると思いますか。次の中から、活かされていると思う番号全てに○をつけてください

- | | |
|---------------------|---------------------------|
| 1 仕事、職業に活かされている | 5 親睦を深めたり、友人を得るときに活かされている |
| 2 自分自身の向上に活かされている | |
| 3 家庭や家族に活かされている | 6 その他 () |
| 4 地域活動や社会活動に活かされている | 7 活かされていない |

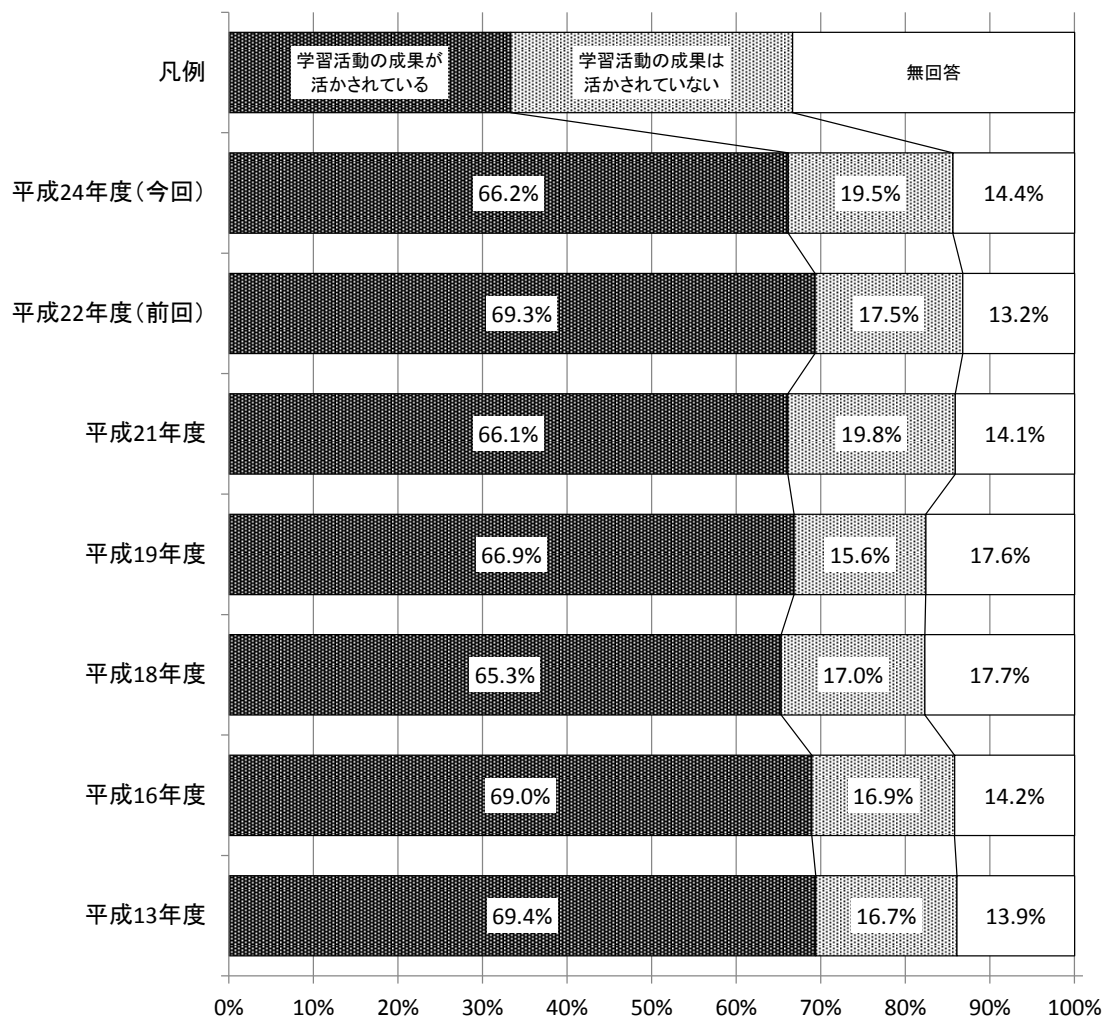
(3) 指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度
成果が活かされている	69.4%	69.0%	65.3%	66.9%	66.1%	69.3%	66.2%

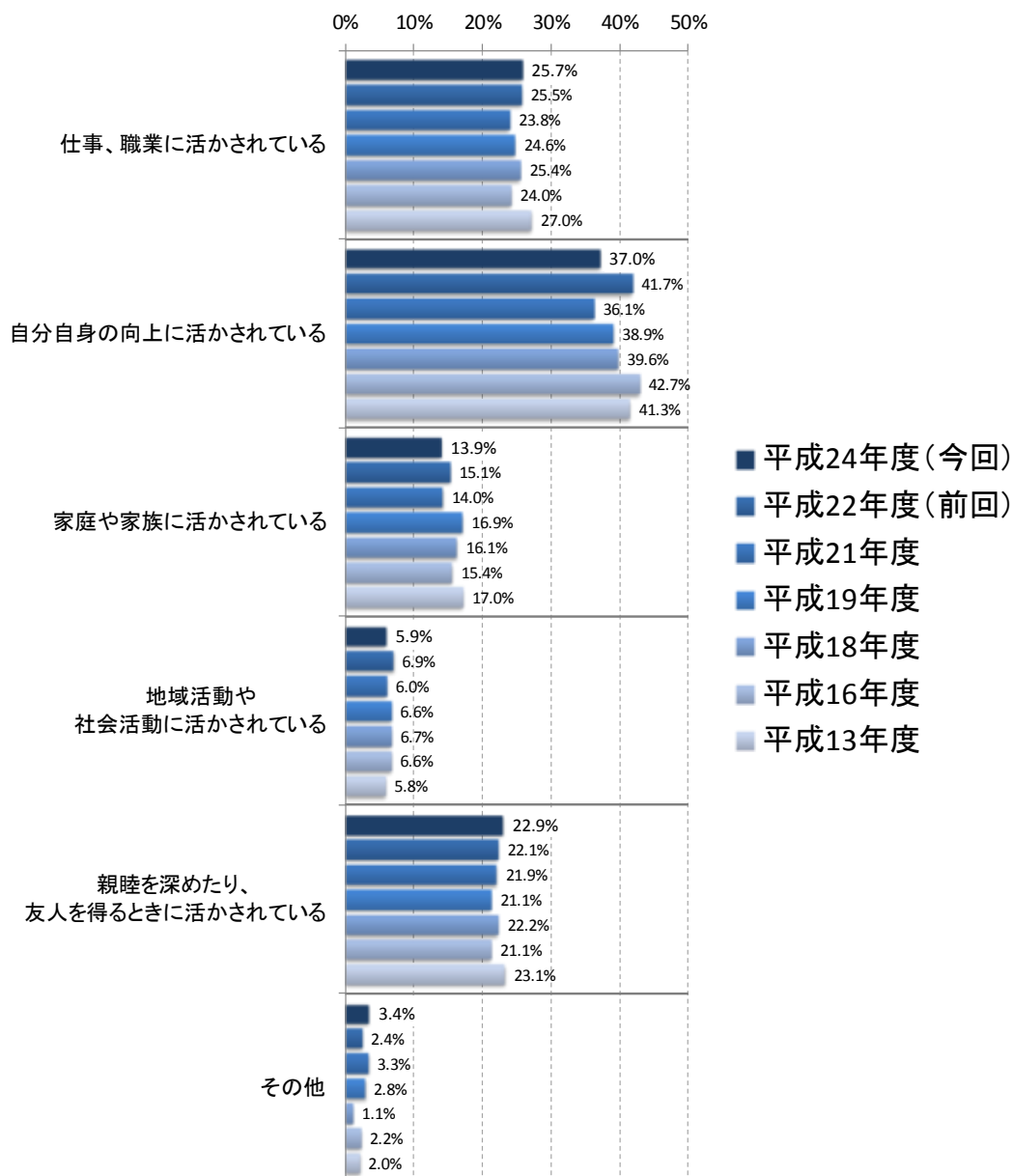
(4) 指標の分析

☆学習活動の成果を活かす人の割合は、やや減少。

自主的に取り組んだ学習活動の成果が何らかの形で活かされているかどうかについて聞いたところ 66.1%が“学習活動の成果が活かされている”と回答しており、前回調査よりも回答の割合がやや減少しています。

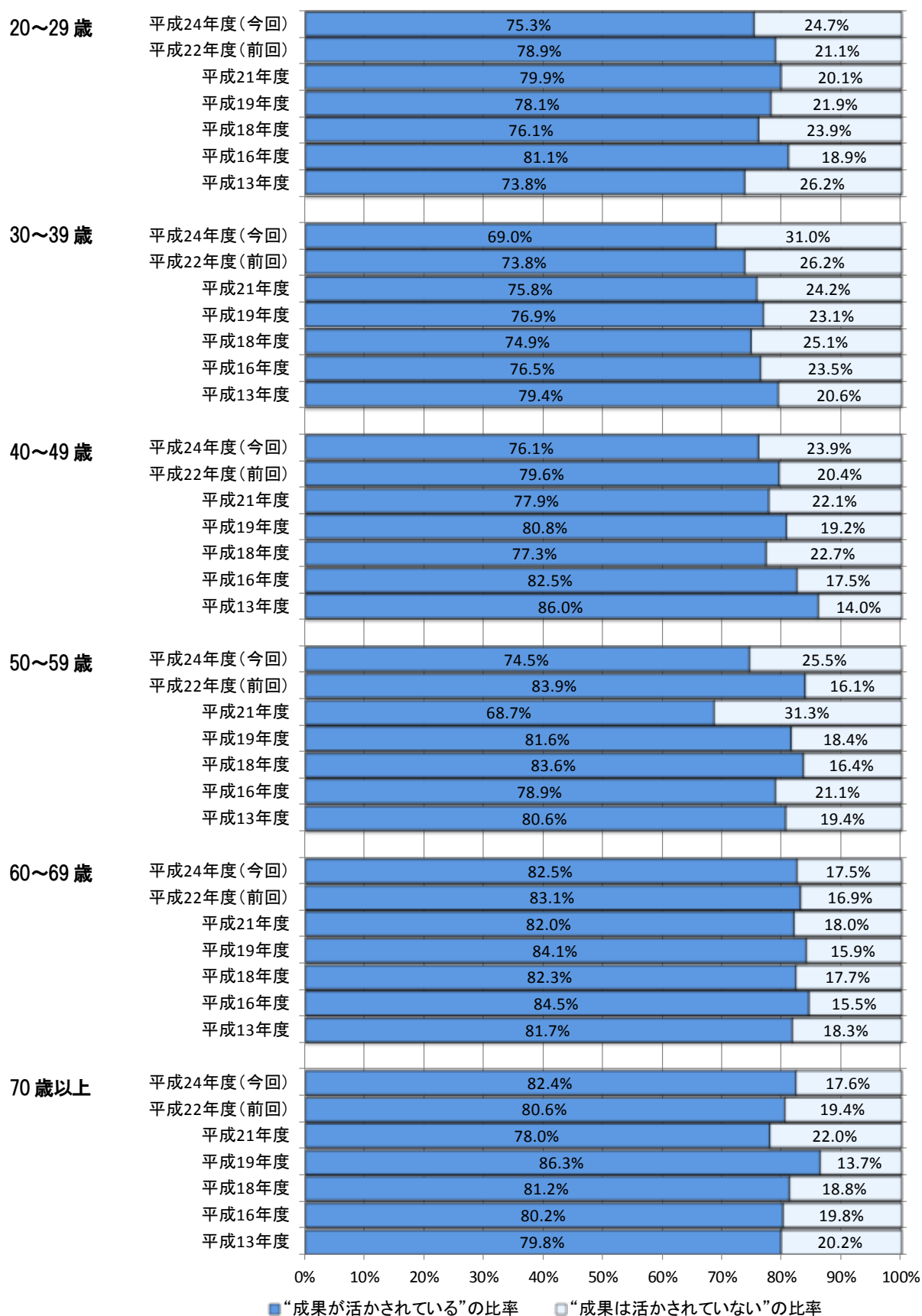


自主的に取り組んだ学習活動が活かされていることとしては、“自分自身の向上に活かされている”(37.0%)が最も多くなっていますが、前回調査と比べて回答の割合が低くなっています。



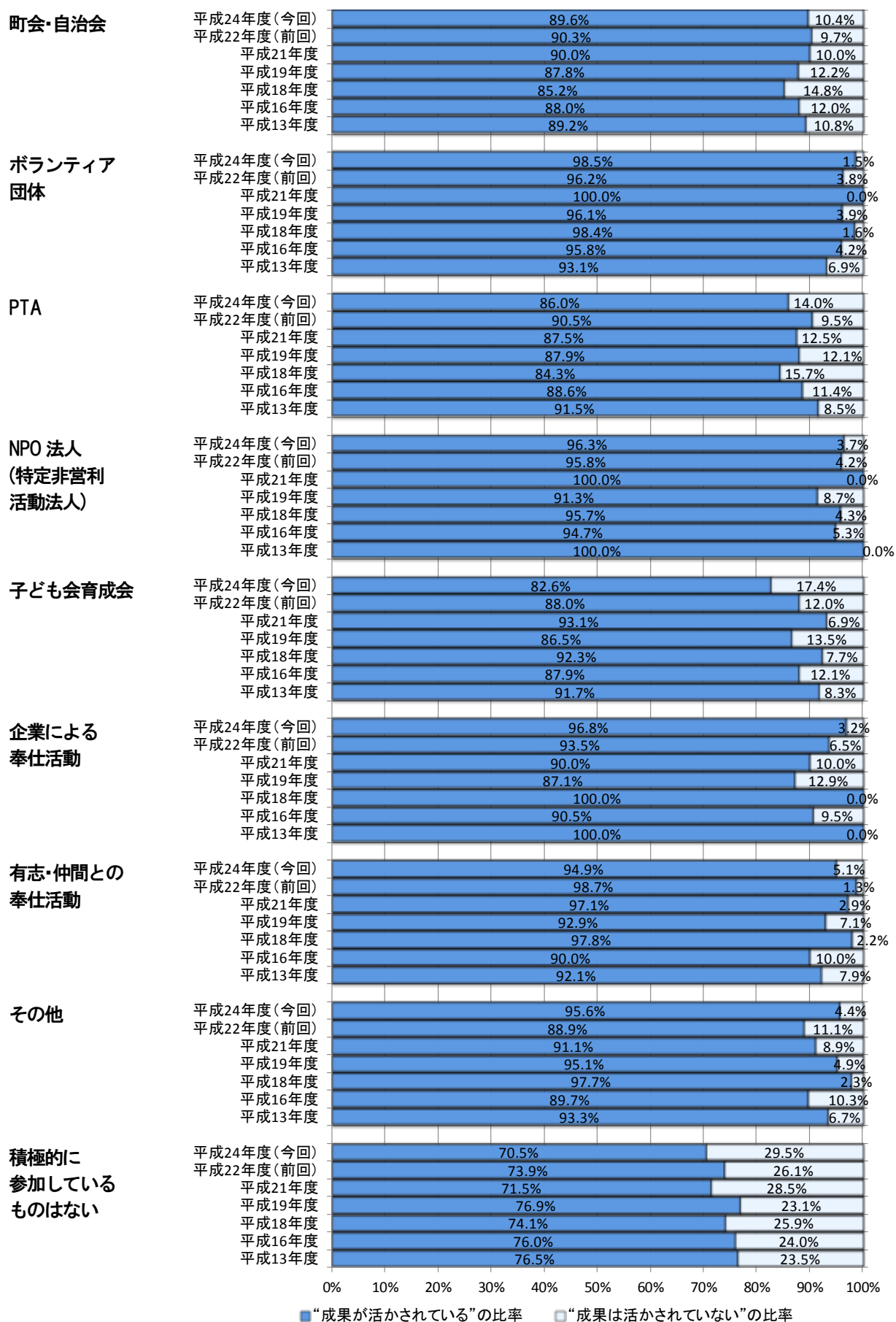
年齢別にみると、自主的に取り組んだ学習活動の成果が活かされていると感じている人は、70歳以上を除く全年代でわずかに減少しています。

【学習活動の成果×年齢】



地域活動への参加別にみると、前回調査と同様に何らかの地域活動に参加している人の方が、自主的に取り組んだ学習活動の成果が活かされていると感じている割合が高くなっています。

【学習活動の成果×地域活動への参加】



指標

スポーツを行なっている市民の割合

(1) 指標の説明

スポーツをすることで、身体・精神の両面に良好な影響を与え、ストレスの多い現代社会において人生をより豊かにします。そこで、スポーツの振興度合を把握するため、スポーツを行なっている市民の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「個人・行動」

Q13 あなたは日頃、運動・スポーツをしていますか。(1つに○)

- | | |
|---------------|---------------------|
| 1 現在も継続的にしている | 3 以前はしていたが、現在はしていない |
| 2 最近、始めた | 4 以前も、現在もしていない |

(3) 指標の現状

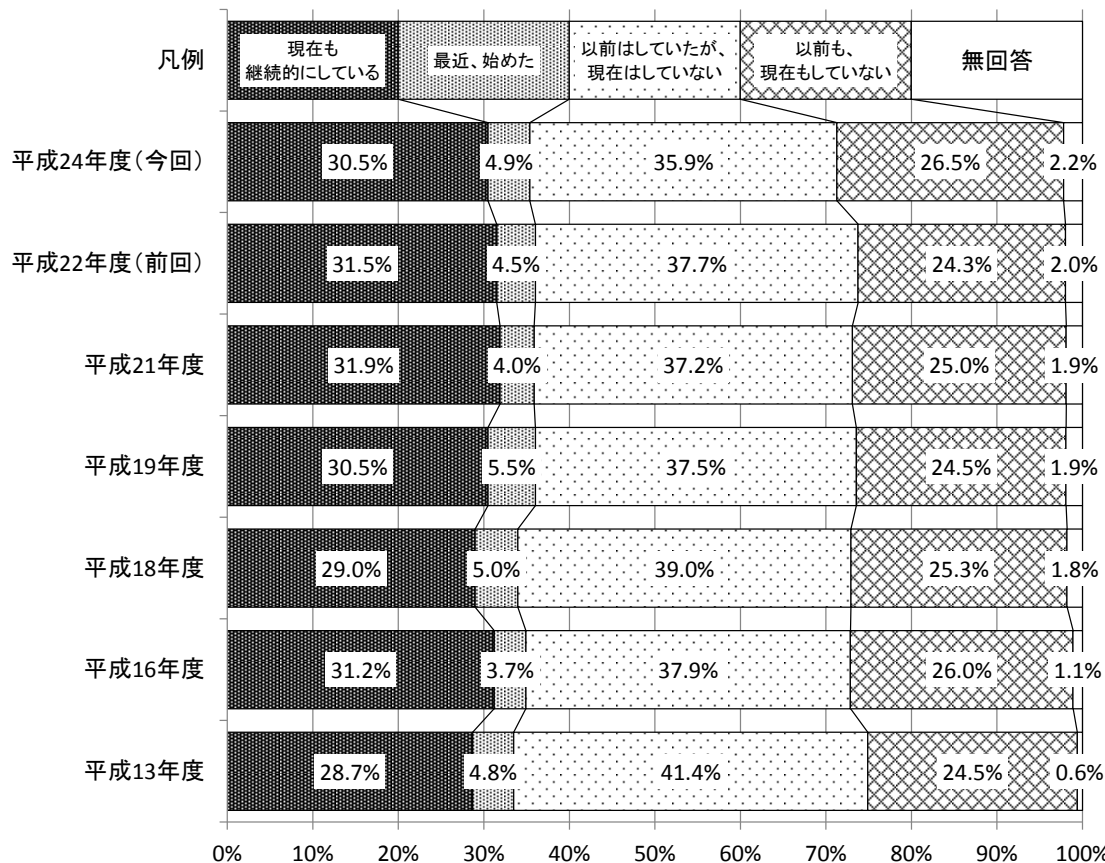
	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度
現在も継続的にしている	28.7%	31.2%	29.0%	30.5%	31.9%	31.5%	30.5%
最近、始めた	4.8%	3.7%	5.0%	5.5%	4.0%	4.5%	4.9%
計	33.5%	34.9%	34.0%	36.0%	35.9%	36.1%	35.4%

(4) 指標の分析

☆日頃、運動・スポーツをしている人は35.4%。

日頃の運動・スポーツの状況についてみると、“現在も継続的にしている”(30.5%)、“最近、始めた”(4.9%)という運動・スポーツをしている人の割合の合計は35.4%となっています。

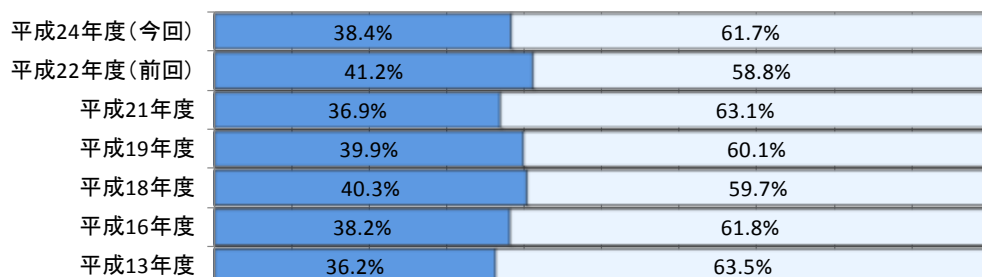
運動・スポーツをしている人の割合は、前回調査に比べわずかに減少しています。



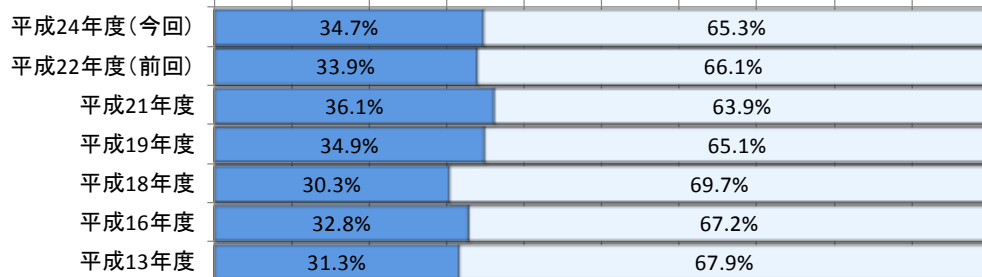
性別でみると、前回調査と同様に女性より男性の方がスポーツ活動をしている割合が高くなっています。

【スポーツ活動×性別】

男性



女性

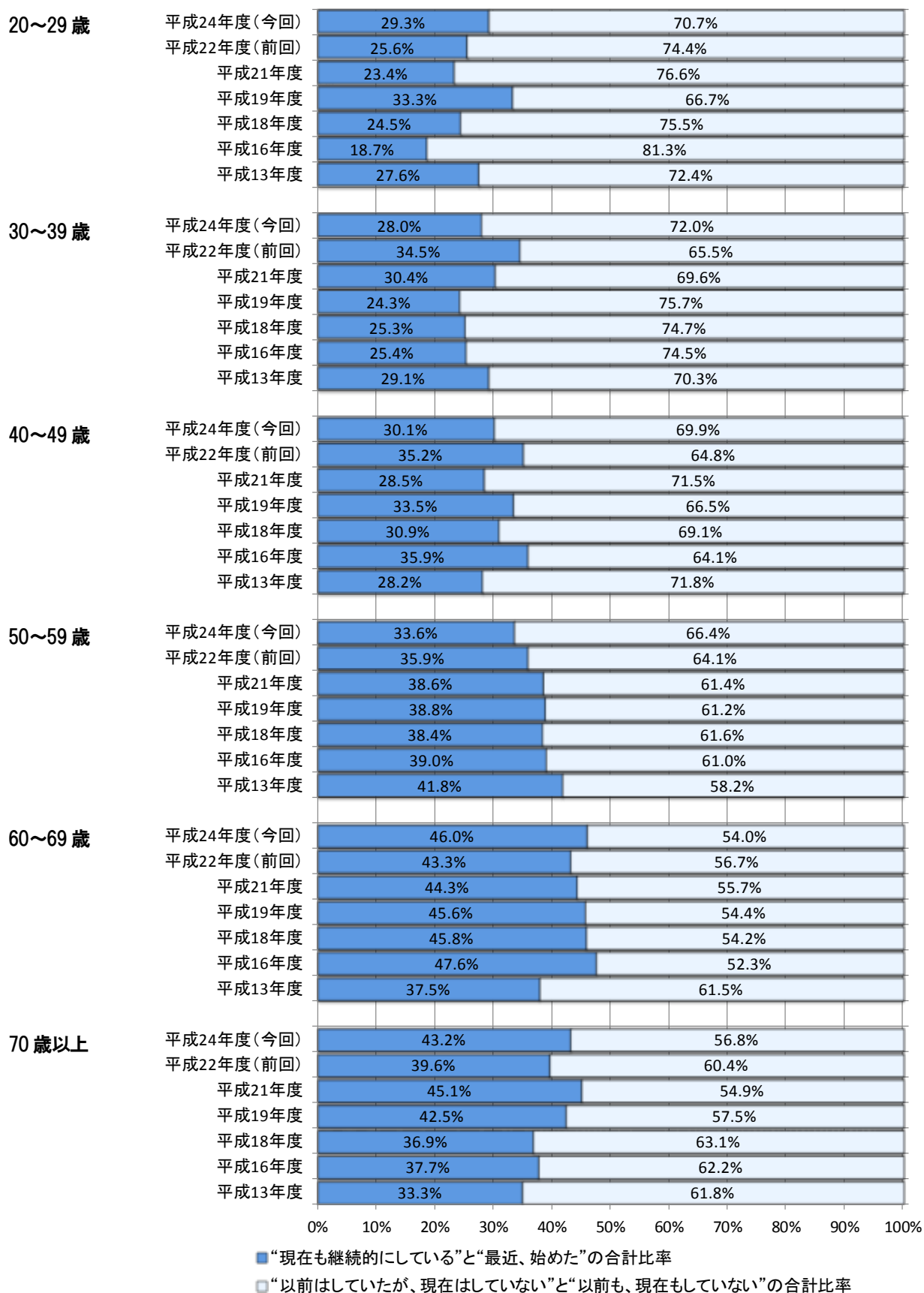


■ “現在も継続的にしている”と“最近、始めた”の合計比率

□ “以前はしていたが、現在はしていない”と“以前も、現在もしていない”の合計比率

年齢別にみると、20歳代、30歳代、40歳代、50歳代では、スポーツ活動を行っている人が3割前後であり、60歳代、70歳以上では4割を超えています。前回調査と比べ20歳代、60歳代、70歳以上でスポーツ活動を行っている人の割合が増えています。

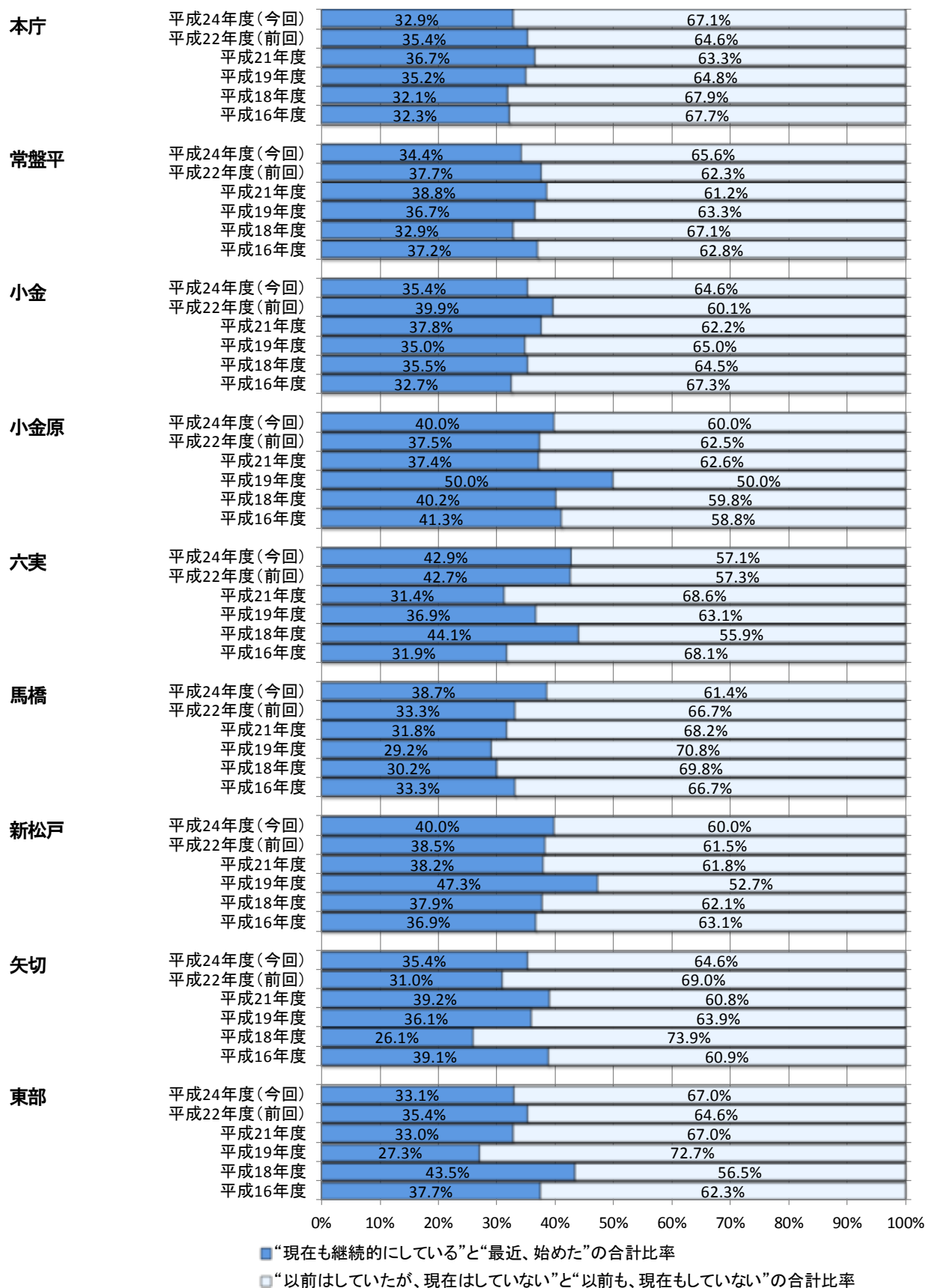
【スポーツ活動×年齢】



地区別にみると、スポーツ活動を行っている人は、六実地区、小金原地区、新松戸地区で4割以上となっています。

馬橋地区では前回調査に比べ、スポーツ活動を行っている人は33.3%から38.7%と5.4ポイント増えています。

【スポーツ活動×地区】



第3節 次代を育む文化・教育環境の創造

第3項 国際的な広い視野と平和を愛する心が育まれ、松戸の歴史や文化・伝統が保持され、後世に伝えられるようにします

めざしたい将来像：

平和を大切に、松戸を愛する人を増やすため、日本人も外国人も皆が松戸の歴史や文化・伝統が身近に感じられる工夫をこらして、誰もが誇りのもてる”ふるさと松戸”を実現します。

指標

史跡や神社、仏閣など歴史・伝統文化遺産の満足度

(1) 指標の説明

松戸の歴史、文化身近に感じ、満足している人の割合を把握するため、史跡や神社、仏閣など歴史など・伝統文化遺産の満足度を指標にします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「地域・態度(評価)」

Q20-ス あなたが松戸市で生活する中で、次のことについてどの程度満足しているかについて、次のア～タの各項目ごとに、あなたの考えに最も近い番号それぞれ1つに○をつけてください。

項目	十分満足している	まあまあ満足している	普通である	やや不満である	きわめて不満である	わからない
ス 史跡や神社仏閣など歴史・伝統文化遺産	1	2	3	4	5	6

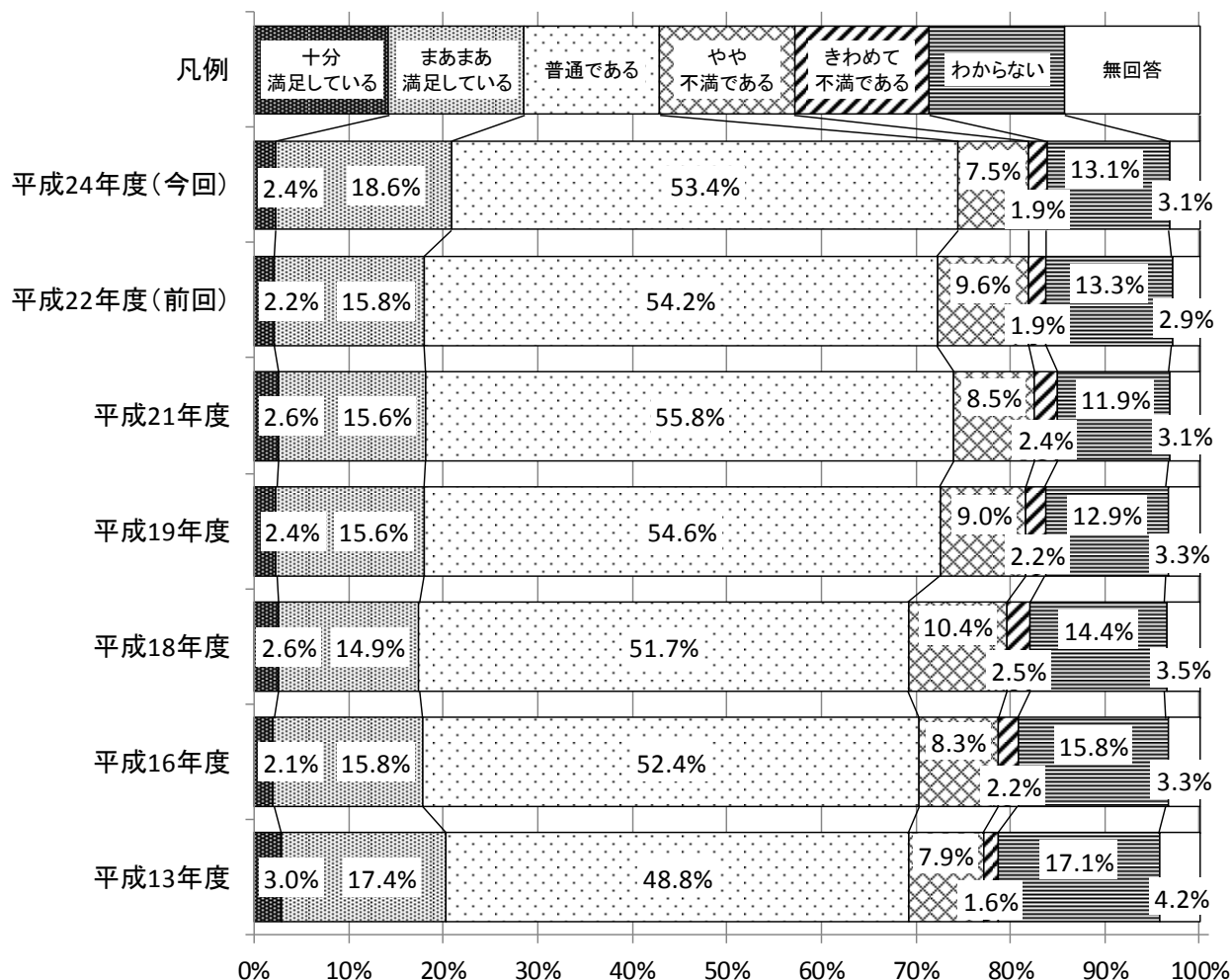
(3) 指標の現状

	平成13年度	平成16年度	平成18年度	平成19年度	平成21年度	平成22年度	平成24年度
十分満足している	3.0%	2.1%	2.6%	2.4%	2.6%	2.2%	2.4%
まあまあ満足している	17.4%	15.8%	14.9%	15.6%	15.6%	15.8%	18.6%
計	20.5%	17.9%	17.5%	18.0%	18.2%	18.0%	21.0%

(4) 指標の分析

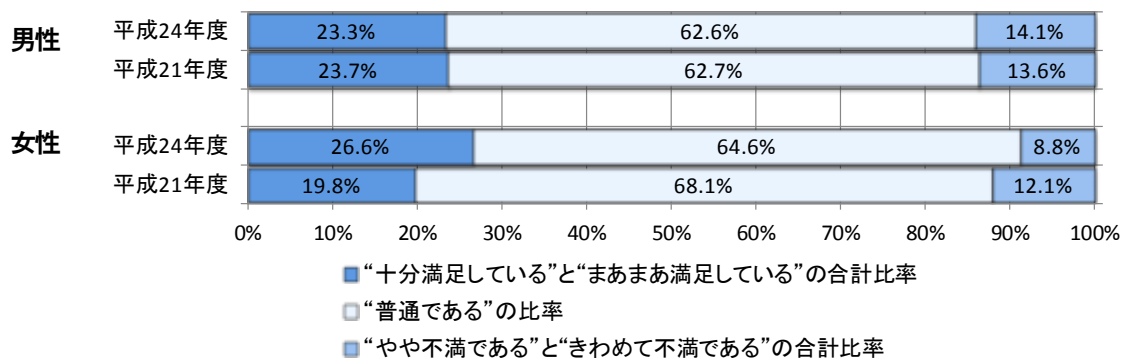
☆史跡や神社、仏閣など歴史・伝統文化遺産の満足度は2割強

史跡や神社、仏閣など歴史・伝統文化遺産に満足しているという人は21.0%で前回調査に比べ3.0ポイント高くなっています。



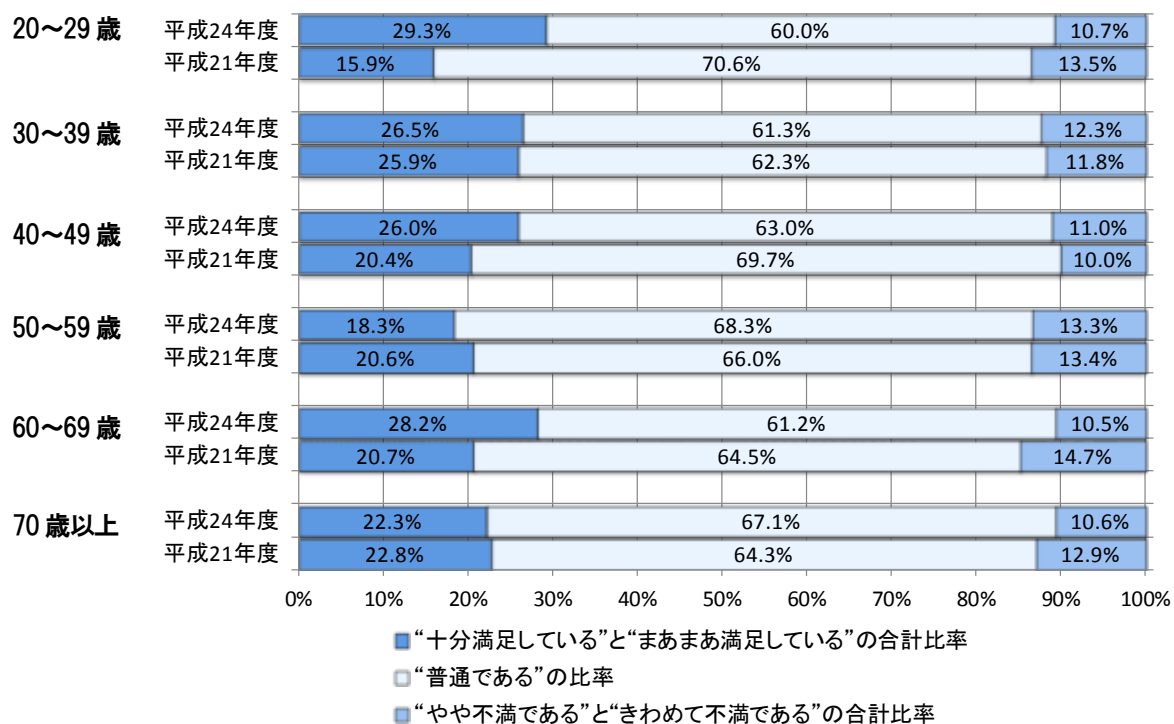
性別でみると、平成21年度調査に比べ満足している人の割合が、女性は19.8%から26.6%と6.8ポイント高くなっています。

【史跡や神社仏閣など歴史・伝統文化遺産×性別】



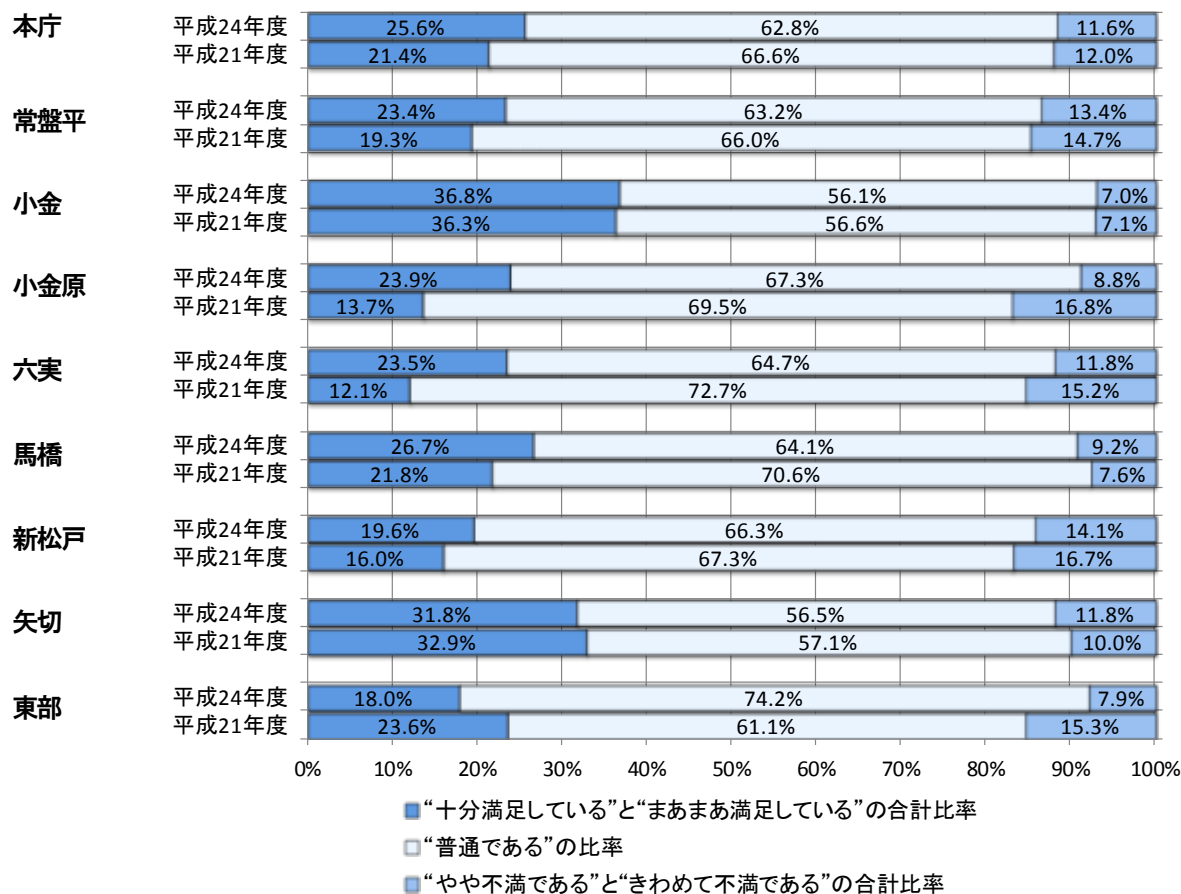
年齢別にみると、50歳代を除くすべての年代で満足している人の割合は2割を超えています。平成21年度調査に比べ20歳代で15.9%から29.3%と13.4ポイント、60歳代で7.5ポイント高くなっています。

【史跡や神社仏閣など歴史・伝統文化遺産×年齢】



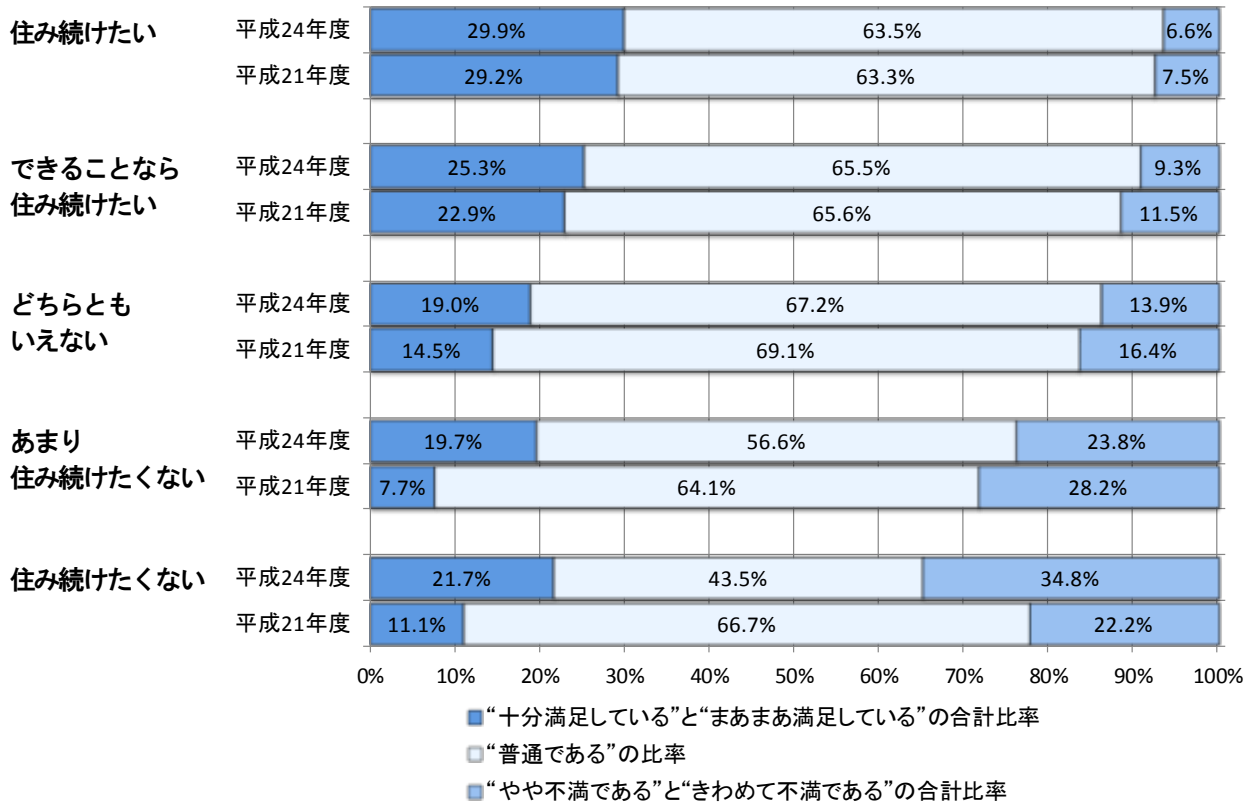
地区別にみると、平成21年度調査に比べ、六実地区で11.4ポイント、小金原地区で10.2ポイント、満足している人の割合が増えています。小金地区では、前回調査と同様に満足している人の割合が36.8%と他の地区に比べ高くなっています。

【史跡や神社仏閣など歴史・伝統文化遺産×地区】



定住意向別にみると、定住意向の高い人の方が低い人より満足している割合が高くなっています。

【史跡や神社仏閣など歴史・伝統文化遺産×定住意向】



指標

文化・芸術に親しむ市民の割合

(1) 指標の説明

市民が親しんだり活動したりしている文化や芸術には様々なものがありますが、市民の自主的活動や自ら創造的な活動をする市民が増えていくことを目指します。そこで文化・芸術に親しむ市民の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により創作や実践と鑑賞を区分して直接的に聞いています。「個人・行動」

Q14 あなたは日頃、絵画、音楽、映像、演劇などの芸術文化を鑑賞したり、創作や実践することがありますか。次の中から、あてはまる番号1つに○をつけてください。

- | | |
|-------------------------|-------------|
| 1 鑑賞し、自分でも創作や実践もしている | 3 時々鑑賞している |
| 2 よく鑑賞するが、自分では創作や実践はしない | 4 たまに鑑賞している |
| | 5 ほとんど鑑賞しない |

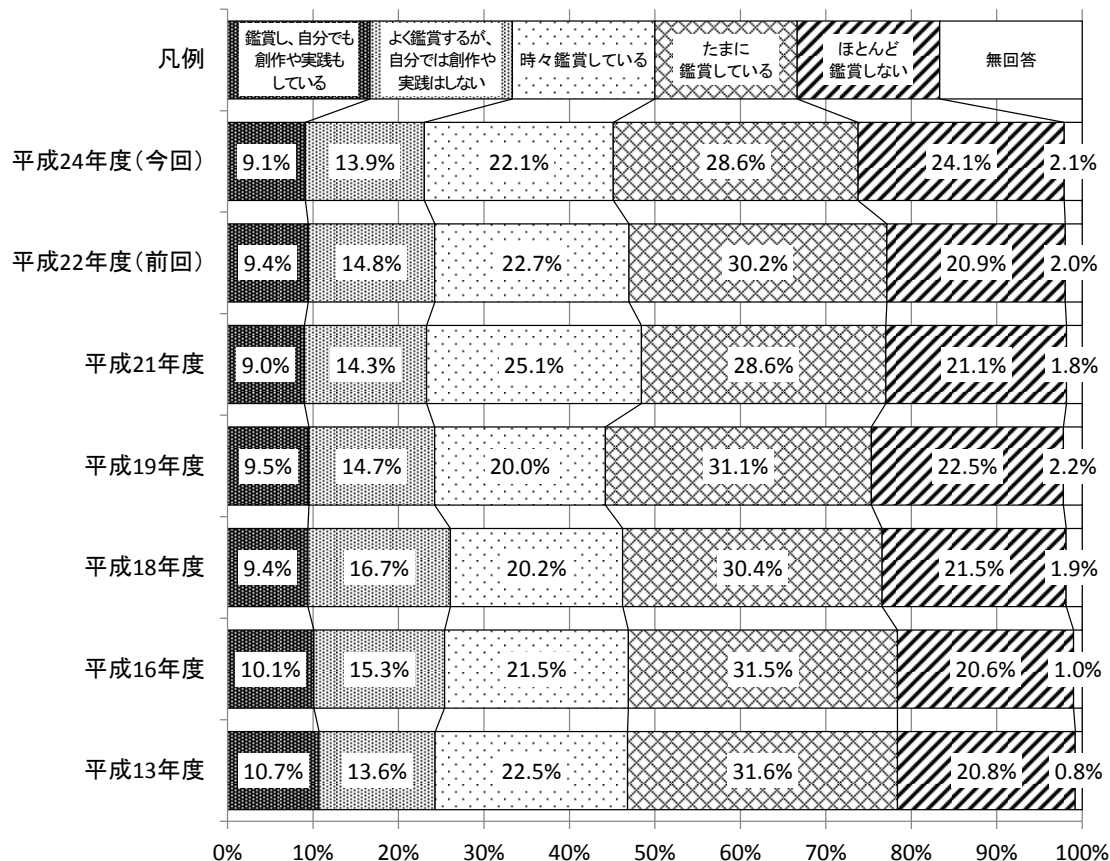
(3) 指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度
鑑賞し、自分でも創作や実践もしている	10.7%	10.1%	9.4%	9.5%	9.0%	9.4%	9.1%
よく鑑賞するが、自分では創作や実践はしない	13.6%	15.3%	16.7%	14.7%	14.3%	14.8%	13.9%
時々鑑賞している	22.5%	21.5%	20.2%	20.0%	25.1%	22.7%	22.1%
計	46.8%	46.9%	46.2%	44.2%	48.4%	47.0%	45.1%

(4) 指標の分析

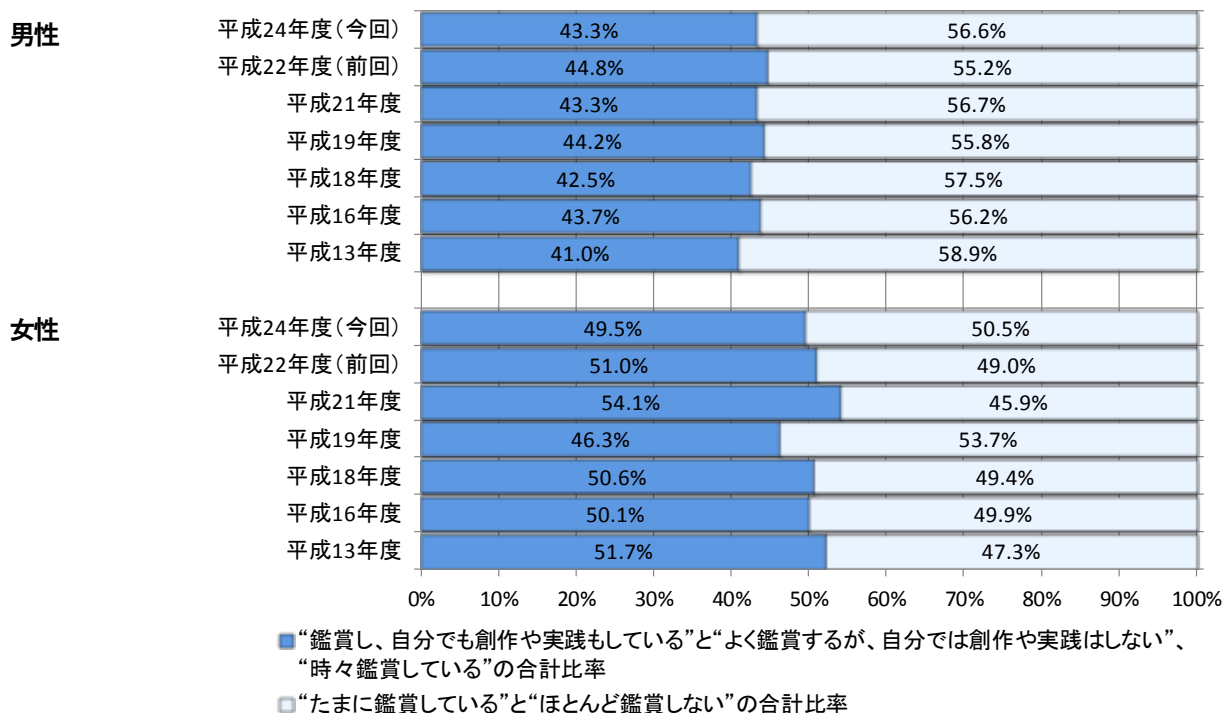
☆日頃、芸術・文化に親しむ人の割合は4割台でほぼ一定。

日頃、芸術・文化に親しむ人の割合は、“鑑賞し、自分でも創作や実践もしている”(9.1%)、“よく鑑賞するが、自分では創作や実践はしない”(13.9%)、“時々鑑賞している”(22.1%)をあわせた割合は 45.1%と、前回調査の 47.0%に比べわずかに減少しています。



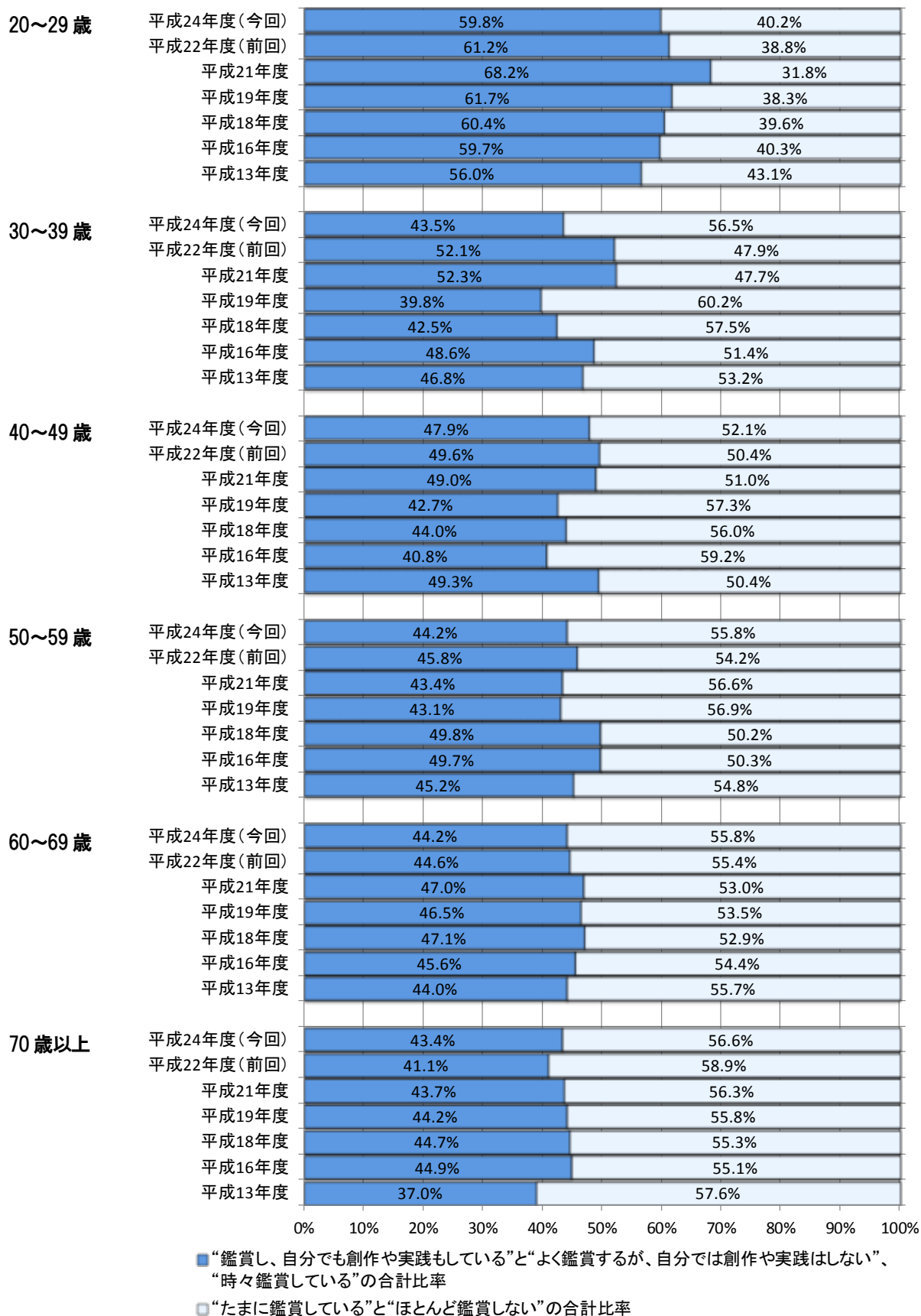
性別にみると、男性よりも女性の方が“鑑賞している”人の割合が高く、前回調査と同様の傾向となっています。

【文化・芸術活動×性別】



年齢別にみると、“鑑賞し、自分でも創作や実践もしている”と“よく鑑賞するが、自分では創作や実践はしない”、“時々鑑賞している”を合わせた文化・芸術活動に積極的な人は、20歳代で59.8%と、他の年代に比べ割合が高くなっています。前回調査と比べ30歳代で52.1%から43.5%と8.6ポイント減少しています。

【文化・芸術活動×年齢】



指標

外国籍市民と交流している人の割合

(1) 指標の説明

外国籍市民と交流する人達が増えることにより、日常生活の中で様々な不安やトラブルが減少すると考えられます。そこで、外国籍市民と交流している人の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「個人・行動」

Q15 あなたは日頃、松戸市に在住したり、滞在したりしている外国の方達と親しく接することがどのくらいありますか。(1つに○)

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1 大変よくある | 3 ときどきある | 5 ほとんどない |
| 2 しばしばある | 4 あまりない | |

(3) 指標の現状

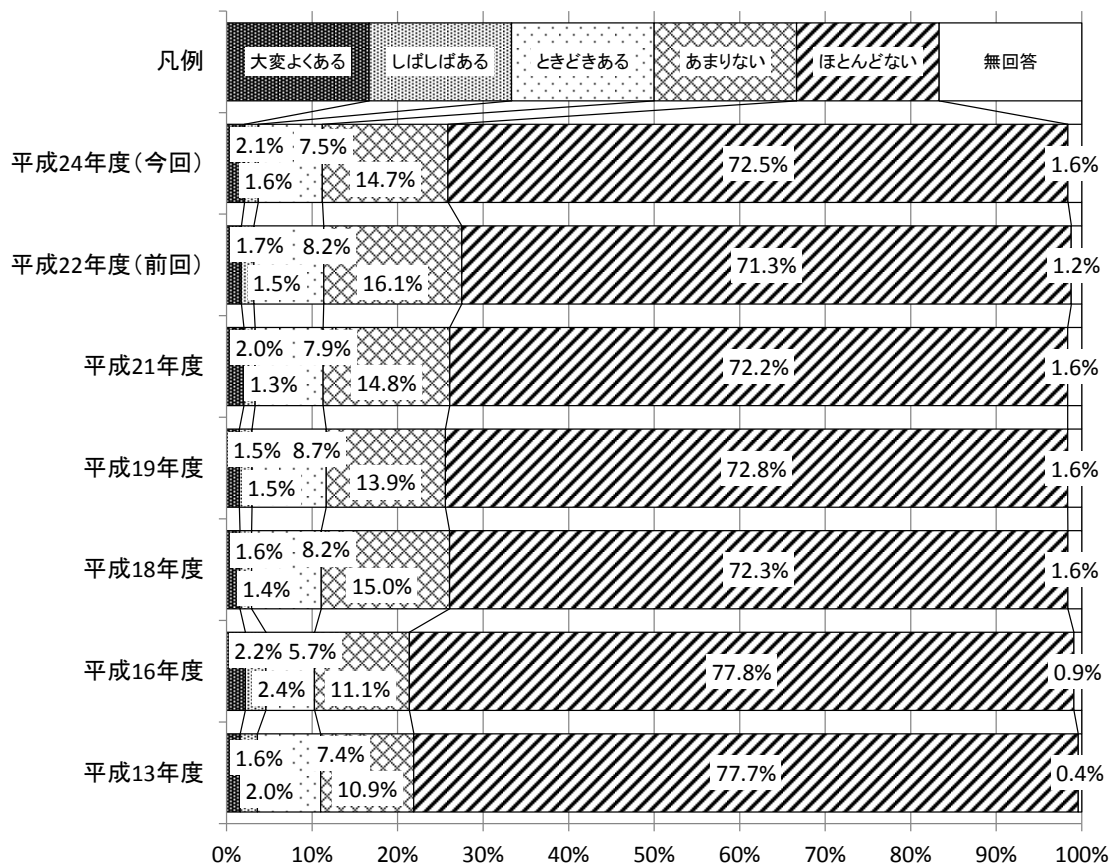
	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度
大変よくある	1.6%	2.2%	1.6%	1.5%	2.0%	1.7%	2.1%
しばしばある	2.0%	2.4%	1.4%	1.5%	1.3%	1.5%	1.6%
計	3.6%	4.6%	2.9%	3.0%	3.3%	3.2%	3.7%

(4) 指標の分析

☆**外国籍市民との交流機会があるという回答は、前回調査に比べわずかに増えています。**

外国籍市民との交流について“大変ある”(2.1%)、“しばしばある”(1.6%)という頻繁に交流を持っている人は3.7%で、前回調査に比べわずかに増えています。

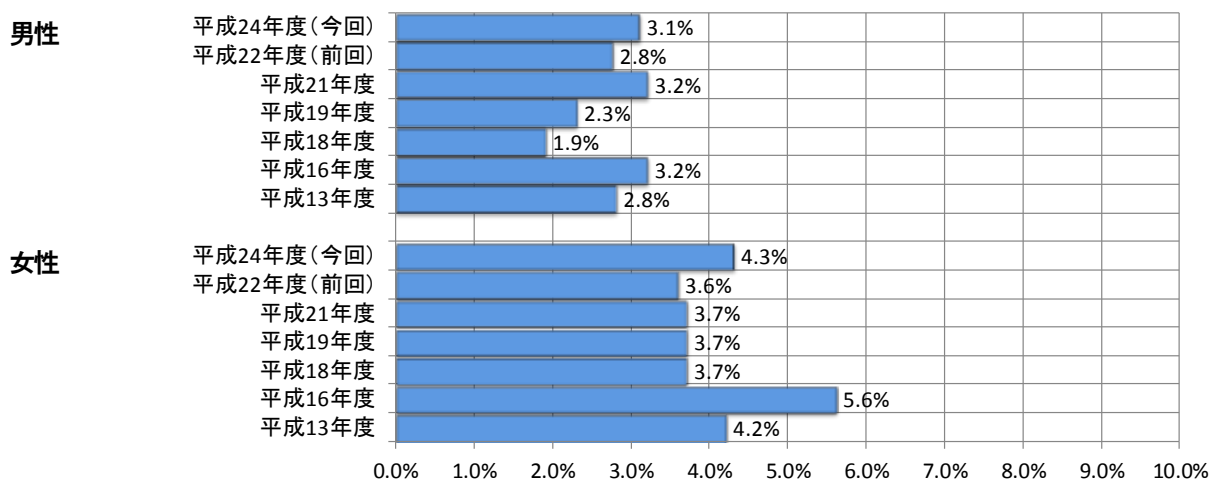
逆に交流を持たない人は“ほとんどない”(72.5%)と“あまりない”(14.7%)をあわせると、9割近くとなっています。前回調査と同様に約9割の人は外国籍市民との交流機会がないものと思われます。



性別で見ると、男性よりも女性の方が外国籍市民との交流がある人の割合が高くなっています。

【外国籍市民との交流×性別】

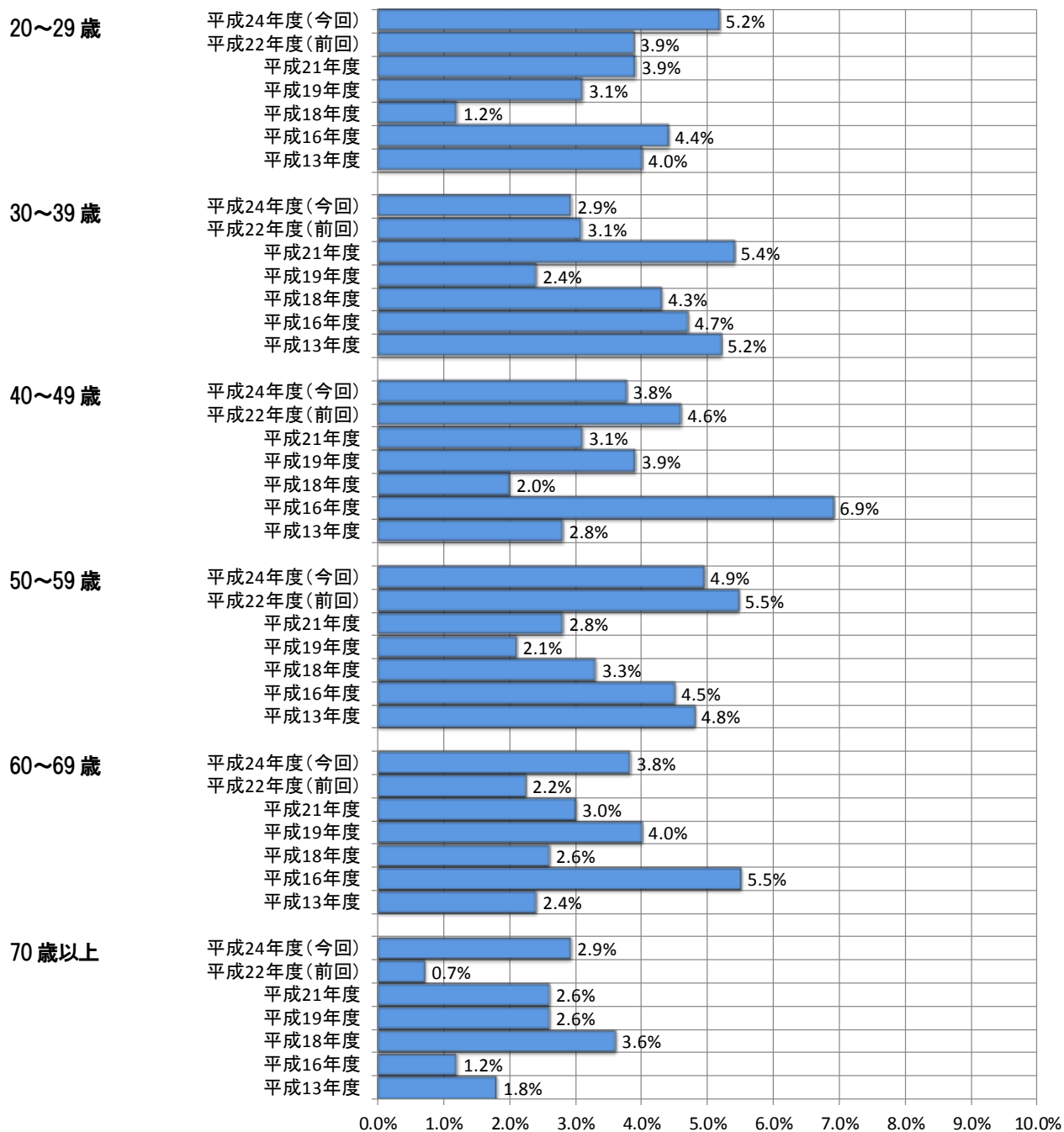
〔“大変よくある”と“しばしばある”の合計比率〕



年齢別にみると、外国籍市民との交流があるという人の割合は20歳代が最も高く5.2%となっています。

【外国籍市民との交流×年齢】

〔“大変よくある”と“しばしばある”の合計比率〕



第4節 安全で快適な生活環境の実現

第1項 災害に対する不安を減らすようにします

めざしたい将来像：

市民一人ひとりの防災意識を高め、自助・共助・公助の災害発生時の対応体制を確立し、災害に強く命を大切に
する社会を実現します。

指標

災害に対して自ら対策を講じている人の割合

(1) 指標の説明

ひとたび大地震が起これば建物の倒壊、火災、ライフライン等への多大な被害が発生し、人的被害が拡大する危険が潜んでいます。これらの被害を最小限に抑えるためには、行政による防災体制の確立を図るとともに、地域住民の防火防災意識の高揚や自主的な訓練など、日ごろからの備えが極めて重要です。そこで、災害に対して自ら対策を講じている人の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「個人・行動」

Q16 あなたは日頃、防災のための準備をしていますか。(あてはまる番号全てに○)

- | | |
|---------------|----------------|
| 1 消火器の設置 | 6 身内との連絡方法の確立 |
| 2 住宅用火災警報器の設置 | 7 避難経路や避難場所の確認 |
| 3 家具などの転倒防止 | 8 防災訓練などへの参加 |
| 4 水や食糧の備蓄 | 9 その他() |
| 5 非常持ち出し用品の確保 | 10 特に準備はしていない |

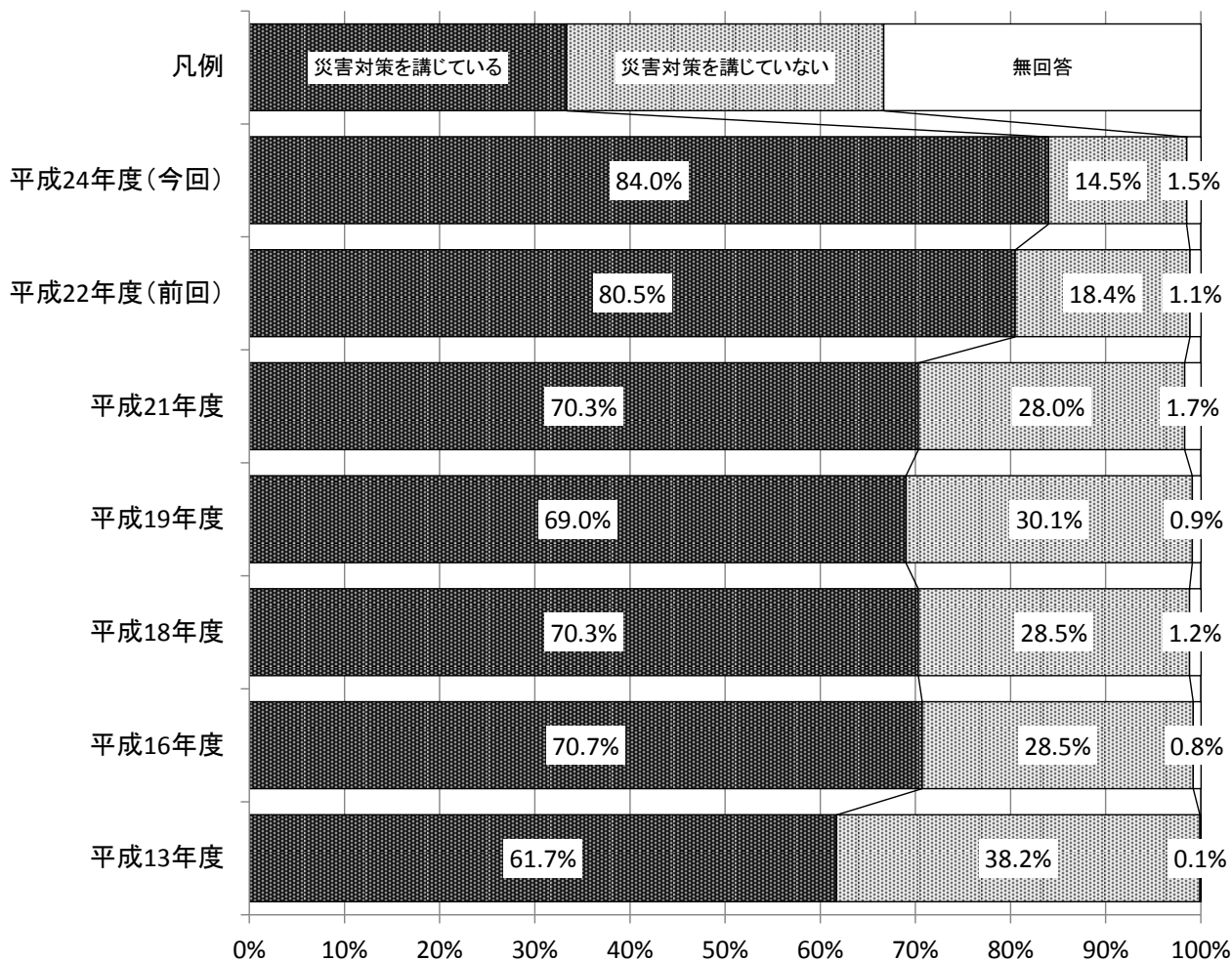
(3) 指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度
災害対策を講じている	61.7%	70.7%	70.3%	69.0%	70.3%	80.5%	84.0%

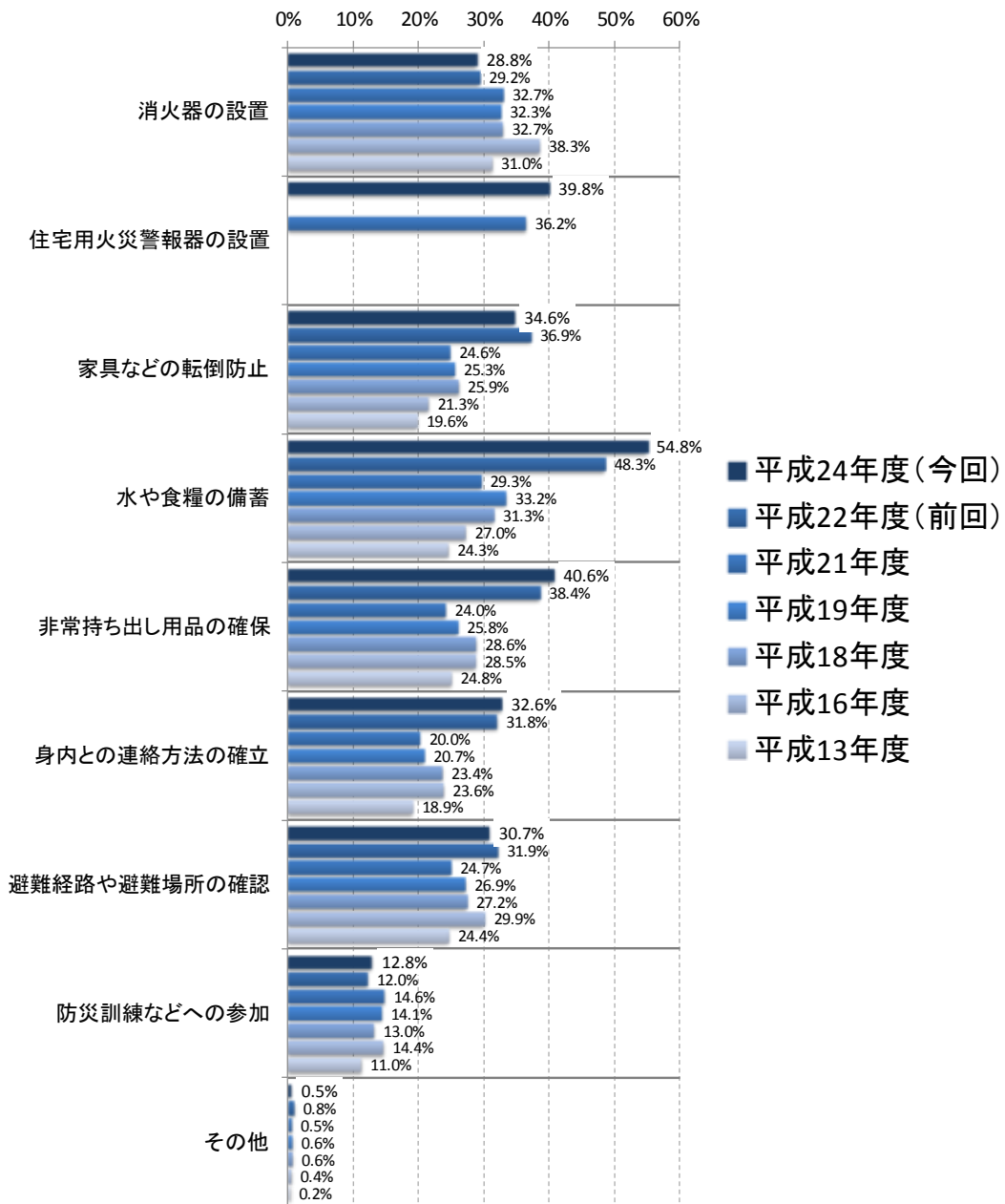
(4) 指標の分析

☆防災の準備をしている人は8割を超えています。

災害に対して何らかの対策を講じている人は84.0%と8割を超え、前回調査よりさらに3.5ポイント高くなっています。東日本大震災から1年以上経過した現在でも防災への関心は高い状況がうかがえます。

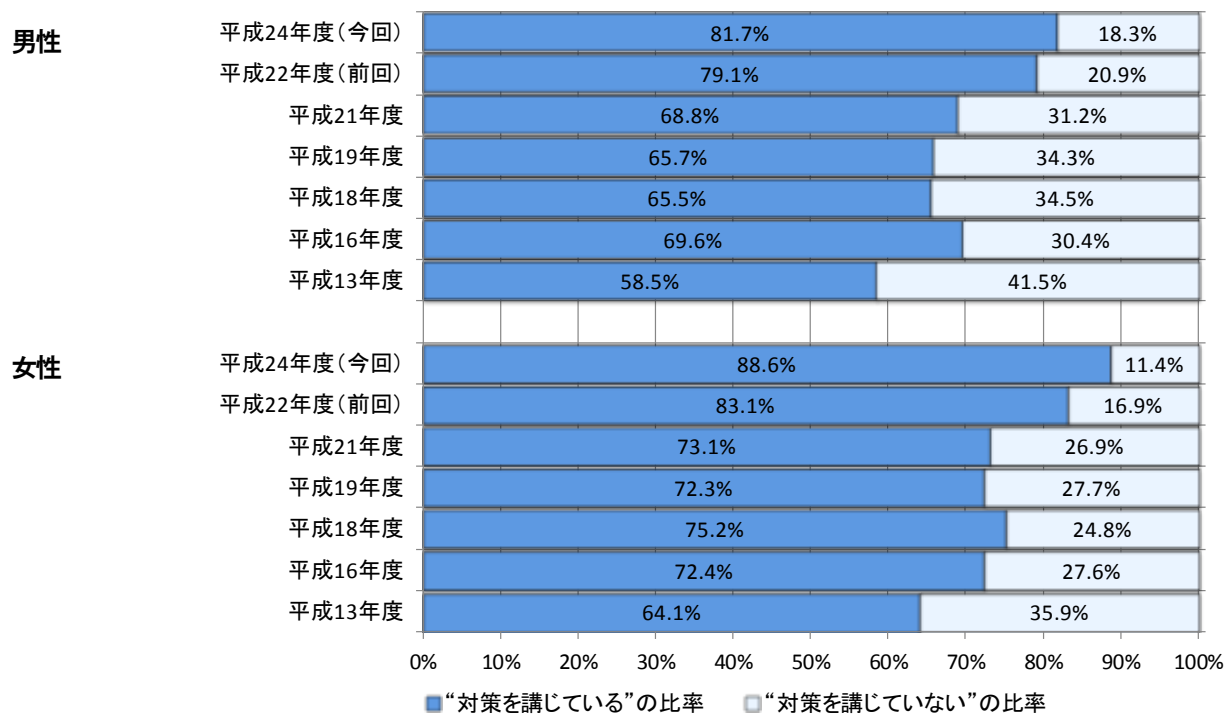


日頃、防災のために準備していることとしては、“水や食糧の備蓄”(54.8%)が半数以上を占めて最も多く、次いで“非常持ち出し用品の確保”(40.6%)、“住宅用火災警報器の設置”(39.8%)、“家具などの転倒防止”(34.6%)などへの回答が多くなっています。その他の項目についても、概ね前回調査で回答の割合が大きく上昇しており、高い割合が維持されています。



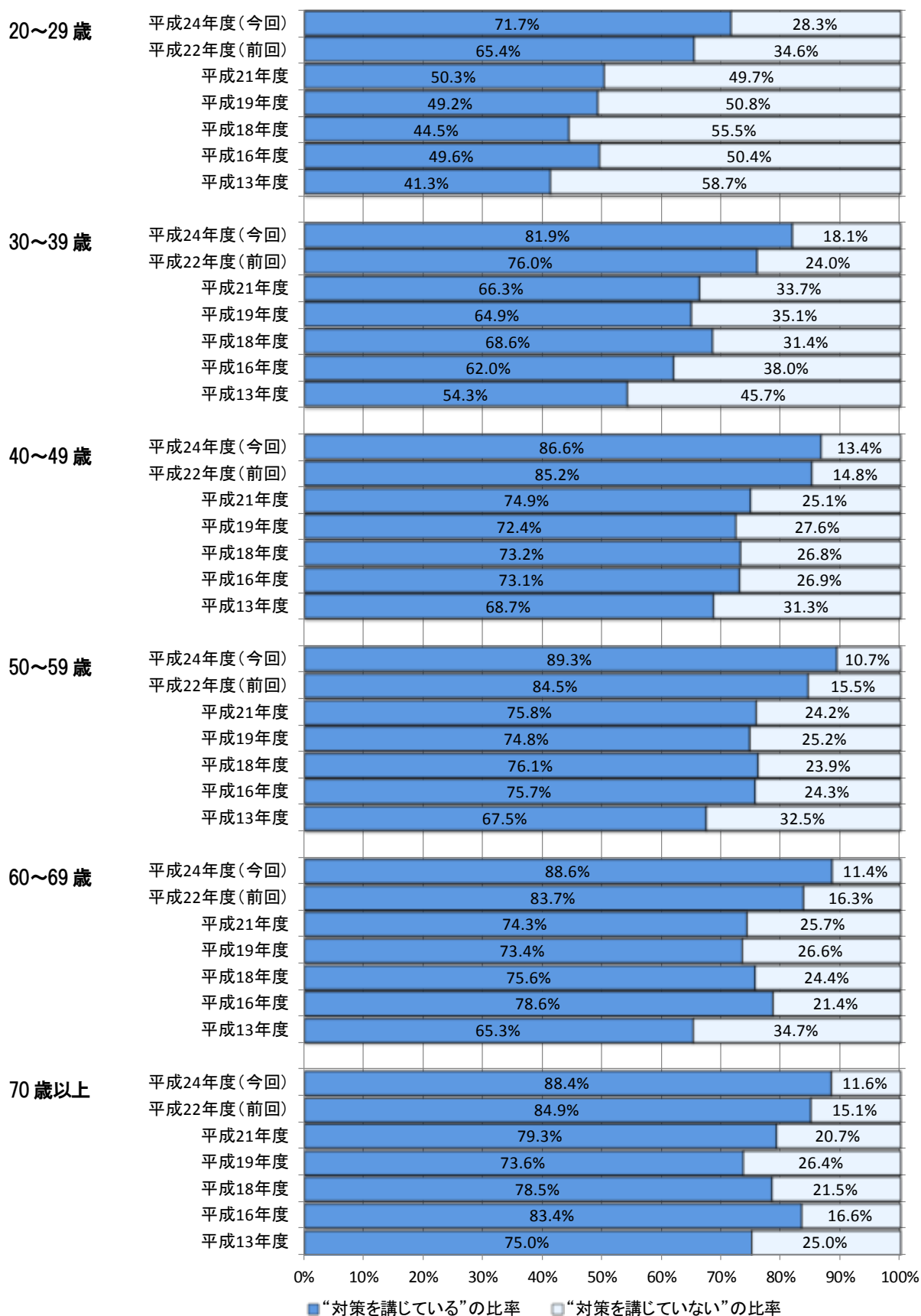
性別で見ると、男性よりも女性の方が災害に対して何らかの準備をしている割合が高くなっています。前回調査に比べ、男性は79.1%から81.7%と2.6ポイント、女性は83.1%から88.6%と5.5ポイント増え、男女とも8割以上の人が災害に対して何らかの準備をしていると回答しています。

【防災意識×性別】



年齢別にみると、50歳代で災害に対して何らかの準備をしている人の割合が最も高く89.3%となっています。20歳代を除き、全年代で8割以上の人が災害に対して何らかの準備をしていると回答しています。

【防災意識×年齢】



第4節 安全で快適な生活環境の実現

第5項 犯罪や事故のない安全で快適な市民社会をつくります

めざしたい将来像：

犯罪や事故、消費者トラブルのない安全・安心のまちづくりに向けて、市民一人ひとりの心がけと地域の見守り等を実施し、お互いに助け合える社会を実現します。

指標

消費者トラブルに巻き込まれた人の割合

(1) 指標の説明

自立した消費行動をとれるように支援するため、消費者トラブルに巻き込まれた人の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により期間を限定して直接的に聞いています。「個人・行動」

Q17 あなたは、この1年間に買い物などの消費の際にトラブルや被害にあったことがありますか。次の中からトラブルや被害にあったことをお答え下さい。(あてはまる番号全てに○)

- 1 店舗で購入した商品やサービスでのトラブルや被害
- 2 訪問販売で購入した商品やサービスでのトラブルや被害
- 3 通信販売（ネットオークション含む）で購入した商品やサービスでのトラブルや被害
- 4 電話勧誘販売で購入した商品やサービスでのトラブルや被害
- 5 その他（ ）
- 6 トラブルや被害にあっていない

(3) 指標の現状

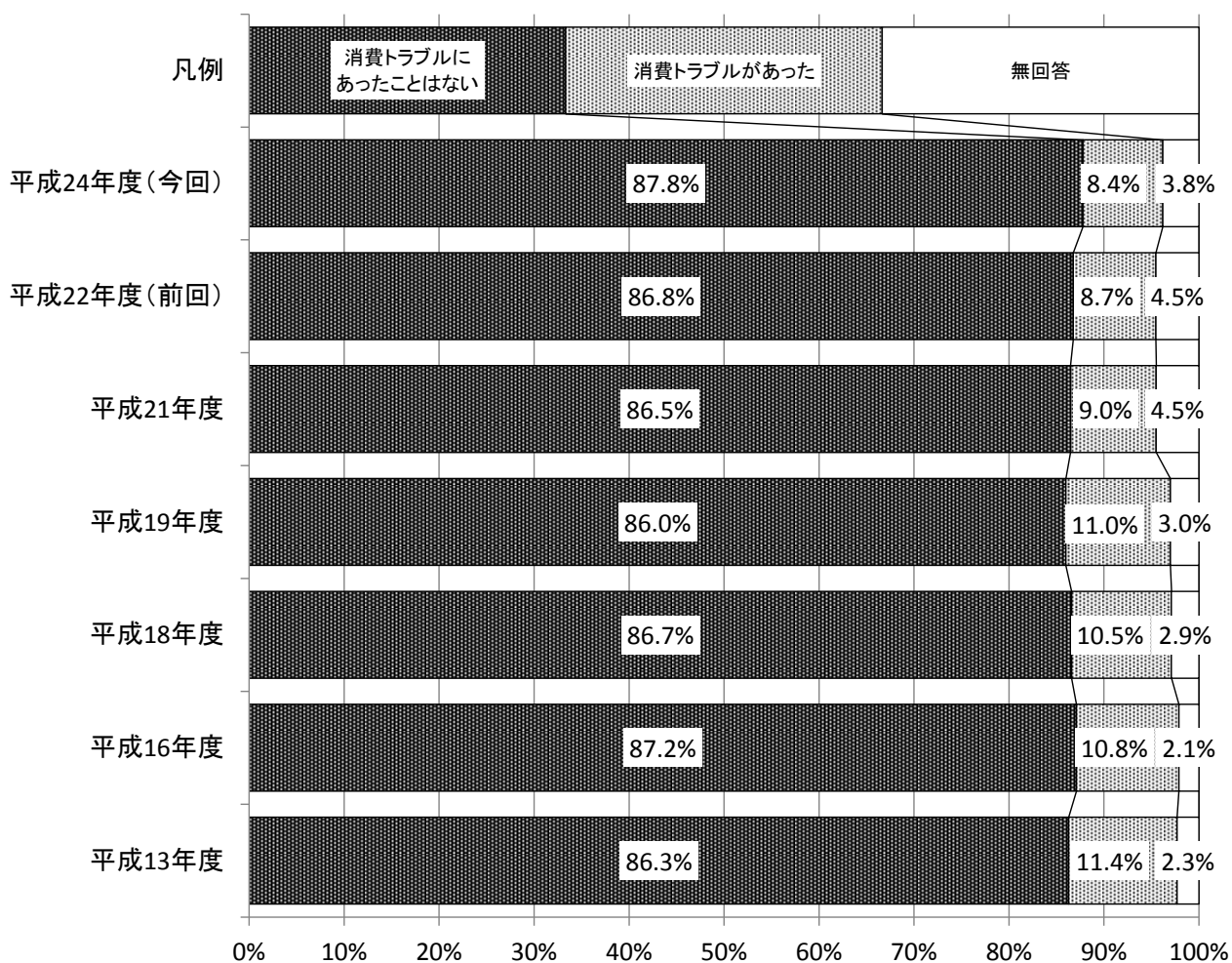
	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度
消費トラブルや被害に巻き込まれた	11.4%	10.8%	10.5%	11.0%	9.0%	8.7%	8.4%

※減少した方がよい指標です

(4) 指標の分析

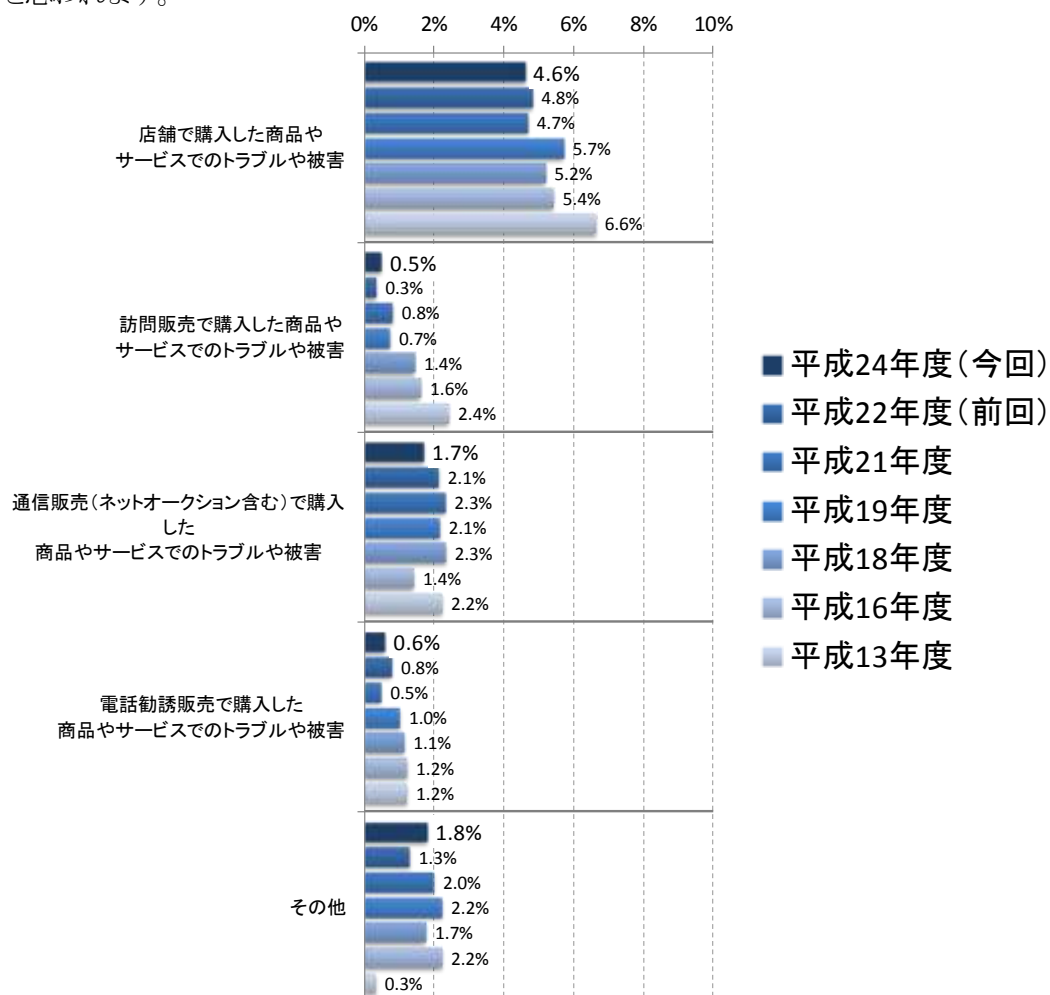
☆消費者トラブルに巻き込まれる人は概ね減少傾向にあります。

この1年間に何らかの消費者トラブルに巻き込まれた人は8.4%で、年々減少傾向を示しています。



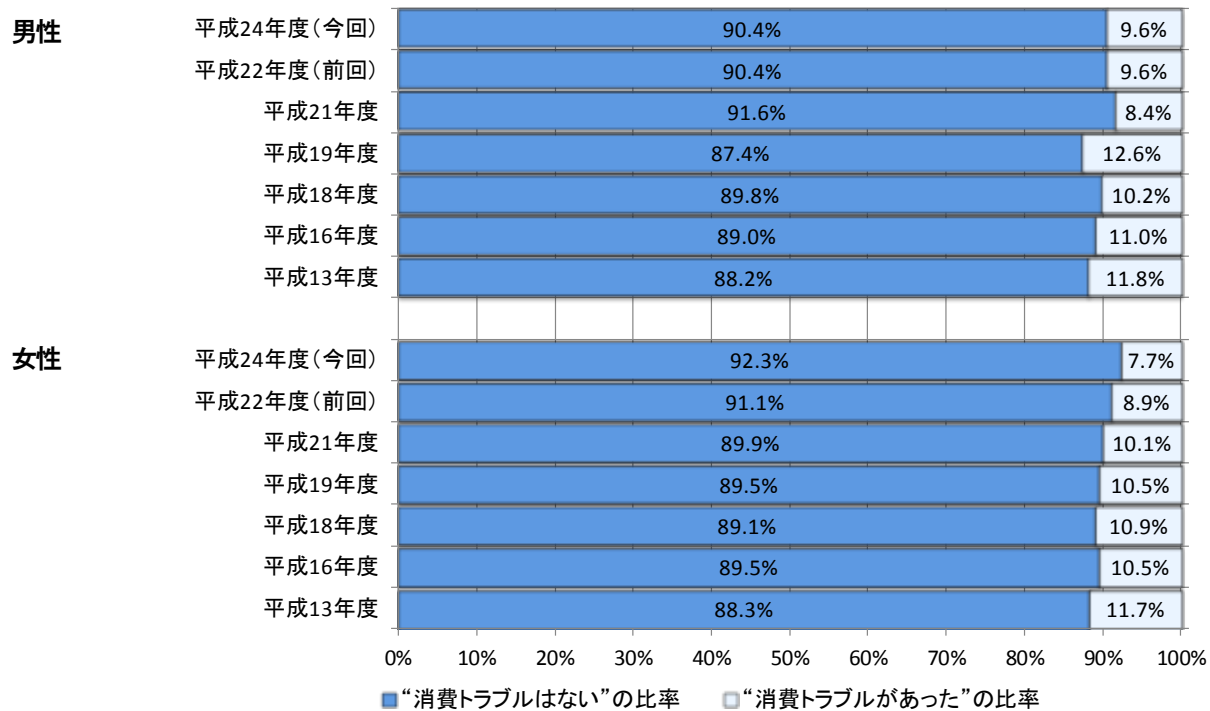
消費者トラブルの内容としては“店舗で購入した商品やサービスでのトラブルや被害”が 4.6%、“通信販売(ネットオークション含む)で購入した商品やサービスでのトラブルや被害”が 1.7%と多いですが、前回調査と比べ減少しています。

訪問販売による被害がわずかに増えており、店舗やネットショッピングでの被害と合わせ一定の割合で発生しているものと思われます。



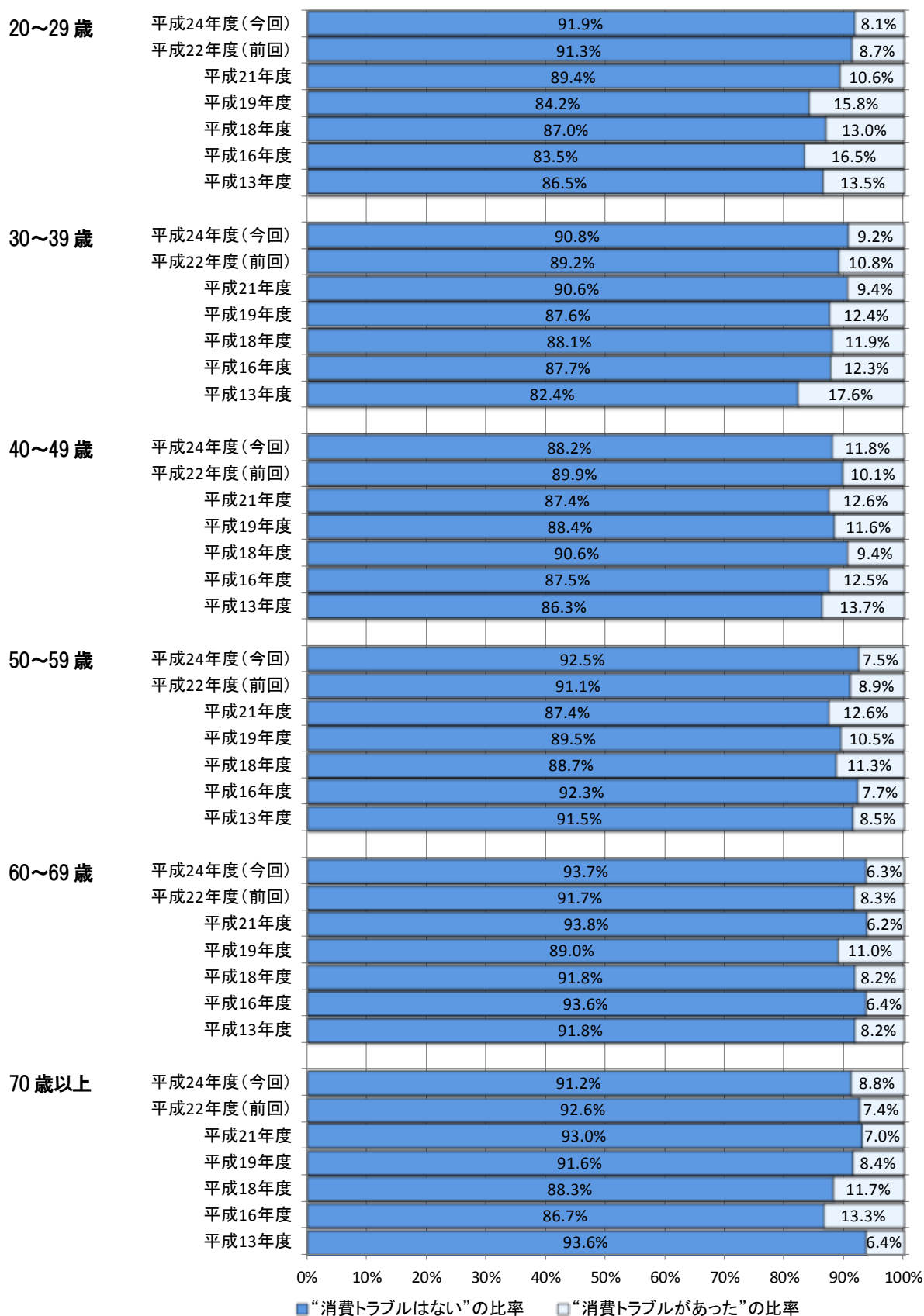
性別で見ると、女性よりも男性の方が“消費トラブルにあった”人の割合が高くなっています。女性は前回調査に比べ8.9%から7.7%と1.2ポイント減少しています。

【消費トラブル×性別】



年齢別にみると、40歳代で11.8%と“消費トラブル”にあった人の割合が最も高くなっています。40歳代と70歳以上を除いた他の年代では“消費トラブル”にあった人の割合は減少しています。

【消費トラブル×年齢】



第4節 安全で快適な生活環境の実現

第6項 緑と花に親しむことができるようにします

めざしたい将来像：

生きものやみどりとともに暮らすために、みどりの市民力による協働を推進します。そして、人と自然を大切にする思いやりの心もち、豊かで潤いのある生活ができるまっちを実現します。

指標

緑地・河川などの自然環境に満足している人の割合

(1) 指標の説明

緑や水にふれあう度合いが増すことによって、これらの自然環境に対する市民の満足度も高くなると考え、緑地、河川などの自然環境に満足している人の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「地域・態度(評価)」

※「緑地・河川などの自然環境」の項目

Q20 あなたが松戸市で生活する中で、次のことについてどの程度満足しているかについて、次の各項目ごとに、あなたの考えに最も近いものをお答え下さい。(それぞれ1つに○)

項目	十分満足している	まあまあ満足している	普通である	やや不満である	きわめて不満である	わからない
ケ 緑地・河川などの自然環境	1	2	3	4	5	6

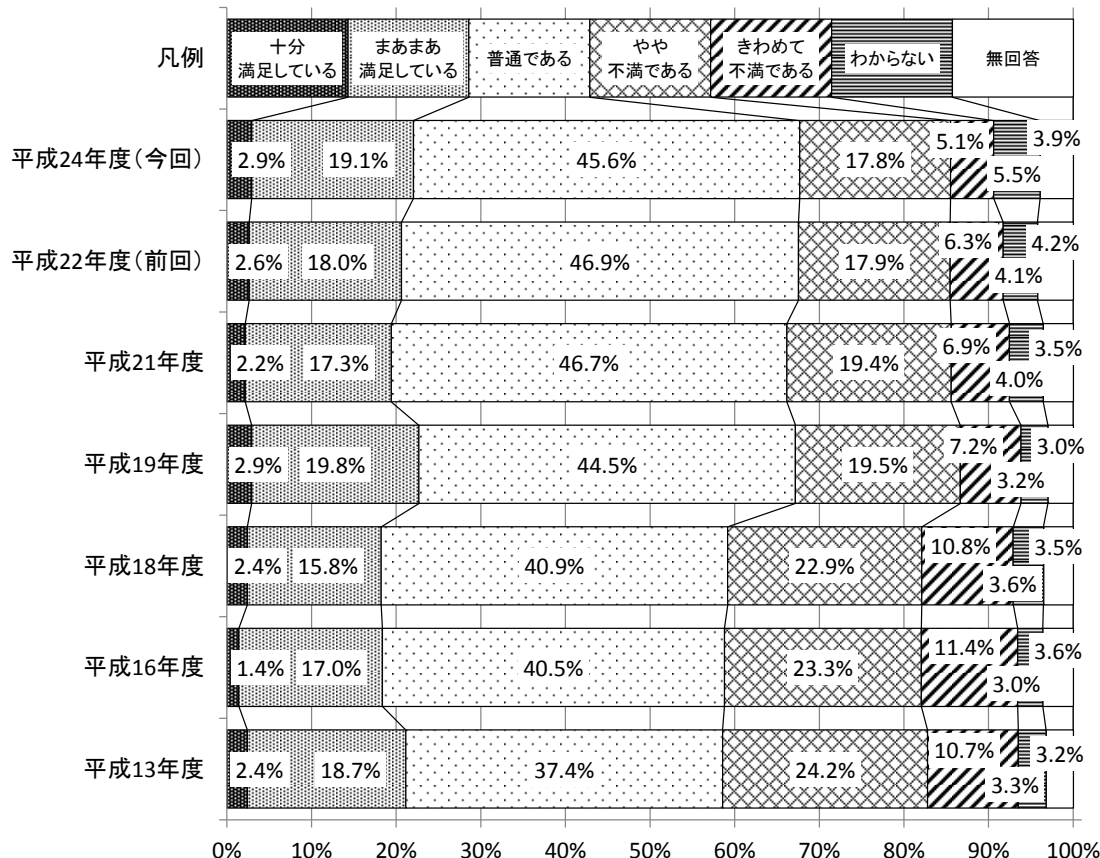
(3) 指標の現状

	平成13年度	平成16年度	平成18年度	平成19年度	平成21年度	平成22年度	平成24年度
十分満足している	2.4%	1.4%	2.4%	2.9%	2.2%	2.6%	2.9%
まあまあ満足している	18.7%	17.0%	15.8%	19.8%	17.3%	18.0%	19.1%
計	21.1%	18.4%	18.2%	22.7%	19.4%	20.6%	22.0%

(4) 指標の分析

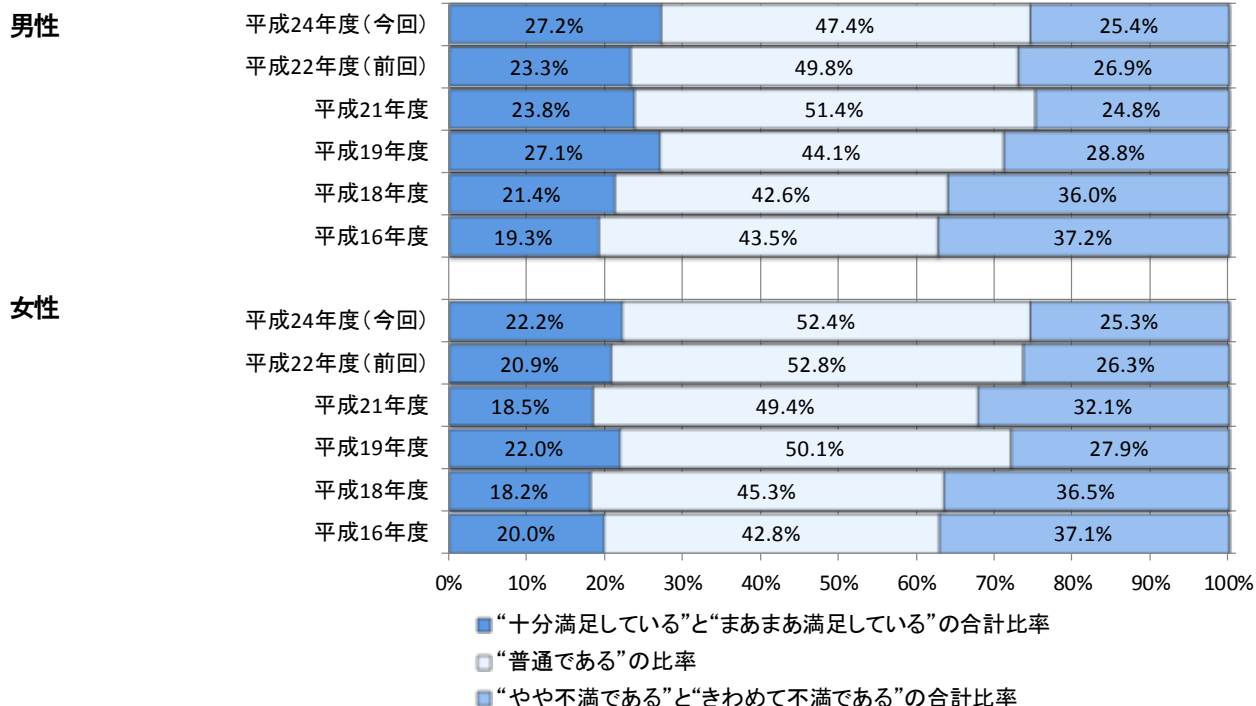
☆ **自然環境に対する満足度は22.0%と前回調査よりやや増加しています。**

緑地・河川などの自然環境に対する満足度をみると、“十分満足している”(2.9%)、“まあまあ満足している”(19.1%)をあわせた満足という回答の割合は22.0%と2割を超えています。一方で“やや不満である”(17.8%)、“きわめて不満である”(5.1%)をあわせた不満も22.9%と満足している層を上回っています。



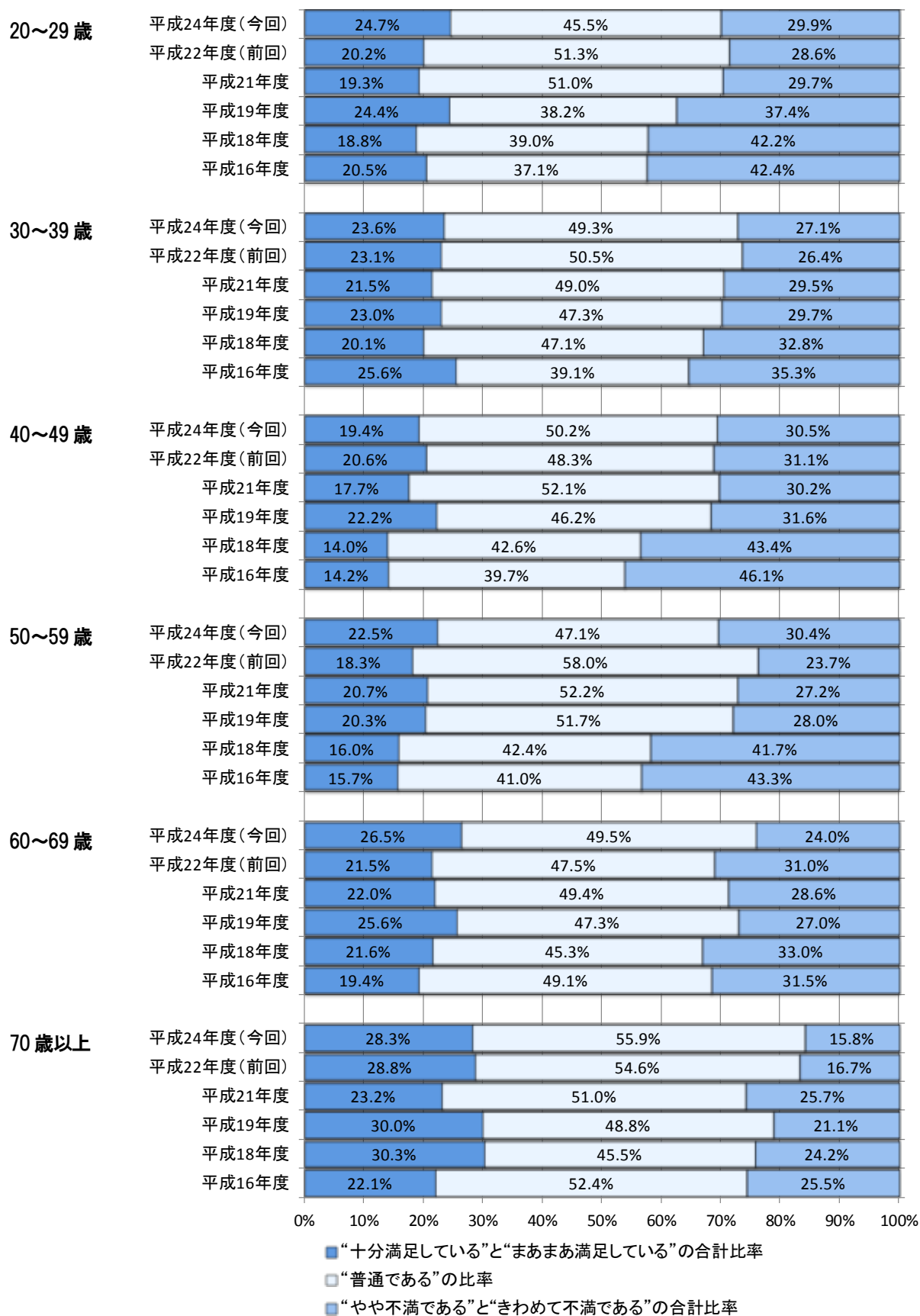
性別でみると、女性よりも男性の方が自然環境に対して満足している割合が高くなっています。

【自然環境×性別】



年齢別にみると、70歳以上で自然環境に対して“満足している”割合が最も高くなっています。40歳代を除く全年代で自然環境に対して“満足している”人は2割を越えています。

【自然環境×年齢】



指標

身近で緑が守られ、増えていると感じる人の割合

(1) 指標の説明

暮らしの中に緑があり、心豊かな生活を実現するため、身近で、緑が守られ、増えていると感じる人の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「地域・態度(評価)」

Q11 あなたは、身近で街路樹や緑地が守られ、増えていると感じていますか。次の中から、あてはまる番号1つに○をつけてください。

- | | |
|-------------------------------|-----------------|
| 1 守られ、増えていると感じている | 3 守られていないと感じている |
| 2 守られていると感じているが、増えているとは感じていない | |

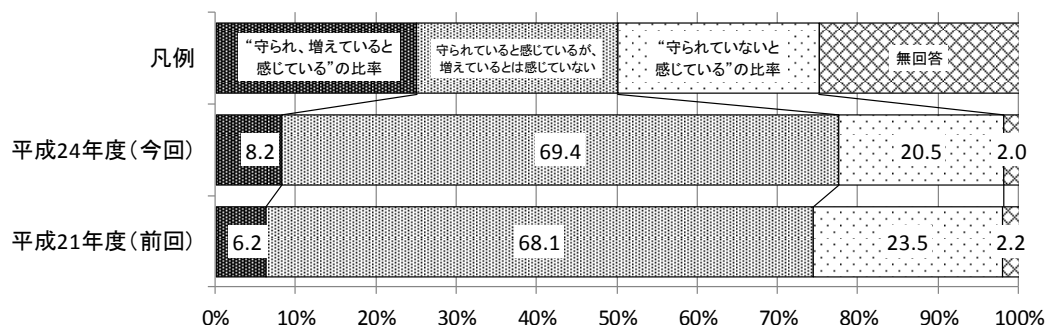
(3) 指標の現状

	平成 21年度	平成 24年度
守られ、増えていると感じている	6.2%	8.2%

(4) 指標の分析

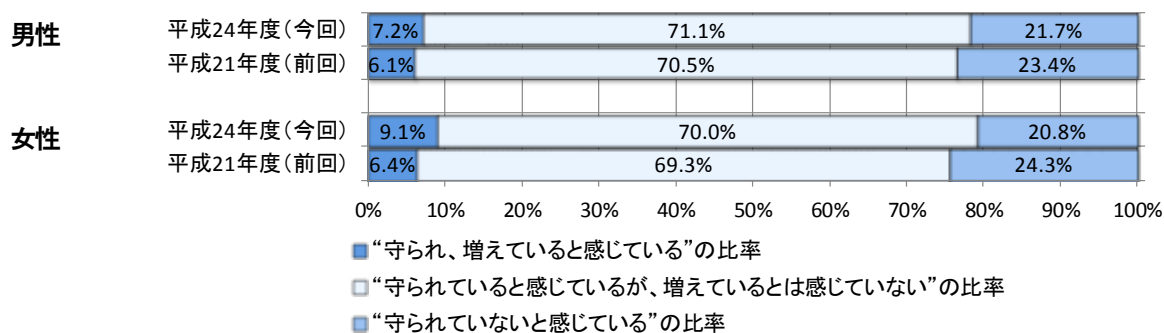
☆身近で緑が守られ、増えていると感じている人は1割未満となっています。

身近で緑が守られ、増えていると感じている人は、前回調査と同様に1割未満となっていますが、6.2%から8.2%と2.0ポイント増加しています。守られていないと感じている人は前回調査に比べ23.5%から20.5%と3.0ポイント減少しています。



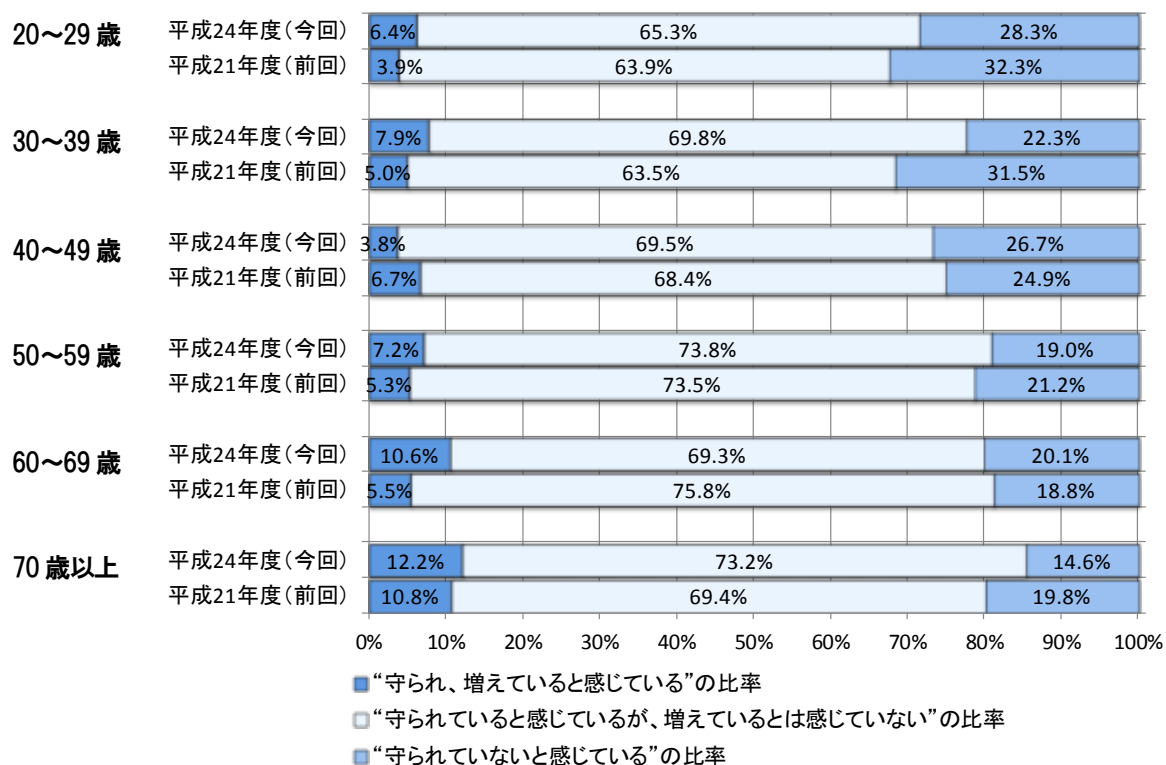
性別でみると、前回調査と同様に男性よりも女性の方が“街路樹や緑地が守られ、増えている”と感じている人の割合が多くなっています。また、守られていると感じている人の合計は男女とも8割弱となっています。

【街路樹や緑地が守られ、増えている×性別】



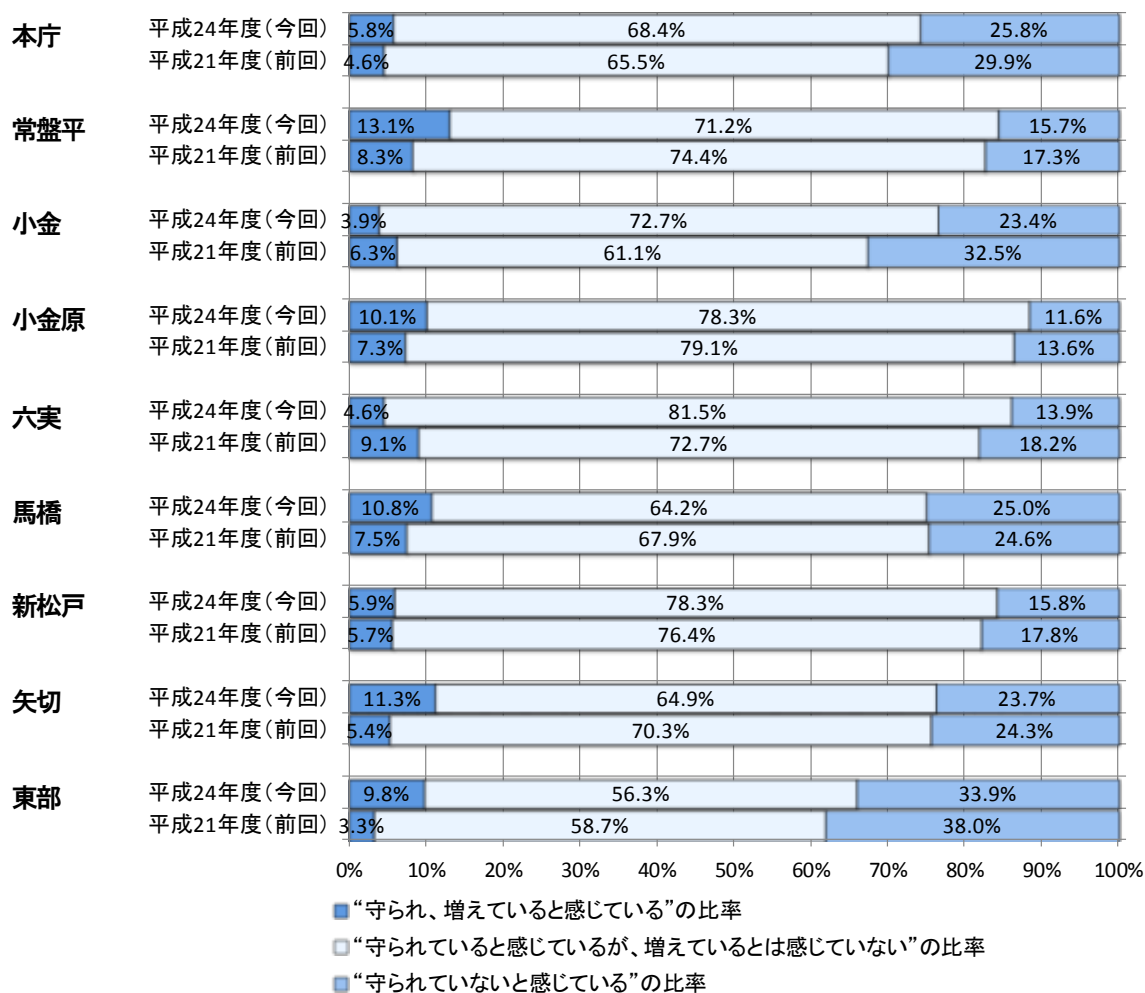
年齢別にみると、“街路樹や緑地が守られ、増えている”と感じている人の割合は60歳以上では1割を超えています。守られていると感じる人の合計は全年代で7割を超えています。

【街路樹や緑地が守られ、増えている×年齢】



地区別にみると、前回調査に比べ“街路樹や緑地が守られ、増えている”と感じている人が、常盤平地区、小金原地区、馬橋地区、矢切地区で1割を越えています。“守られていない”と感じている人は東部地区で33.9%と3割を超えています。

【街路樹や緑地が守られ、増えている×地区】



第5節 魅力ある都市空間の形成と産業の振興

第1項 地域産業を振興し、豊かな経済活動ができるようにします

めざしたい将来像：

今ある資源を活かした、新しい松戸らしい地域産業を生み出すため、産・学・官・民の連携、世代間を超えた連携を継続して行うことによって、若者にも魅力ある松戸のまちを実現します。

指標

快適・便利・賑わいがあると感じている人の割合

(1) 指標の説明

都市機能の強化は、快適性や利便性の向上となり、産業の振興と雇用の確保、観光資源の活用や商圈の拡大等による交流人口の増加は賑わいをもたらすものです。そこで、快適・便利・賑わいがあると感じている人の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、「快適・便利・賑わいの4項目の満足度」を組み合わせて聞いています。「地域・態度(評価)」

※「まちの賑わいや買い物の便」「通勤、通学などの交通の便」「道路、公園、下水道などの都市施設」「特色ある祭りや地域ぐるみのイベント」の4項目

Q20 あなたが松戸市で生活する中で、次のことについてどの程度満足しているかについて、次のア～タの各項目ごとに、あなたの考えに最も近い番号それぞれ1つに○をつけてください。

	項目	十分満足している	まあまあ満足している	普通である	やや不満である	きわめて不満である	わからない
イ	まちの賑わいや買い物の便	1	2	3	4	5	6
ウ	通勤・通学などの交通の便	1	2	3	4	5	6
キ	道路、公園、下水道などの都市施設	1	2	3	4	5	6
セ	特色ある祭りや地域ぐるみのイベント	1	2	3	4	5	6

<総合満足度の算出について>

快適・便利・賑わいの4項目の総合満足度については、次のような方法にもとづき算出しています。

- ・Q20イ、ウ、キ、セの4つの質問のそれぞれについて、選択肢に応じた評価点を付与する。
- ・該当する質問の評価点を合計し、合計点に基づいて総合満足度を判定する。

評価点

- ①「十分満足」 +2点
- ②「まあまあ満足」 +1点
- ③「普通」 ±0点
- ④「やや不満」 -1点
- ⑤「きわめて不満」 -2点

判定

- ① +5点以上 (十分満足している)
- ② +1～+4点 (まあまあ満足している)
- ③ ±0点 (普通である)
- ④ -1～-4点 (やや不満である)
- ⑤ -5点以下 (きわめて不満である)

該当する質問の評価点を合計する

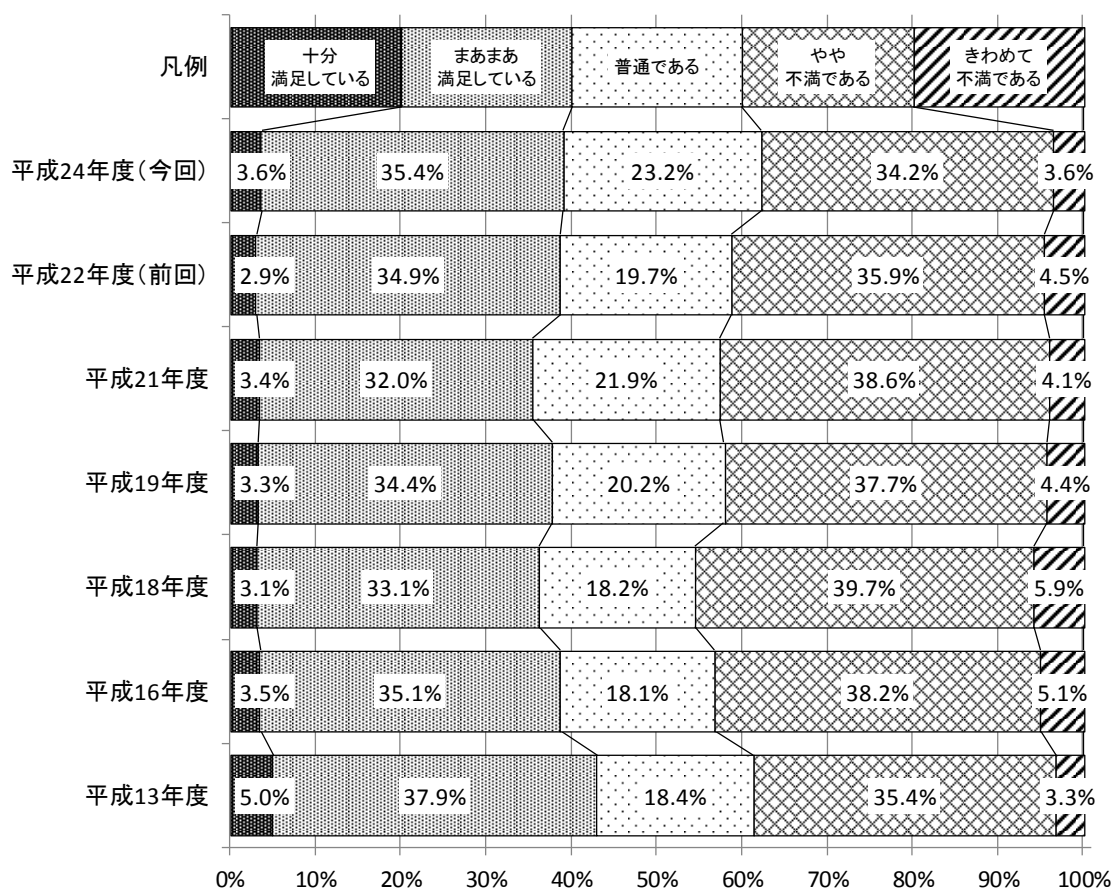
(3) 指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度
十分満足している	5.0%	3.5%	3.1%	3.3%	3.4%	2.9%	3.6%
まあまあ満足している	37.9%	35.1%	33.1%	34.4%	32.0%	34.9%	35.4%
計	42.9%	38.6%	36.2%	37.7%	35.4%	37.8%	39.0%

(4) 指標の分析

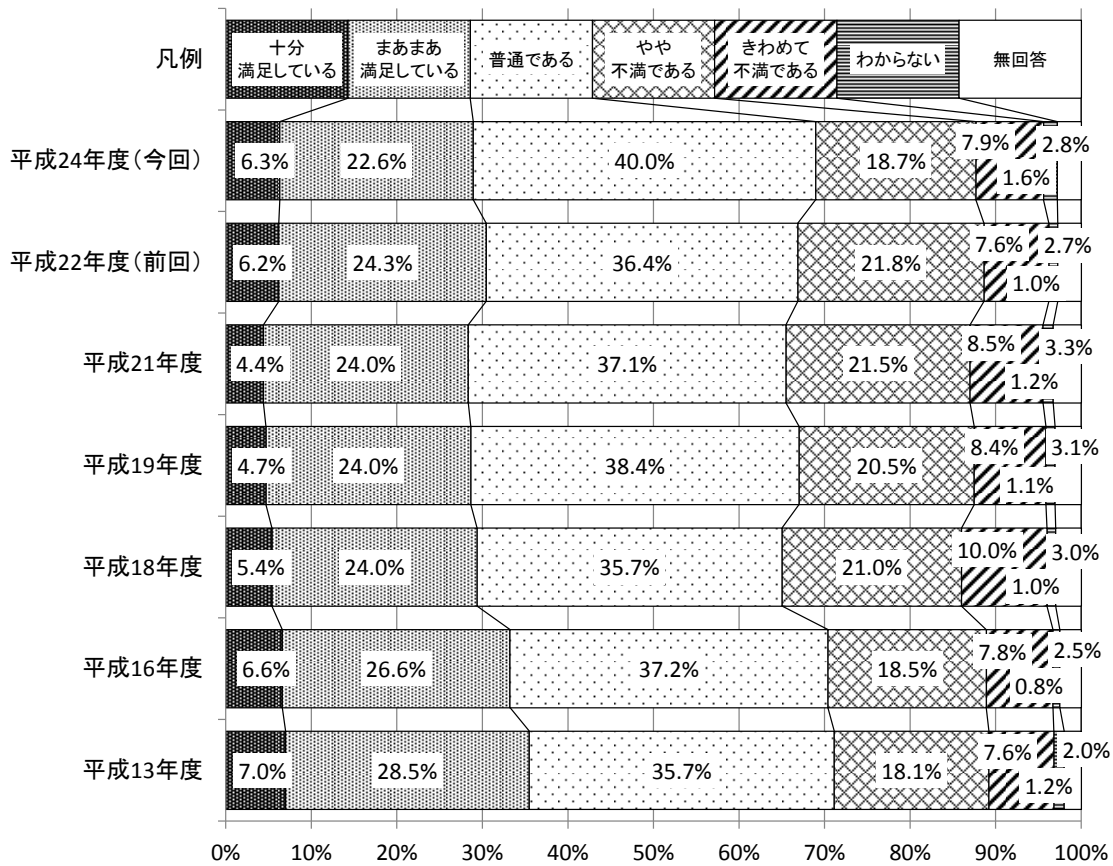
☆快適・便利・賑わいに対する満足度は高まっています。

快適・便利・賑わいの4項目の総合満足度についてみると、“十分満足している”(3.6%)、“まあまあ満足している”(35.4%)をあわせた満足という人の割合は 39.0%で、前回調査に比べ増えています。一方、“やや不満である”(34.2%)、“きわめて不満である”(3.6%)をあわせた不満層は 36.9%と減少し、満足している層を下回っています。

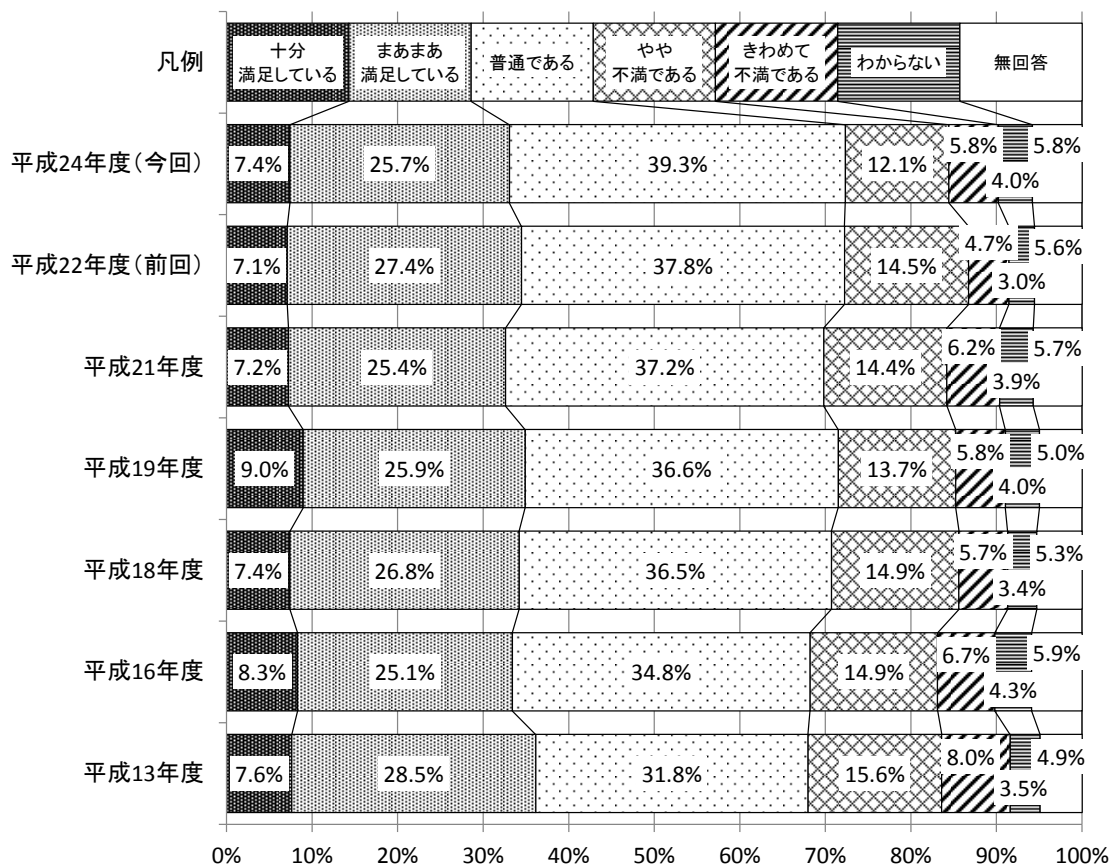


【まちの賑わいや買い物の便】、【通勤、通学などの交通の便】などの利便性に関わる項目の満足度は前回調査と比べわずかに減少しています。一方、【道路、公園、下水道などの都市施設】、【特色ある祭りや地域ぐるみのイベント】に対する満足度はわずかに高くなっています。

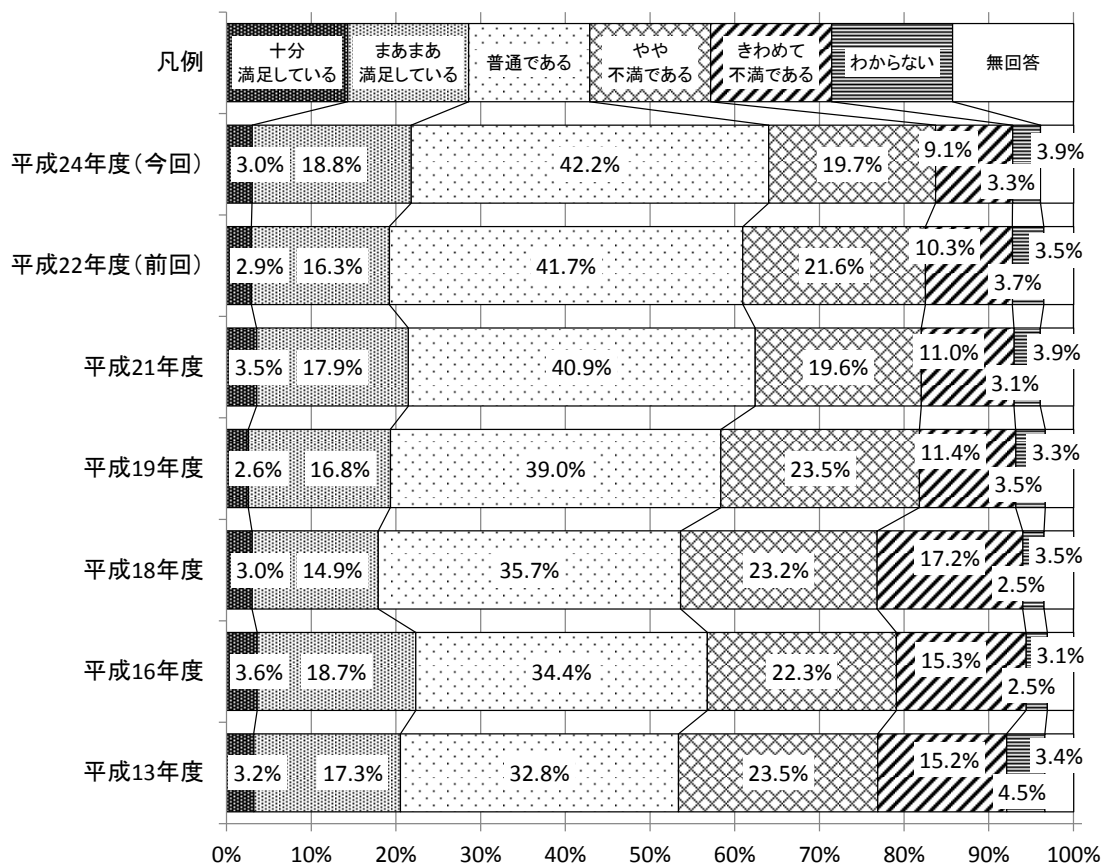
【まちの賑わいや買い物の便】



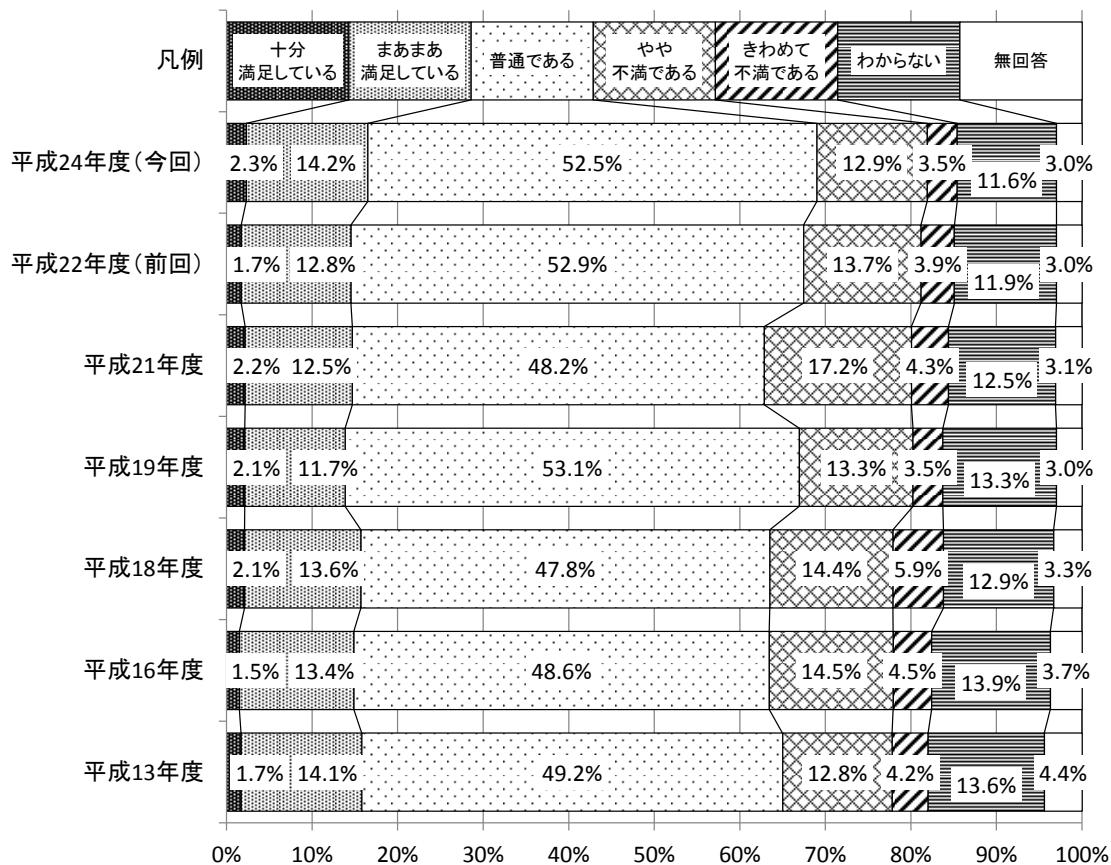
【通勤、通学などの交通の便】



【道路、公園、下水道などの都市施設】



【特色ある祭りや地域ぐるみのイベント】



指標

松戸の良さを伝えるために取り組んでいる市民の割合

(1) 指標の説明

魅力あるまちづくりに向けて、松戸の良さに気づき、その良さを他の人に伝えている市民が増えることが必要と考えられます。そこで、松戸の良さを伝えるために取り組んでいる市民の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「個人・行動」

Q10 あなたは日頃、松戸の良さを他の人に伝える活動をしていますか。次の中から、あてはまる番号1つに○をつけてください。

- | | |
|------------|------------|
| 1 日常的にしている | 3 あまりしていない |
| 2 ときどきしている | 4 全くしていない |

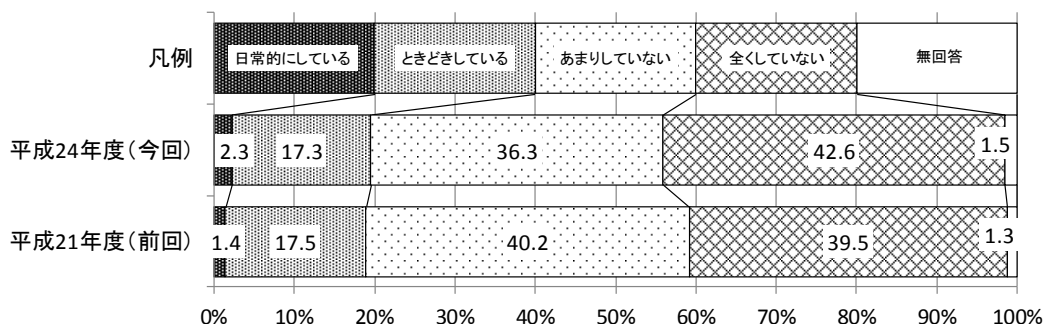
(3) 指標の現状

	平成 21年度	平成 24年度
日常的にしている	1.4%	2.3%
ときどきしている	17.5%	17.3%
計	19.0%	19.6%

(4) 指標の分析

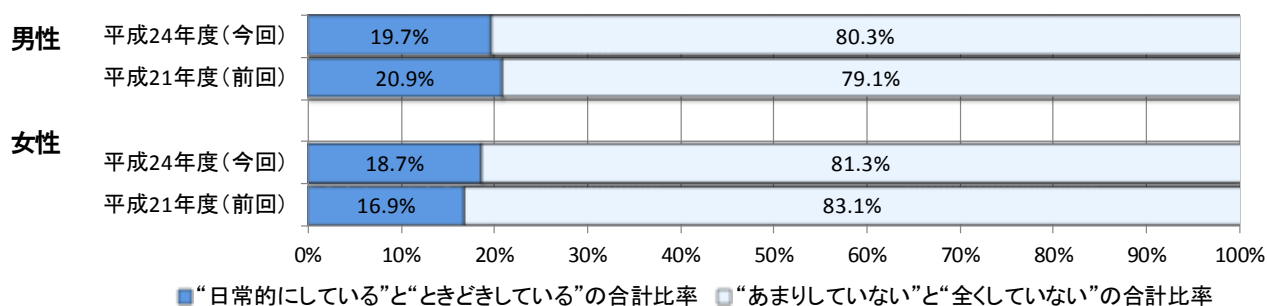
☆松戸の良さを他の人に伝えている人は2割未満となっています。

日頃、松戸の良さを他の人に伝える活動を、“日常的にしている”人の割合は前回調査に比べ増えています。
 “日常的にしている”と“ときどきしている”の合計は19.6%と2割未満で前回調査と同様の傾向となっています。



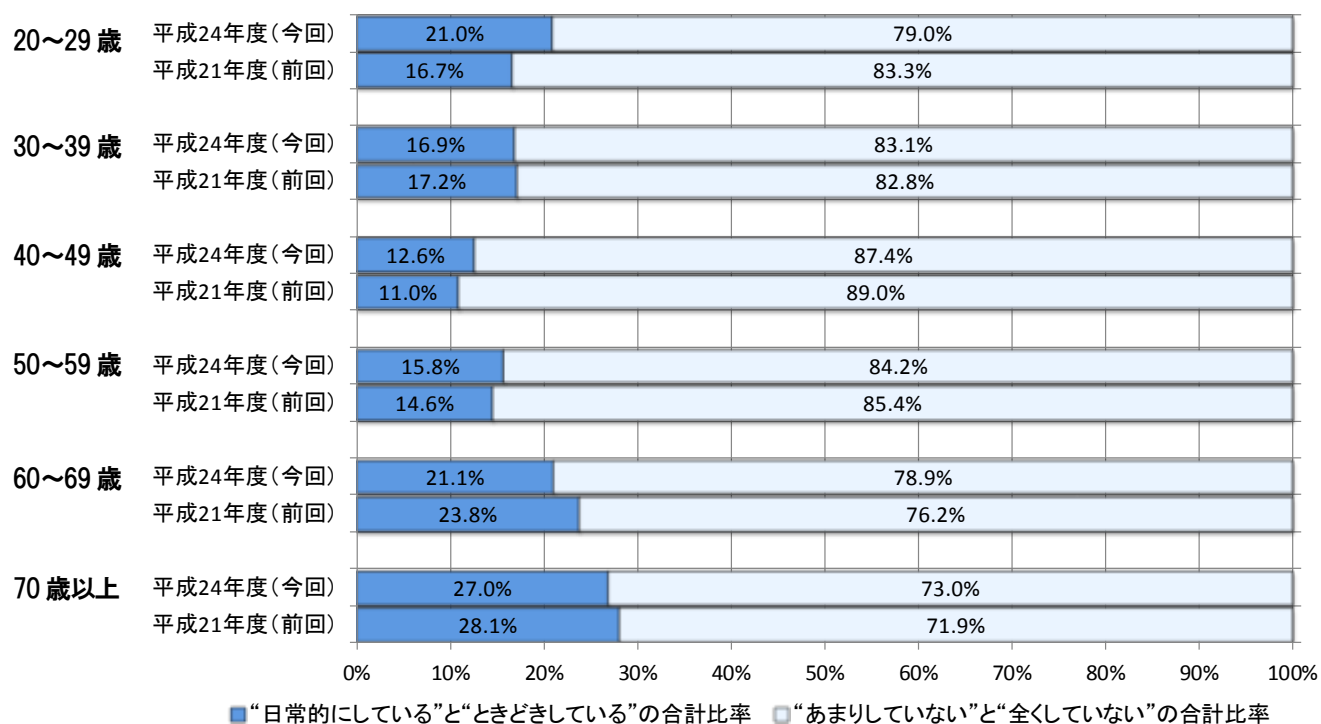
性別で見ると、女性よりも男性の方が松戸の良さを他の人に伝える活動をしている人の割合が高くなっています。

【松戸の良さの伝達×性別】



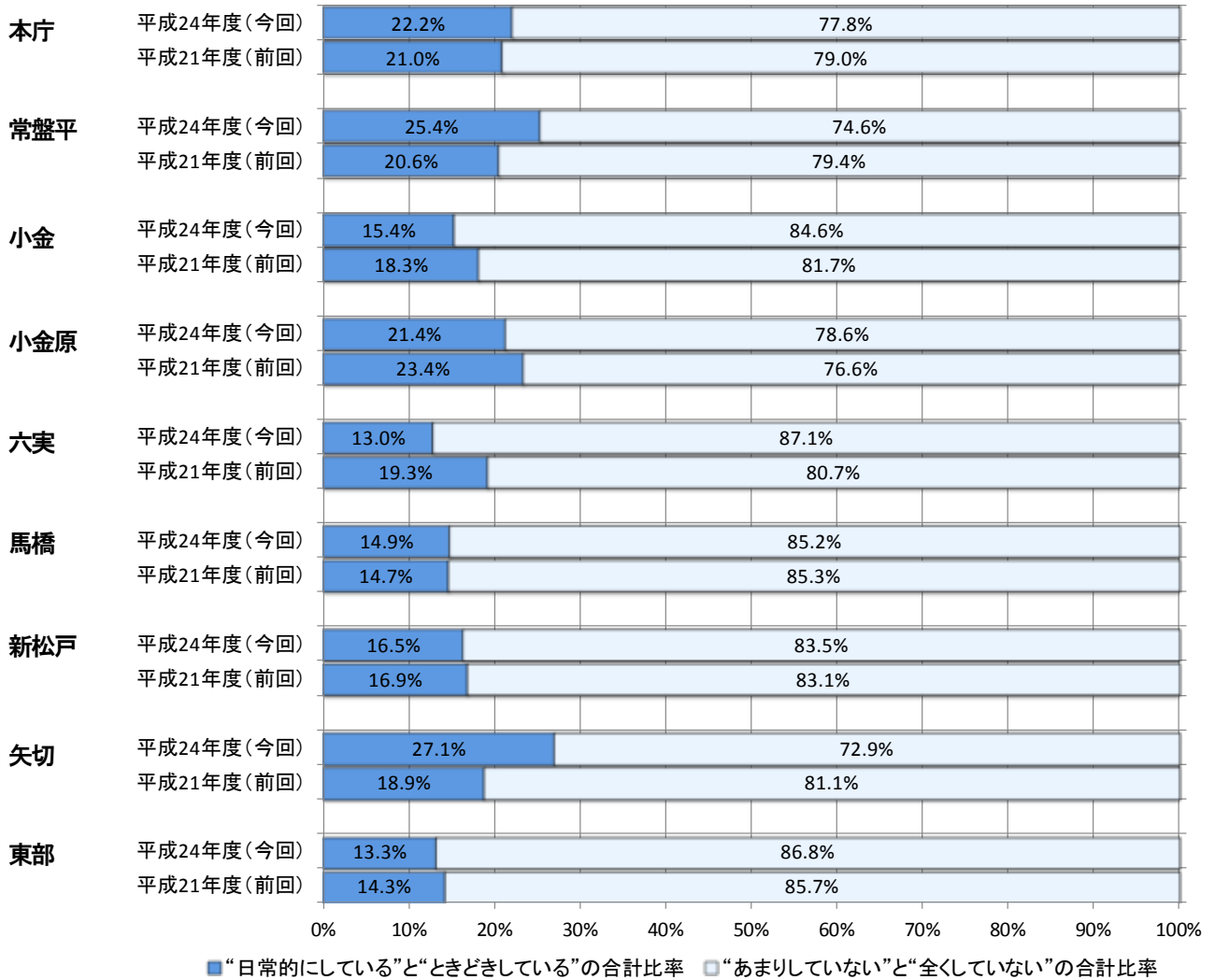
年齢別にみると、20歳代、60歳代、70歳以上では松戸の良さを他の人に伝える活動をしている人が2割を超えています。70歳以上では27.0%と他の年代に比べ高い割合となっています。

【松戸の良さの伝達×年齢】



地区別にみると、前回調査に比べ矢切地区では松戸の良さを他の人に伝える活動をしている人が 18.9%から 27.1%と 8.2 ポイント増えています。六実地区、東部地区ではそれぞれ 13.0%、13.3%と他の地区に比べ活動している人の割合が低くなっています。

【松戸の良さの伝達×地区】



第5節 安全で快適な生活環境の実現

第3項 ゆとりを感じるまちに住むことができるようにします

めざしたい将来像：

文化的で自然豊かなゆとりのあるまちと感じられるように、産・学・官・民が連携してまちづくりをすすめることで、地域のコミュニティが生まれ、市民のふるさととしてふさわしいまちを実現します。

指標

安心やゆとりを感じている人の割合

(1) 指標の説明

住環境の拡大や自然環境の保全是、多くの人々にゆとり感を与えます。そこで、安心やゆとりを感じている人の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、「安心やゆとりの6項目の満足度」を組みあわせ聞いています。「地域・態度(評価)」

※「保健・医療・福祉サービス」「緑地・河川などの自然環境」「空気のきれいさ、騒音、悪臭などの公害の少なさ」「まち並み、建物などまち全体の景観」「事故や災害に強い安全なまち」「住環境のゆとりなどの住宅事情」の6項目

Q20 あなたが松戸市で生活する中で、次のことについてどの程度満足しているかについて、次のア～タの各項目ごとに、あなたの考えに最も近い番号それぞれ1つに○をつけてください。

項目	十分満足している	まあまあ満足している	普通である	やや不満である	きわめて不満である	わからない
ア 保健・医療・福祉サービス	1	2	3	4	5	6
ケ 緑地・河川などの自然環境	1	2	3	4	5	6
コ 空気のきれいさ、騒音・悪臭などの公害の少なさ	1	2	3	4	5	6
サ まち並み、建物などまち全体の景観	1	2	3	4	5	6
シ 事故や災害に強い安全なまち	1	2	3	4	5	6
タ 住環境のゆとりなどの住宅事情	1	2	3	4	5	6

<総合満足度の算出について>

安心やゆとりの6項目の総合満足度については、次のような方法にもとづき算出しています。

- ・Q20ア、ケ、コ、サ、シ、タの6つの質問のそれぞれについて、選択肢に応じた評価点を付与する。
- ・該当する質問の評価点を合計し、合計点に基づいて総合満足度を判定する。

評価点

- ①「十分満足」 +2点
- ②「まあまあ満足」 +1点
- ③「普通」 ±0点
- ④「やや不満」 -1点
- ⑤「きわめて不満」 -2点



判定

- ①+5点以上 (十分満足している)
- ②+1～+4点 (まあまあ満足している)
- ③±0点 (普通である)
- ④-1～-4点 (やや不満である)
- ⑤-5点以下 (きわめて不満である)

該当する質問の評価点を合計する

(3) 指標の現状

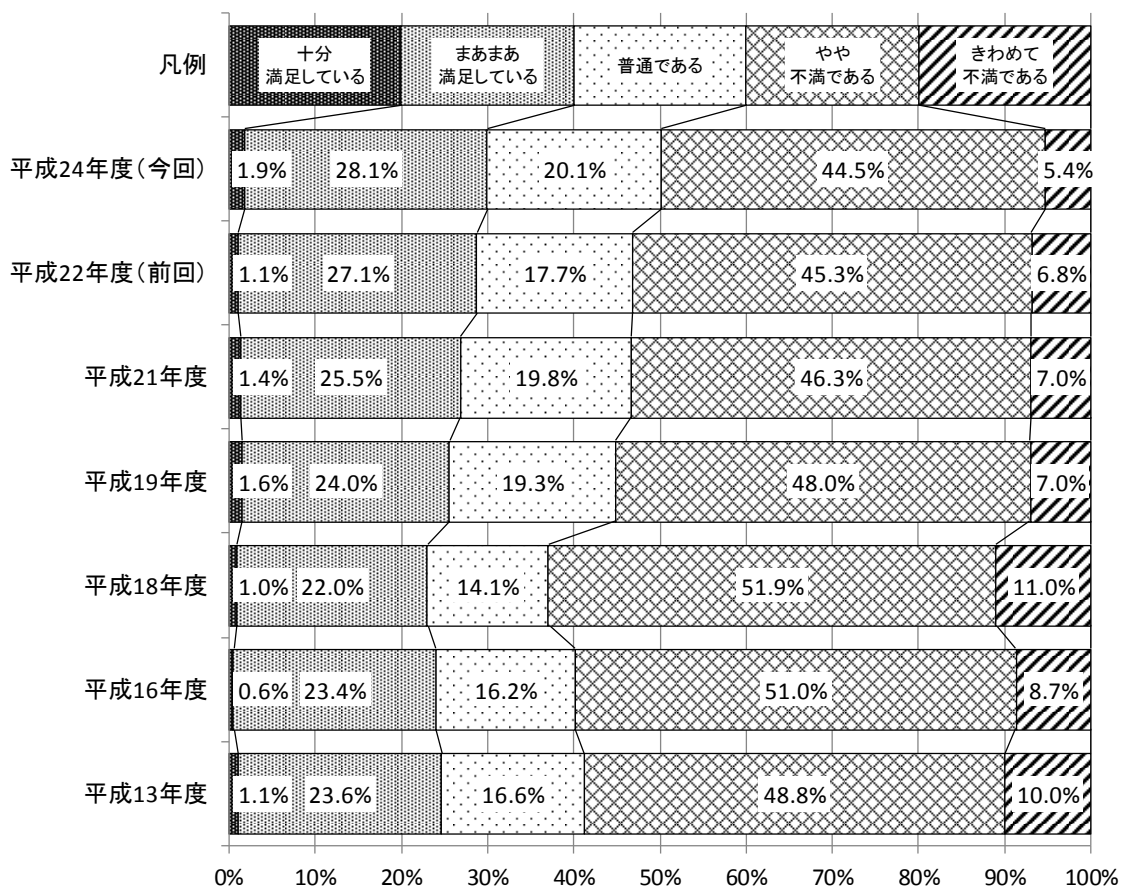
	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度
十分満足している	1.1%	0.6%	1.0%	1.6%	1.4%	1.1%	1.9%
まあまあ満足している	23.6%	23.4%	22.0%	24.0%	25.5%	27.1%	28.1%
計	24.7%	24.0%	23.0%	25.6%	26.9%	28.2%	30.0%

(4) 指標の分析

☆安心やゆとりに対する満足度は前回調査よりやや増加しています。

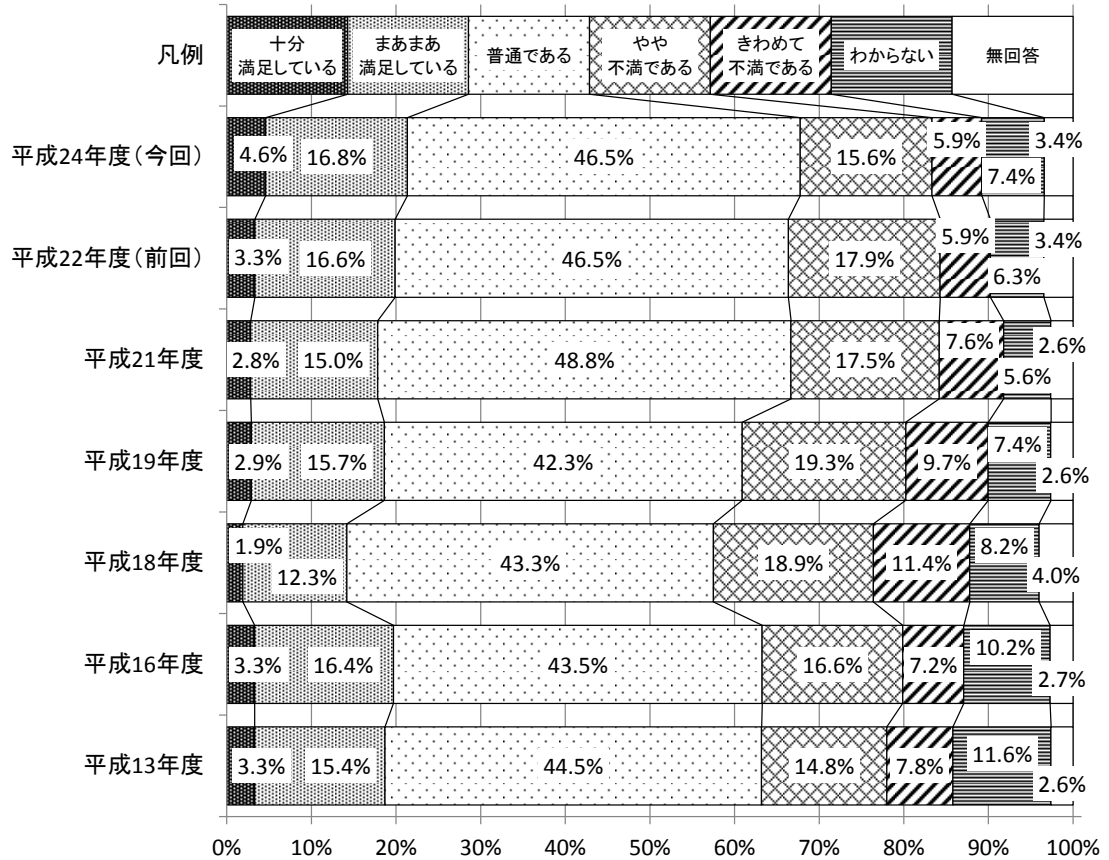
安心やゆとりの6項目の総合満足度についてみると、“十分満足している”(1.9%)、“まあまあ満足している”(28.1%)をあわせた、満足している層は30.0%で、前回調査の28.2%よりもやや増えています。

一方で、“やや不満である”(44.5%)が4割以上を占めて最も多く、“きわめて不満である”(5.4%)とあわせると、不満と感じている層が49.9%と満足層を大きく上回っています。

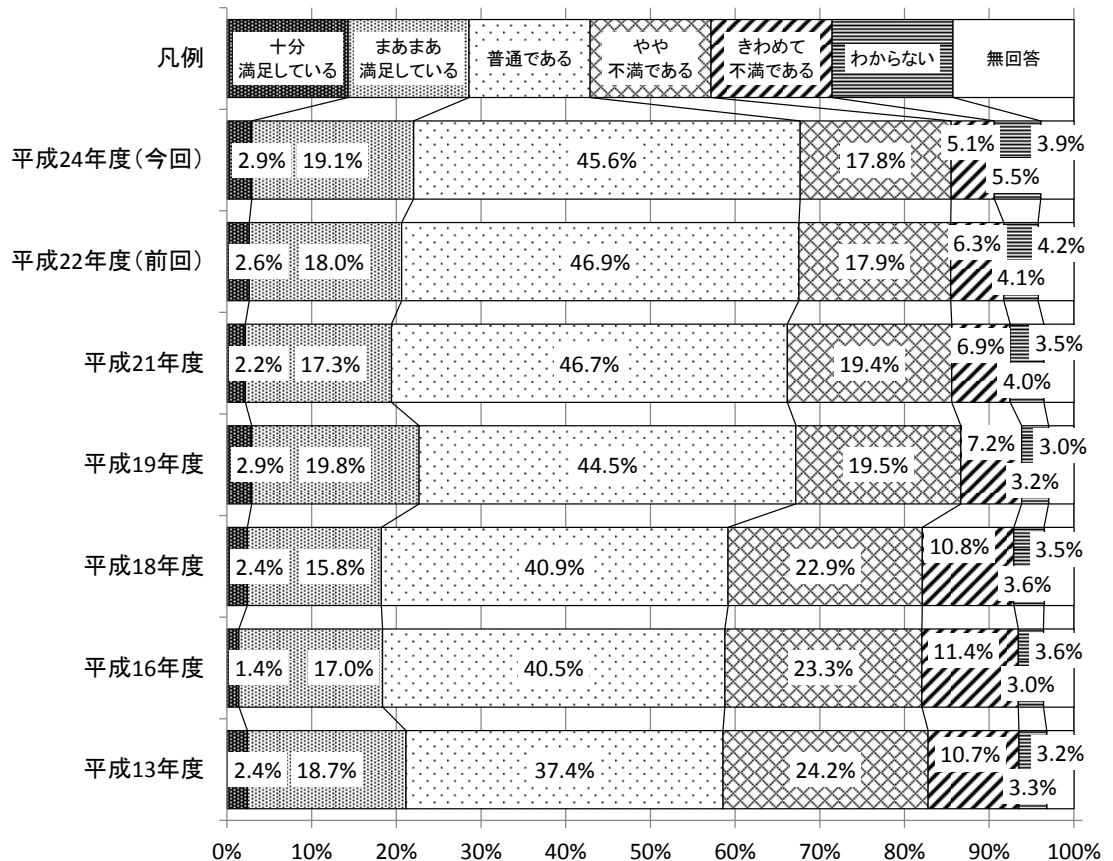


安心やゆとりに関わる6項目のうち、【保健・医療・福祉サービス】、【緑地・河川などの自然環境】、【空気のきれいさ、騒音、悪臭などの公害の少なさ】の3項目については満足している層が増加しています。

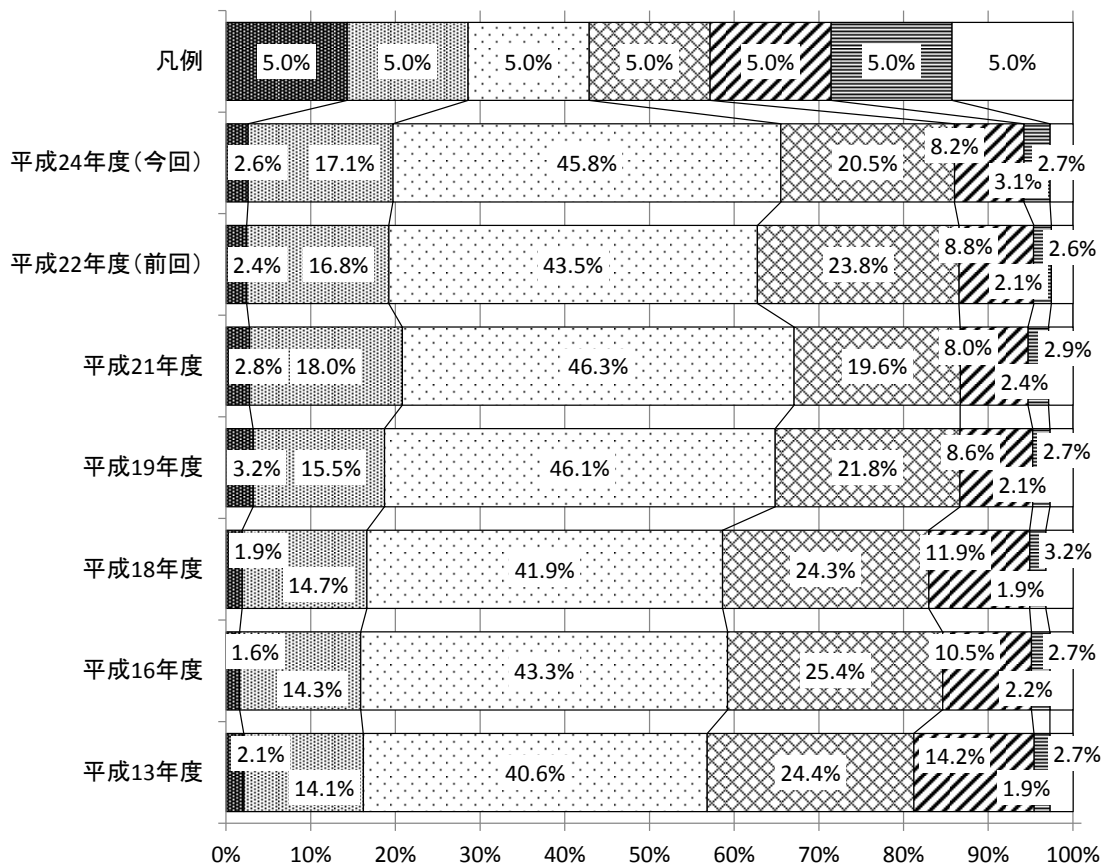
【保健・医療・福祉サービス】



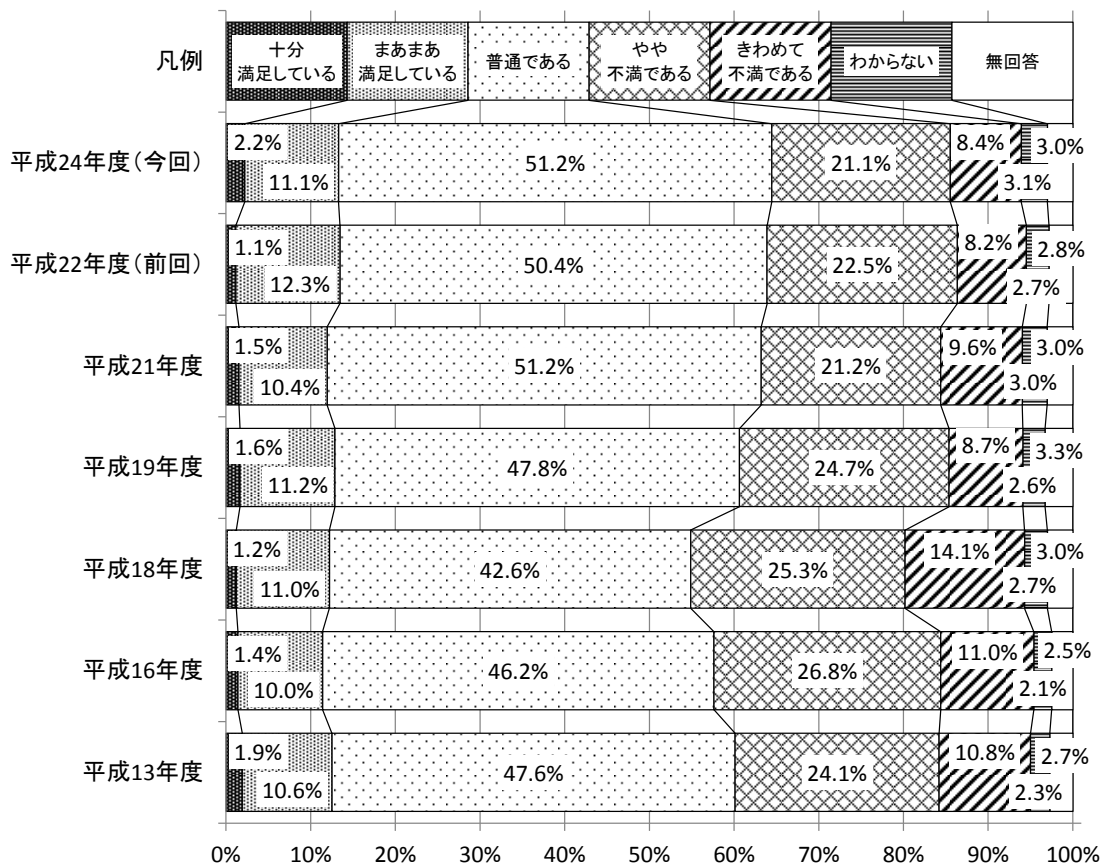
【緑地・河川などの自然環境】



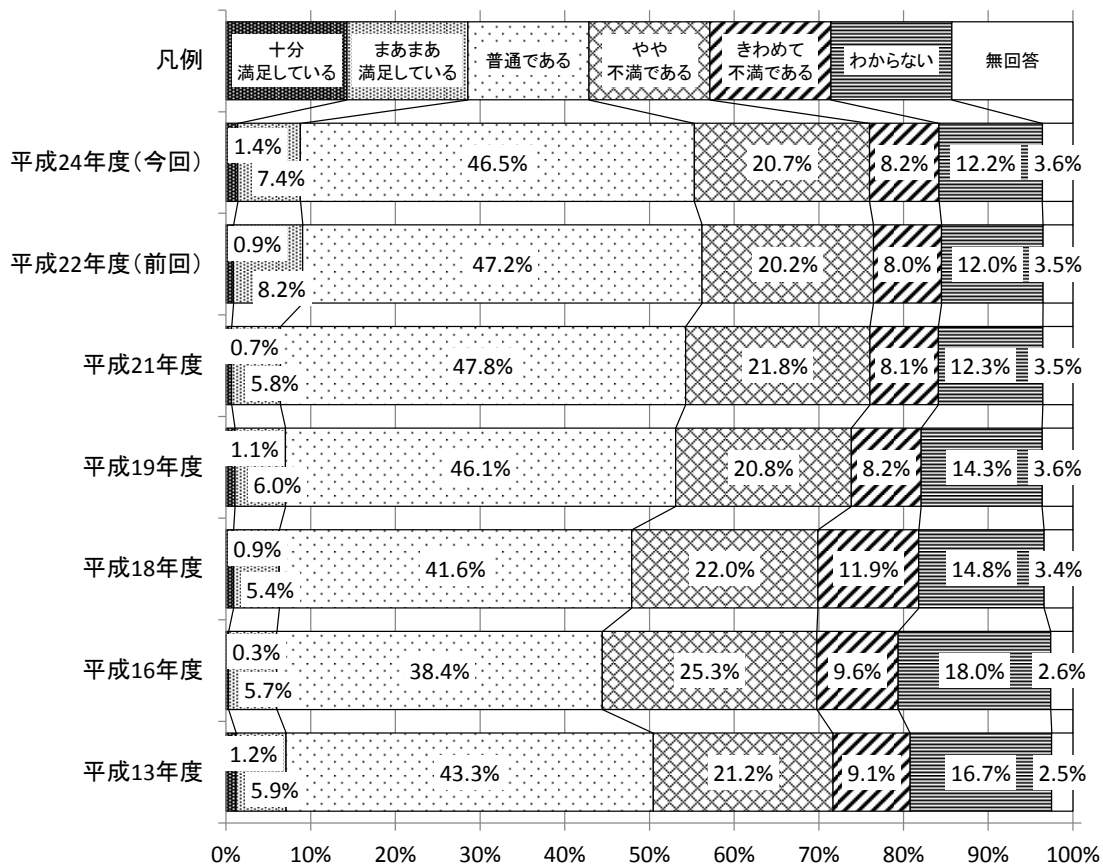
【空気のきれいさ、騒音、悪臭などの公害の少なさ】



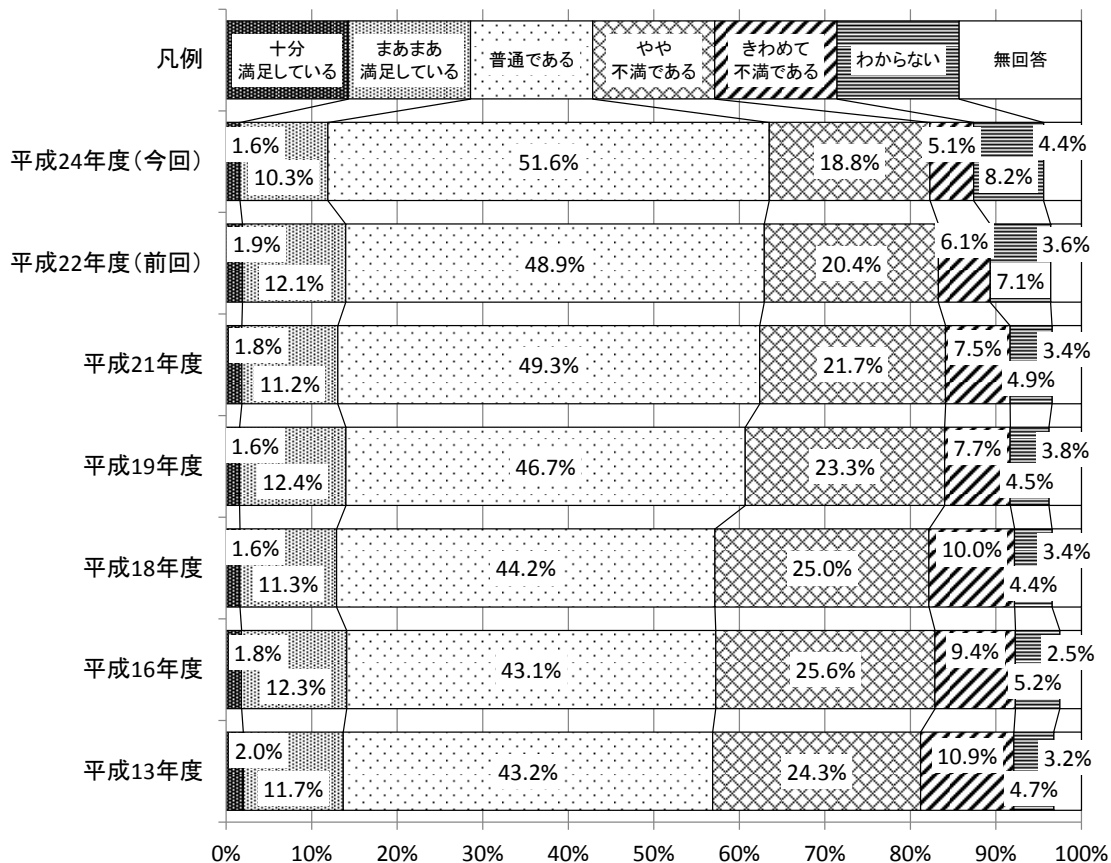
【まち並み、建物などまち全体の景観】



【事故や災害に強い安全なまち】



【住環境のゆとりなどの住宅事情】



第5節 魅力ある都市空間の形成と産業の振興

第5項 安全な河川に整備し、きれいな水とふれあえるようにします

めざしたい将来像：

清流と豊かな自然環境の保持に向けて、浸水被害を少なくし、川に親しめるような整備をすることで、川辺が市民の憩いの場となることを実現します。

指標

緑地・河川などの自然環境に満足している人の割合（再掲）

(1) 指標の説明

緑や水にふれあう度合いが増すことによって、これらの自然環境に対する市民の満足度も高くなると考え、緑地、河川などの自然環境に満足している人の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「地域・態度(評価)」

※「緑地・河川などの自然環境」の項目

Q20 あなたが松戸市で生活する中で、次のことについてどの程度満足しているかについて、次の各項目ごとに、あなたの考えに最も近いものをお答え下さい。(それぞれ1つに〇)

項目	十分満足している	まあまあ満足している	普通である	やや不満である	きわめて不満である	わからない
ケ 緑地・河川などの自然環境	1	2	3	4	5	6

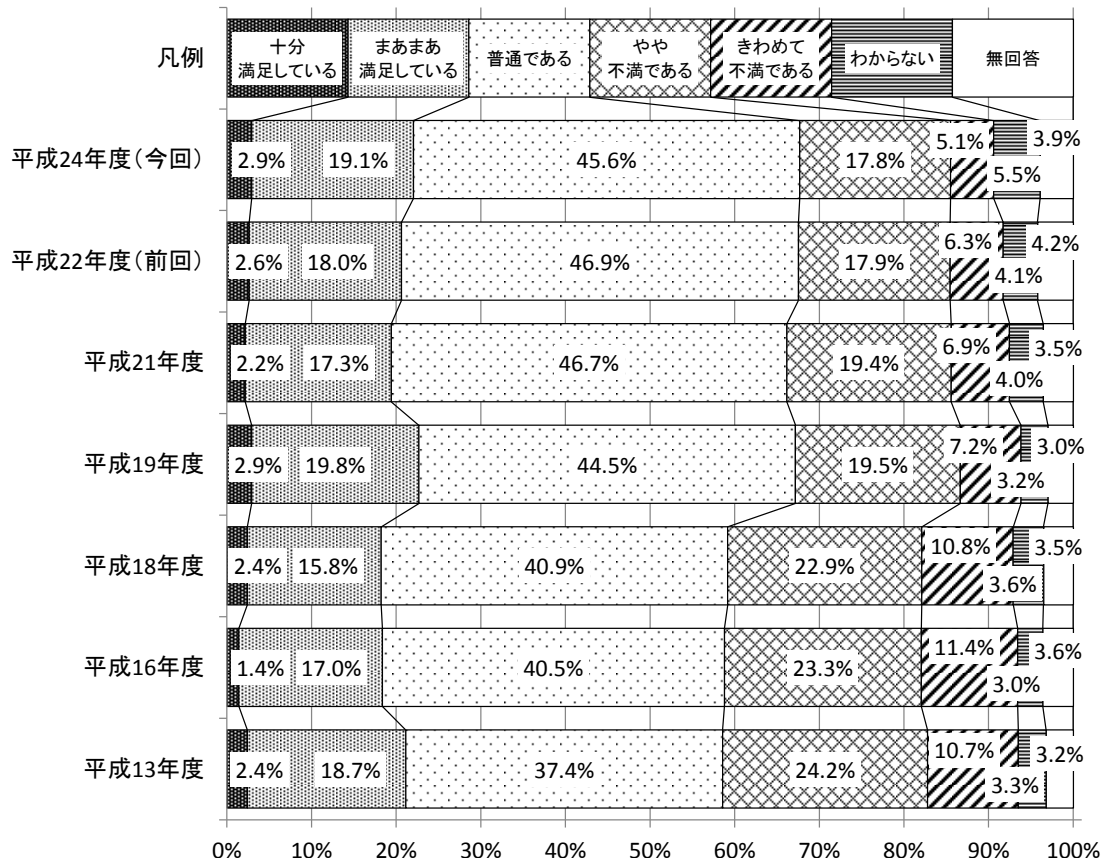
(3) 指標の現状

	平成13年度	平成16年度	平成18年度	平成19年度	平成21年度	平成22年度	平成24年度
十分満足している	2.4%	1.4%	2.4%	2.9%	2.2%	2.6%	2.9%
まあまあ満足している	18.7%	17.0%	15.8%	19.8%	17.3%	18.0%	19.1%
計	21.1%	18.4%	18.2%	22.7%	19.4%	20.6%	22.0%

(4) 指標の分析

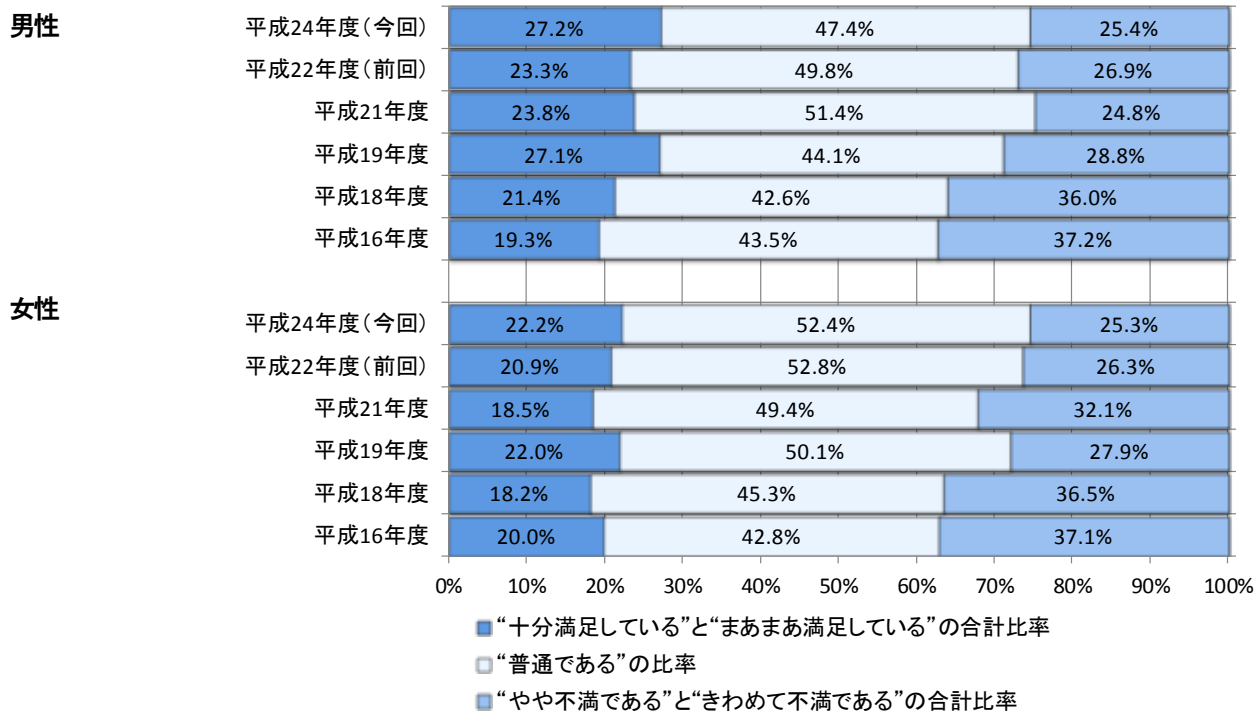
☆ **自然環境に対する満足度は22.0%と前回調査よりやや増加しています。**

緑地・河川などの自然環境に対する満足度をみると、“十分満足している”(2.9%)、“まあまあ満足している”(19.1%)をあわせた満足という回答の割合は22.0%と2割を超えています。一方で“やや不満である”(17.8%)、“きわめて不満である”(5.1%)をあわせた不満も22.9%と満足している層を上回っています。



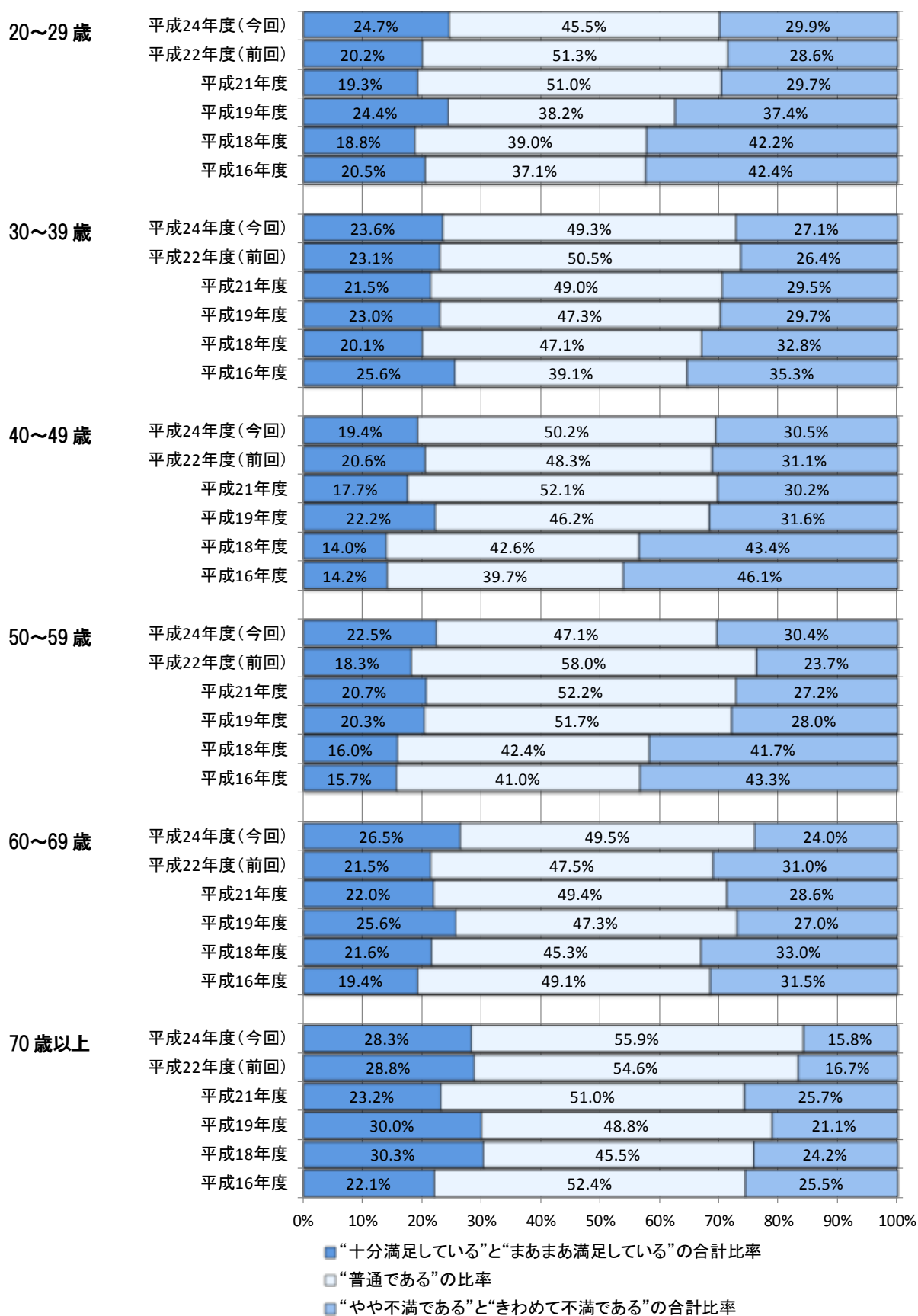
性別でみると、女性よりも男性の方が自然環境に対して満足している割合が高くなっています。

【自然環境×性別】



年齢別にみると、70歳以上で自然環境に対して“満足している”割合が最も高くなっています。40歳代を除く全年代で自然環境に対して“満足している”人は2割を越えています。

【自然環境×年齢】



第6節 都市経営の視点に立った行政運営

第1項 市民ニーズに基づく行政経営を行います

めざしたい将来像：

50万人になろうとする市民が、安心して住みやすく、満足してもらえるようなまちを実現します。そのため、継続的な対話を経た力強い連携から政策が生まれる仕組みづくりをし、経営基盤を強化します。

指標

住み続けたいと思う人の割合

(1) 指標の説明

誰もが住みやすい環境形成が実現できれば、今後も住み続けたいと思う意向が強くなると考えます。そこで、住み続けたいと思う人の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「個人・意向」

Q25 あなたは、これからも松戸市に住み続けたいと思いますか。(1つに○)

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1 住み続けたい | 4 あまり住み続けたくない |
| 2 できることなら住み続けたい | 5 住み続けたくない |
| 3 どちらとも言えない | |

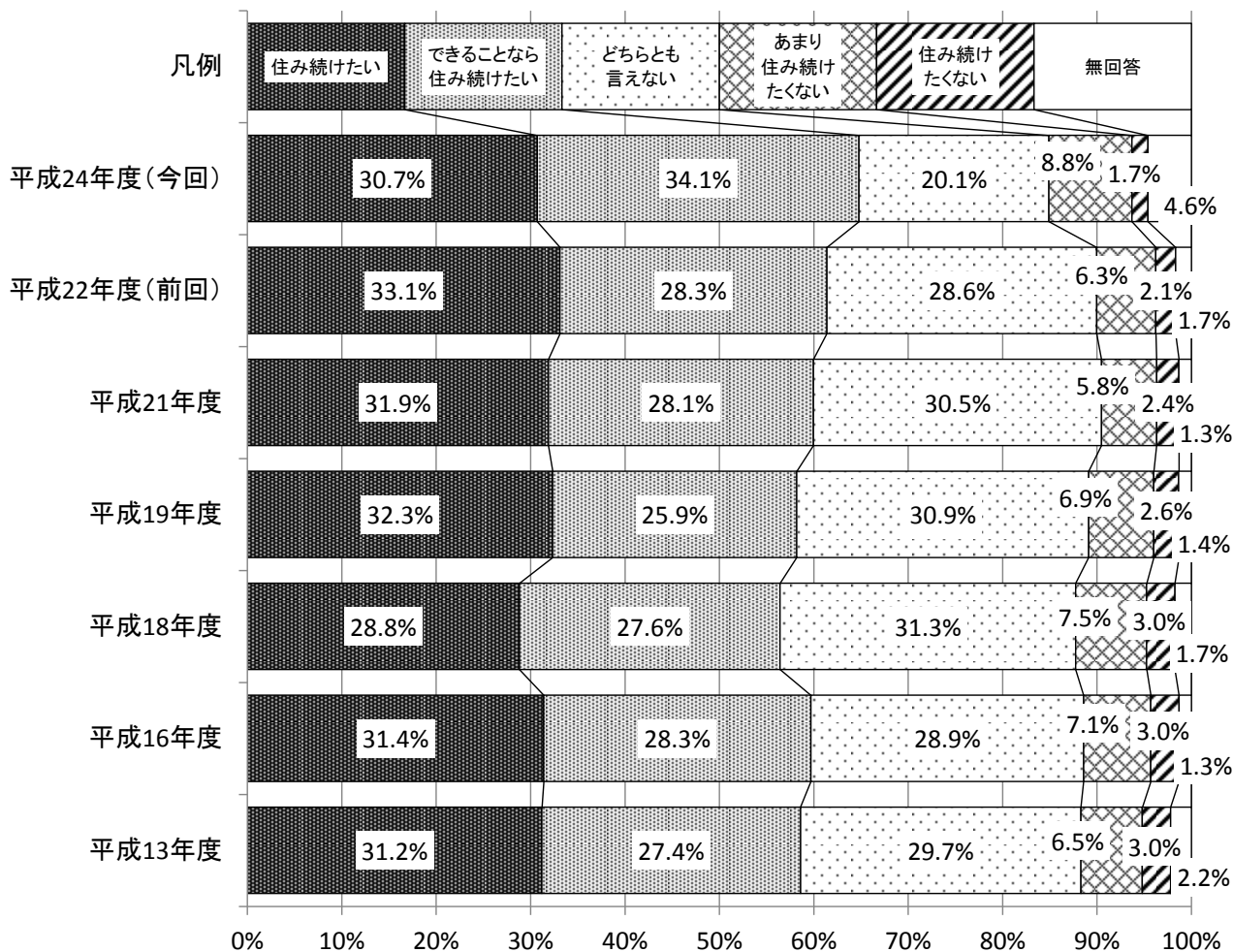
(3) 指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度
住み続けたい	31.2%	31.4%	28.8%	32.3%	31.9%	33.1%	30.7%
できることなら住み続けたい	27.4%	28.3%	27.6%	25.9%	28.1%	28.3%	34.1%
計	58.6%	59.7%	56.4%	58.2%	60.0%	61.4%	64.8%

(4) 指標の分析

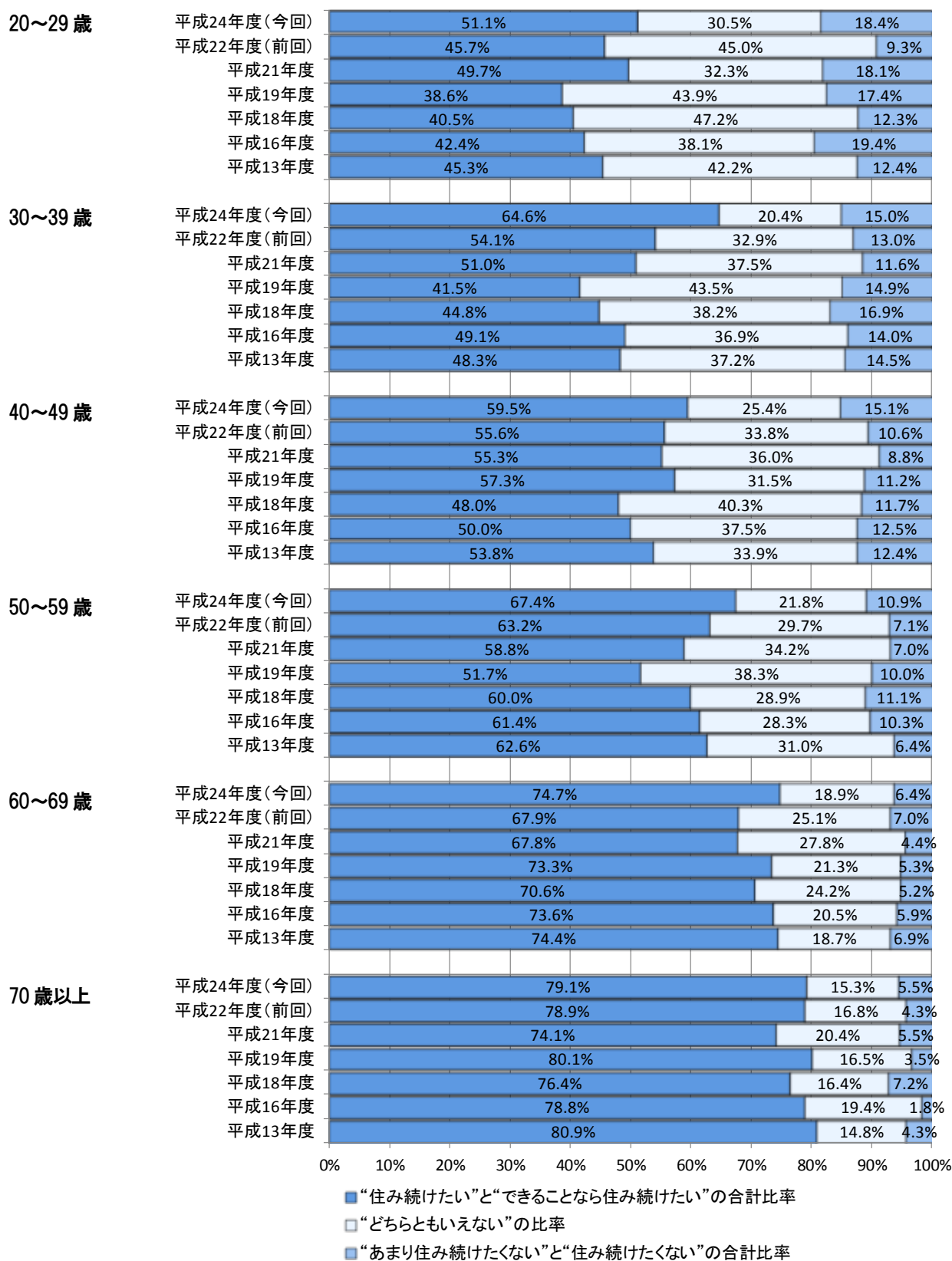
☆松戸市への定住意向は平成18年度以降徐々に高まり、前回調査と同様に6割以上が定住の意向を示しています。

“住み続けたい”との回答は30.7%と全体の約1/3を占めています。平成18年以降、“住み続けたい”、“できることなら住み続けたい”という本市への定住意向を示す回答の割合は徐々に高まっており、前回調査と同様に6割以上が定住の意向を示しています。



年齢別にみると、“住み続けたい”と“できることなら住み続けたい”という割合が、年代とともに高くなる傾向がみられます。また“住み続けたい”と“できることなら住み続けたい”という割合が全年代で増加しています。

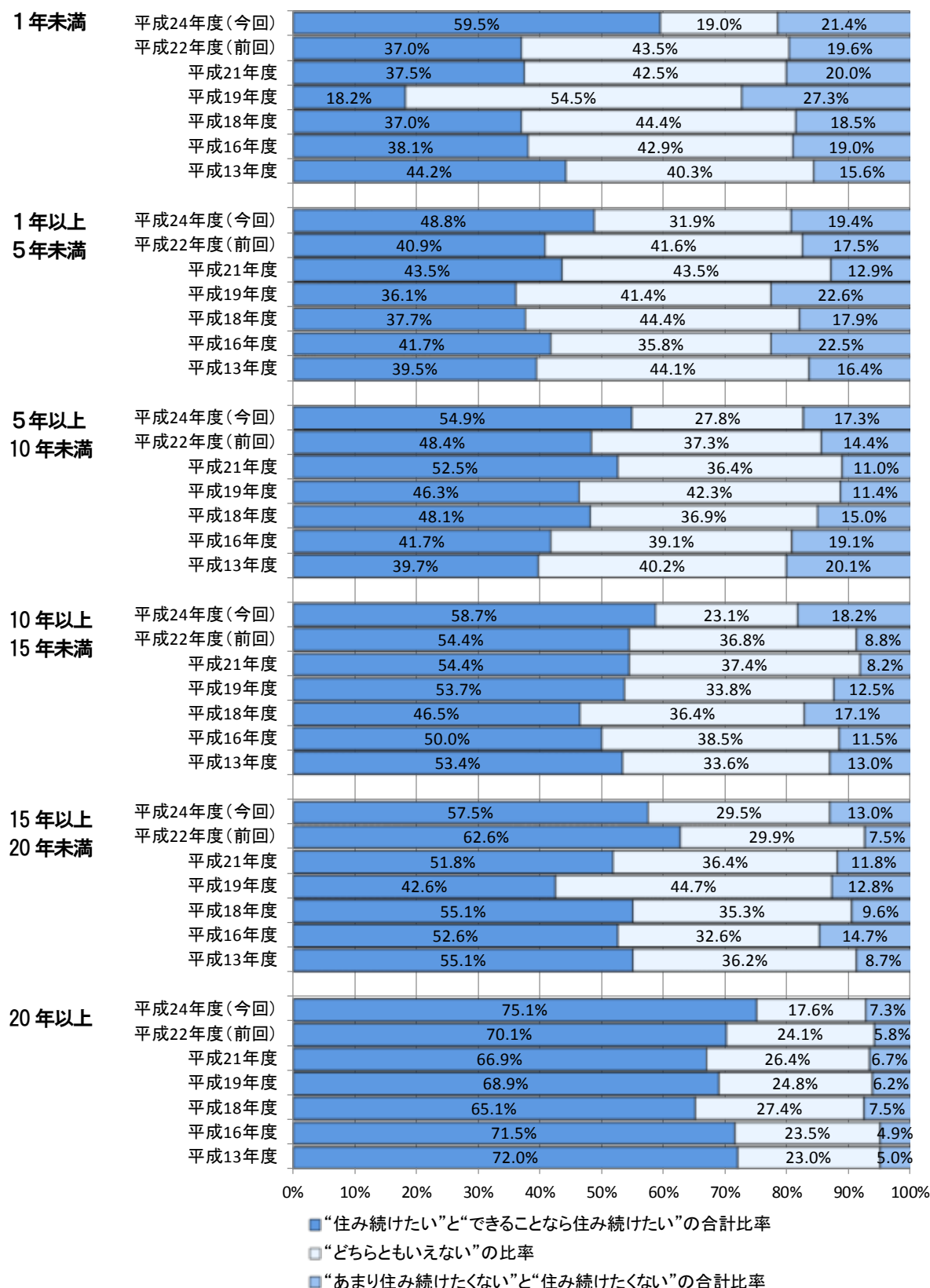
【定住意向×年齢】



在住年数別にみると、“住み続けたい”と“できることなら住み続けたい”の割合は、20年以上の人で75.1%と最も高く、次いで1年未満の人(59.5%)が高いという結果になりました。

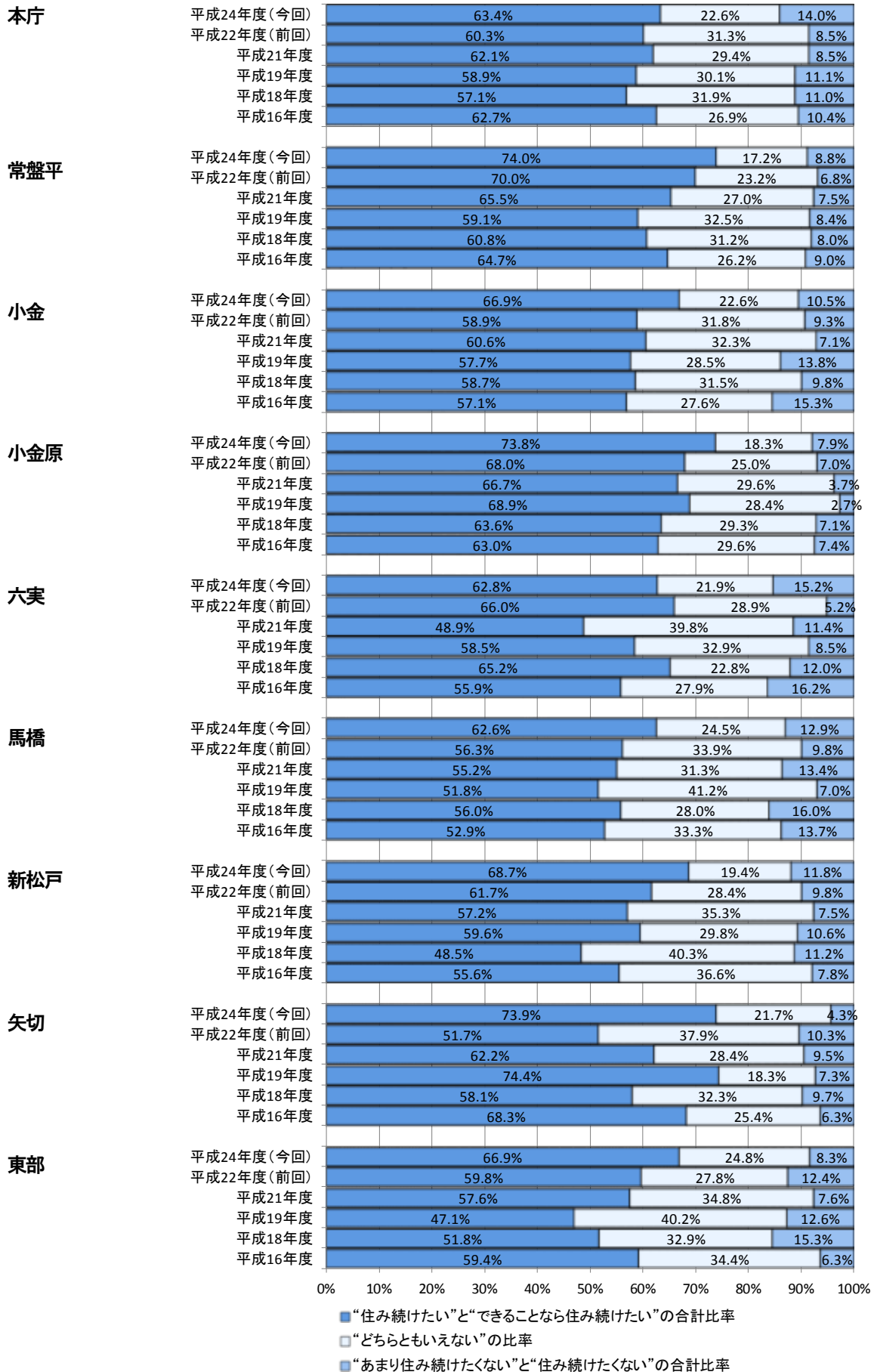
前回調査に比べ15年以上20年未満の人以外で“住み続けたい”と“できることなら住み続けたい”の割合が増え、特に1年未満の人では大きく増加しています。

【定住意向×松戸市在住年数】



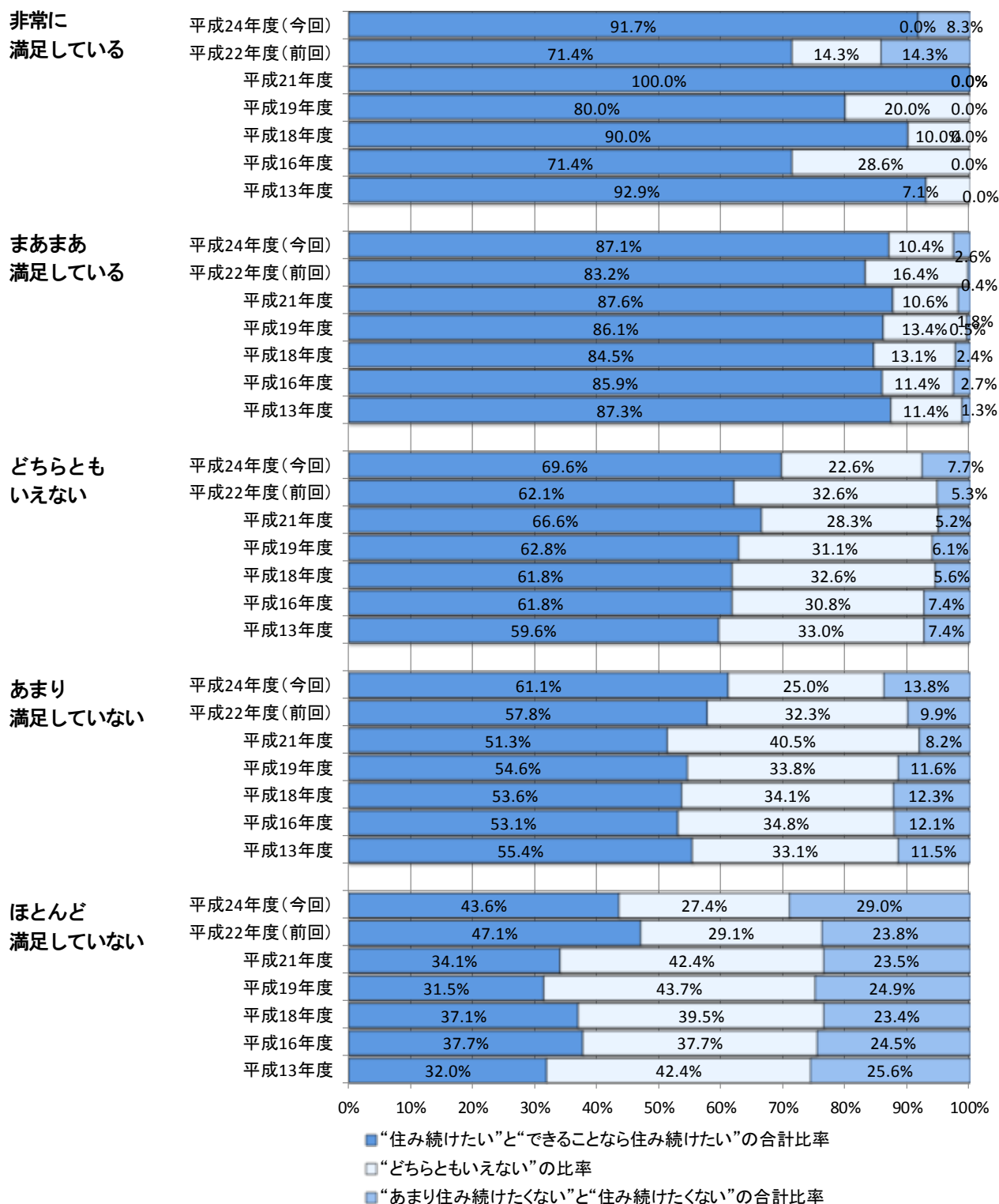
地区別にみると、全地区で“住み続けたい”と“できることなら住み続けたい”という割合は6割を超えています。常盤平地区、小金原地区、矢切地区では“住み続けたい”と“できることなら住み続けたい”という割合が7割を超えています。

【定住意向×地区】



現在の行政サービスの満足度別にみると、前回調査と同様に満足度が高い人ほど住み続けたい意向が高くなる傾向となっています。また、ほとんど満足していない人では“あまり住み続けたくない”と“住み続けたくない”の合計が29.0%と3割近くとなっています。

【定住意向×税金の対価サービス満足度】



指標

行政サービスの改善度

(1) 指標の説明

市民の満足度向上のため、行政サービスが改善されたと感じる人の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「個人・意向」

Q19 あなたは、全体として松戸市の行政サービスについて、どのように感じていますか。次の中から、あてはまる番号1つに○をつけてください。

- | | |
|------------------|------------------|
| 1 以前より非常に良くなっている | 4 以前より多少悪くなっている |
| 2 以前より多少良くなっている | 5 以前より非常に悪くなっている |
| 3 以前と変わらない | |

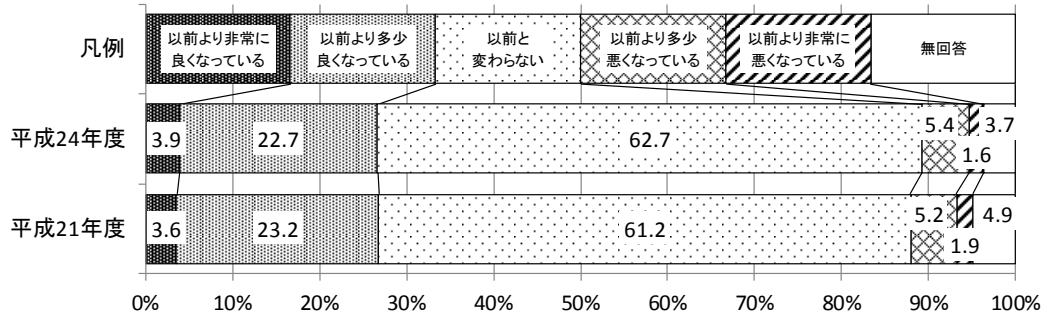
(3) 指標の現状

	平成 21年度	平成 24年度
以前より非常に良くなっている	3.6%	3.9%
以前より多少良くなっている	23.2%	22.7%
計	26.8%	26.6%

(4) 指標の分析

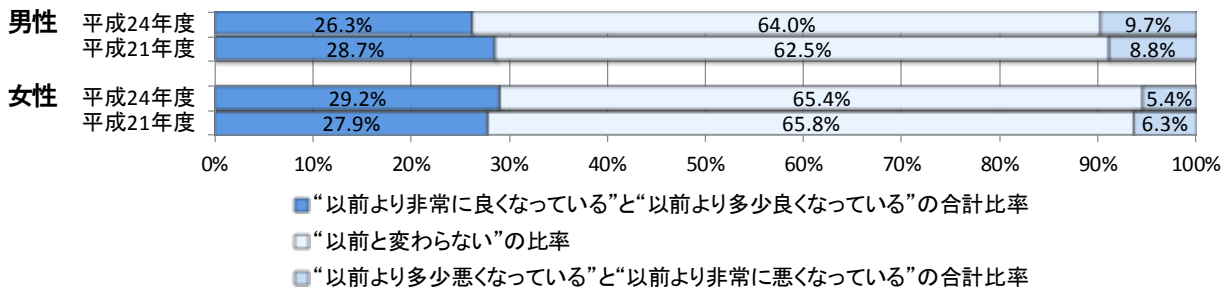
☆行政サービスが以前より良くなっていると感じている市民は3割弱と前回調査と同様の傾向です。

松戸市の行政サービスが“以前より非常に良くなっている”と“以前より多少良くなっている”と感じている人の合計は26.6%と平成21年度調査と同様の傾向となっています。“以前と変わらない”と感じている人は6割を超えています。



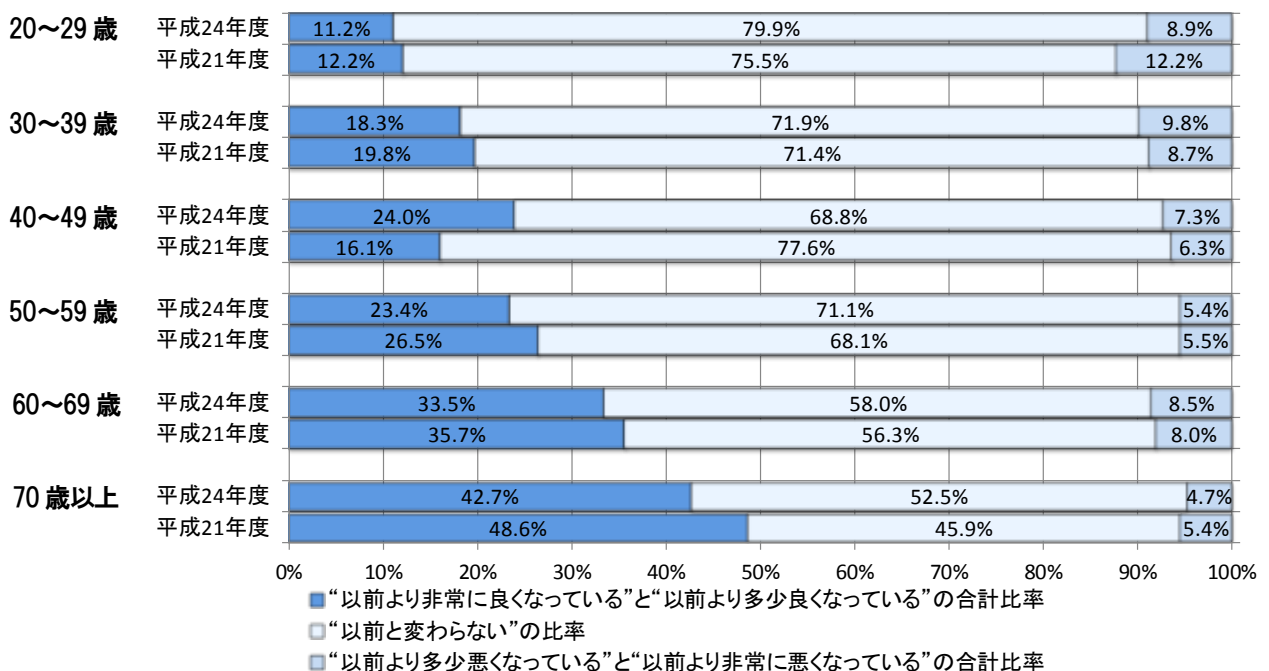
性別でみると、行政サービスが良くなっていると感じているのは男性よりも女性が多くなっています。男性では以前より悪くなっていると感じている人の割合が8.8%から9.7%と0.9ポイント増えています。

【行政サービスの改善度×性別】



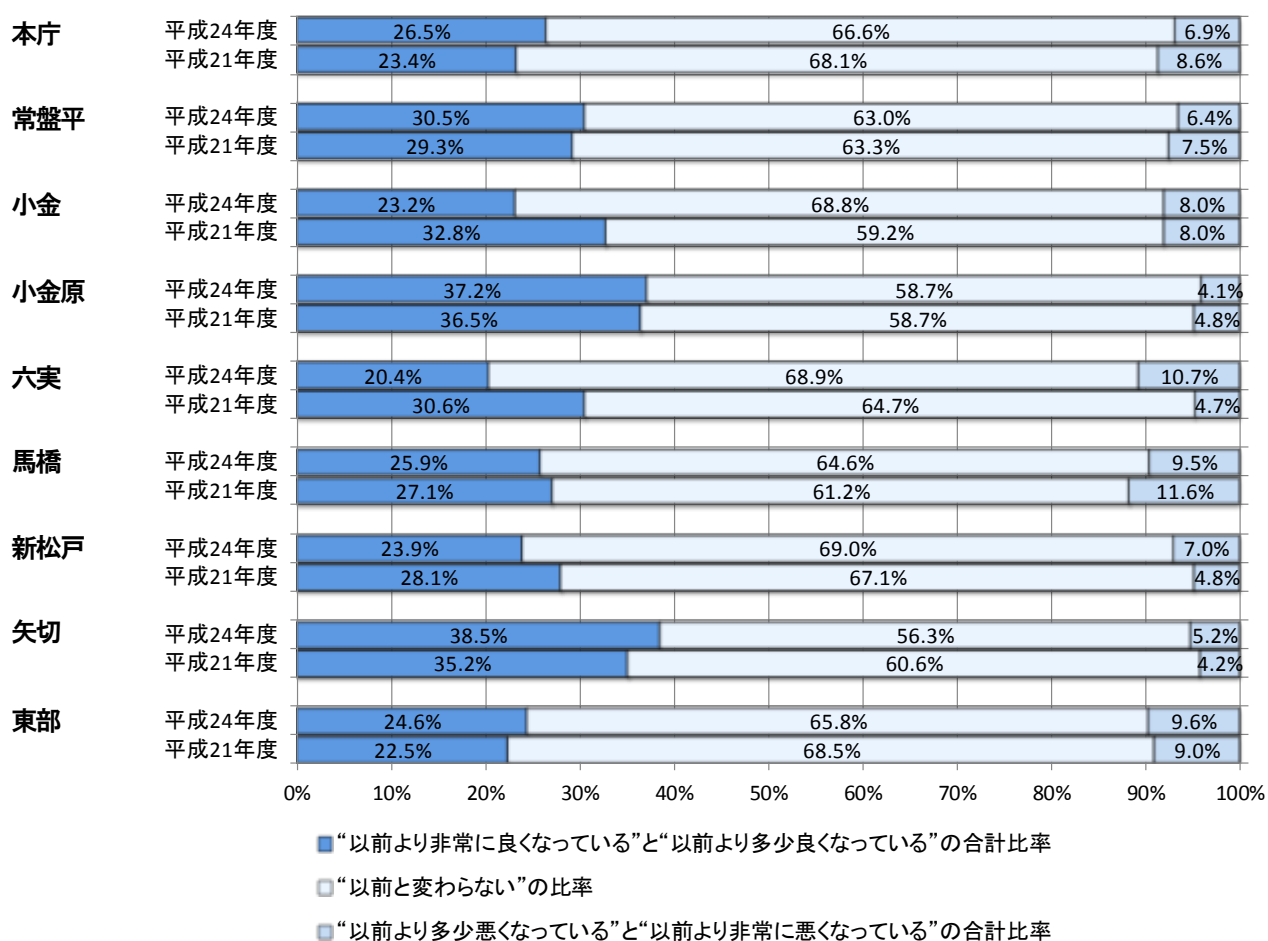
年齢別にみると、平成21年度調査と同様に年齢に比例して満足度が高くなる傾向となっています。70歳以上では以前より良くなっていると感じる人の割合が42.7%と他の年代に比べ多くなっています。

【行政サービスの改善度×年齢】



地区別にみると、常盤平地区、小金原地区、矢切地区で以前より良くなっていると感じている人が3割を超えています。また、六実地区のみ以前より悪くなっていると感じる人が1割を超えています。

【行政サービスの改善度×地区】



指標

行政情報入手手段に係るホームページの割合

(1) 指標の説明

行政の取り組みに関心を持つ市民が増えれば、ホームページで松戸市の情報を入手する市民も増えると考えられます。そこで、行政情報入手手段に係るホームページの割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。

F10 あなたは、松戸市の行政情報を主に何によって入手しているかお答えください。(2つまで○)

- | | |
|---|---------------|
| 1 テレビ・ラジオ | 7 各種パンフレット |
| 2 新聞・雑誌 | 8 町会などでの集会や会合 |
| 3 広報誌（広報まつど） | 9 市が主催する説明会など |
| 4 松戸市のホームページ | 10 特にない |
| 5 松戸市安全安心メール | 11 その他 |
| 6 ツイッター、フェイスブック等のSNS
（ソーシャル・ネットワーキング・サービス） | [] |

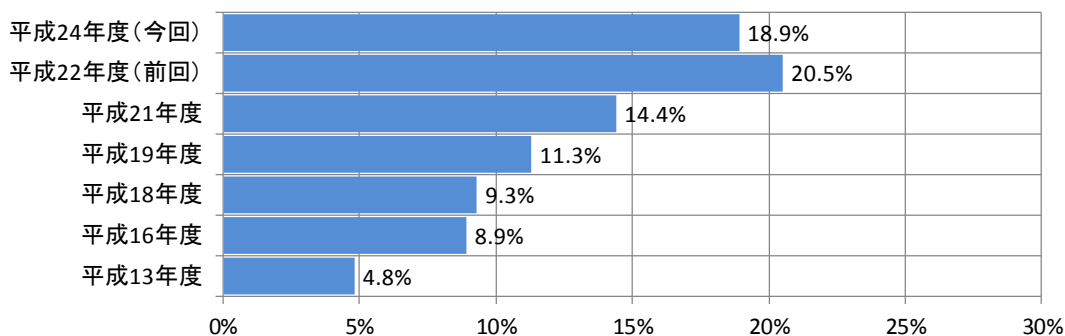
(3) 指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度
松戸市のホームページ	4.8%	8.9%	9.3%	11.3%	14.4%	20.5%	18.9%

(4) 指標の分析

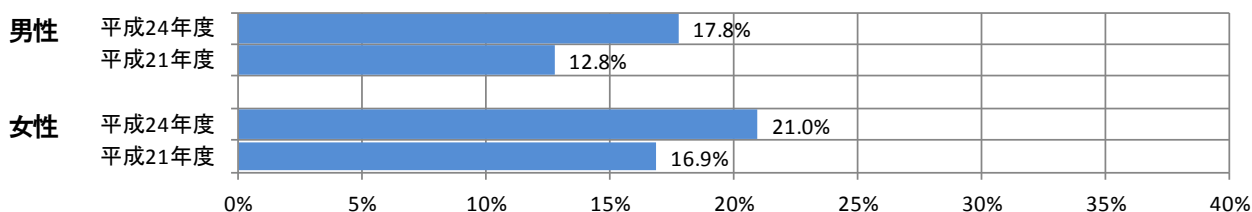
☆ホームページから松戸市の情報を入手している割合は2割弱となっています。

ホームページから松戸市の情報を入手している人は18.9%で前回調査に比べやや減少しています。



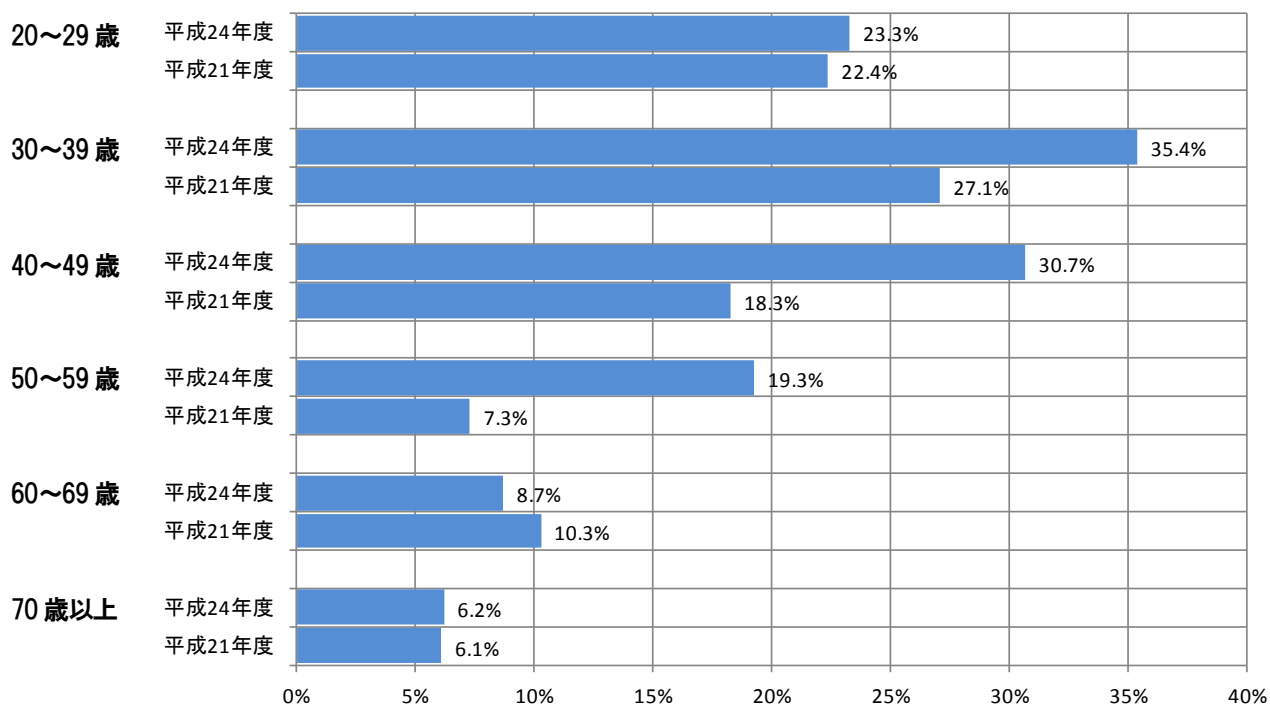
性別で見ると、男性よりも女性の方がホームページから松戸市の情報を入手している人が多くなっています。男女とも平成21年度調査に比べホームページから松戸市の情報を入手している人の割合が増えています。

【行政情報の入手手段×性別】



年齢別にみると、30歳代、40歳代ではホームページから松戸市の情報を入手している人が3割を超えています。50歳代では前回調査に比べ7.3%から19.3%と12.0ポイント増えています。

【行政情報の入手手段×年齢】



指標

インターネットを利用している人の割合

(1) 指標の説明

インターネットを利用できる環境にある人は、その双方向性を活かして、活発に外部とのコミュニケーションを図ることにより、社会における活動範囲が拡大するとともに、生活の質の改善にもつながっていくと考えられます。そこでインターネットを利用している人の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「個人・行動」

Q12 あなたは、ご自身でインターネット（携帯電話やスマートフォンによるネット利用を含む）を利用しますか。（1つに○）

- | | |
|----------------|---------------|
| 1 毎日のように利用している | 4 ほとんど利用していない |
| 2 時々利用している | 5 全く利用していない |
| 3 たまに利用している | |

併せて、付問(前問で1~3を選択した人のみ)により活用内容と利用媒体についても聞いている。

SQ1 あなたは、インターネットをどのようなことに活用していますか。（あてはまる番号全てに○）

- | |
|--|
| 1 電子メールの送信によく利用している |
| 2 メールマガジンやニュースなどのメール情報をよく受信している |
| 3 いろいろなホームページを開いて情報を入手している |
| 4 チケット予約やショッピング、オークション参加、株売買など買い物や取引
きをしている |
| 5 自分自身でホームページやブログ（フェイスブックやツイッター含む）などを利用し、情
報を発信している |
| 6 その他（ ） |

SQ2 あなたのインターネット利用は、次の中のどれにあてはまりますか。（1つに○）

- | | |
|-----------------------------------|-----------------------------------|
| 1 パソコンからのみ利用している | 4 携帯電話・スマートフォンが主で、補助的にパソコンを利用している |
| 2 パソコンが主で、補助的に携帯電話・スマートフォンを利用している | 5 携帯電話・スマートフォンからのみ利用している |
| 3 パソコン、携帯電話・スマートフォンの利用がほぼ半々である | 6 その他（ ） |

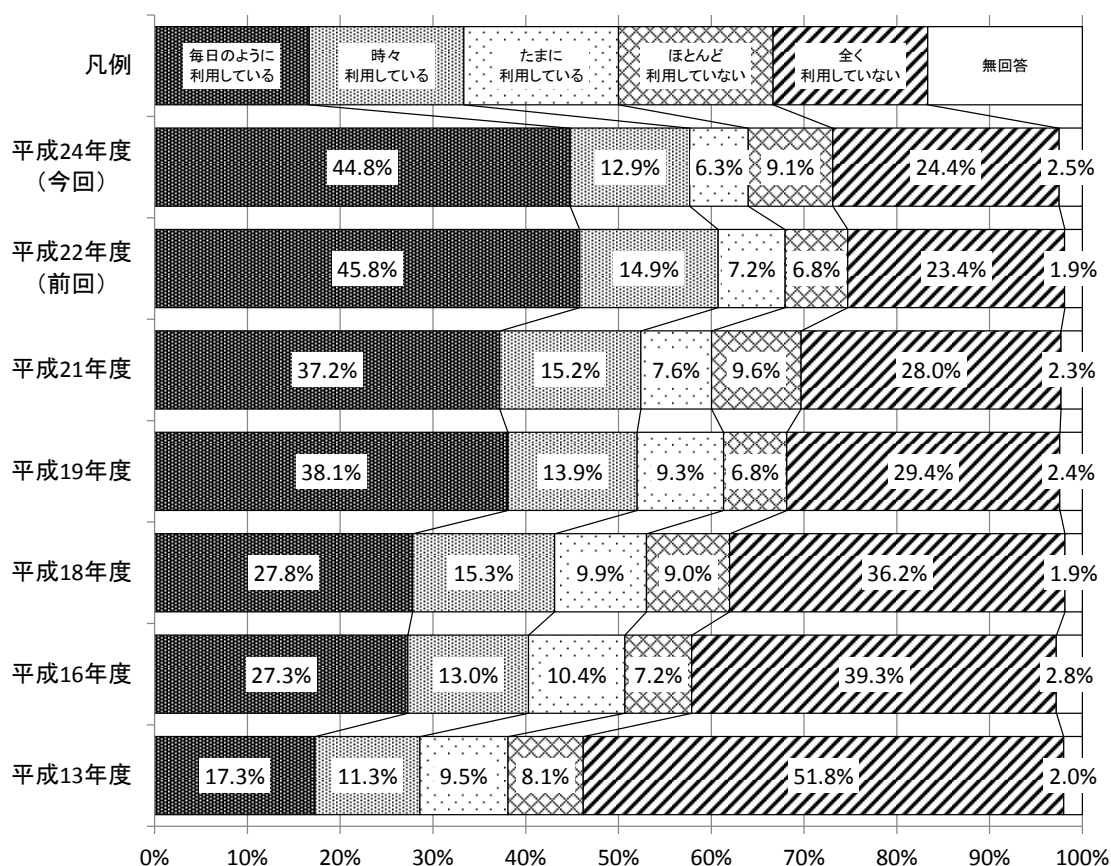
(3) 指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度
毎日のように利用している	17.3%	27.3%	27.8%	38.1%	37.2%	45.8%	44.8%
時々利用している	11.3%	13.0%	15.3%	13.9%	15.2%	14.9%	12.9%
たまに利用している	9.5%	10.4%	9.9%	9.3%	7.6%	7.2%	6.3%
計	38.1%	50.7%	53.0%	61.3%	60.0%	68.0%	64.0%

(4) 指標の分析

☆インターネット利用者は前回調査に比べやや減少しているものの6割を占め、“毎日のように利用している”という利用頻度の高い人は4割を占めています。

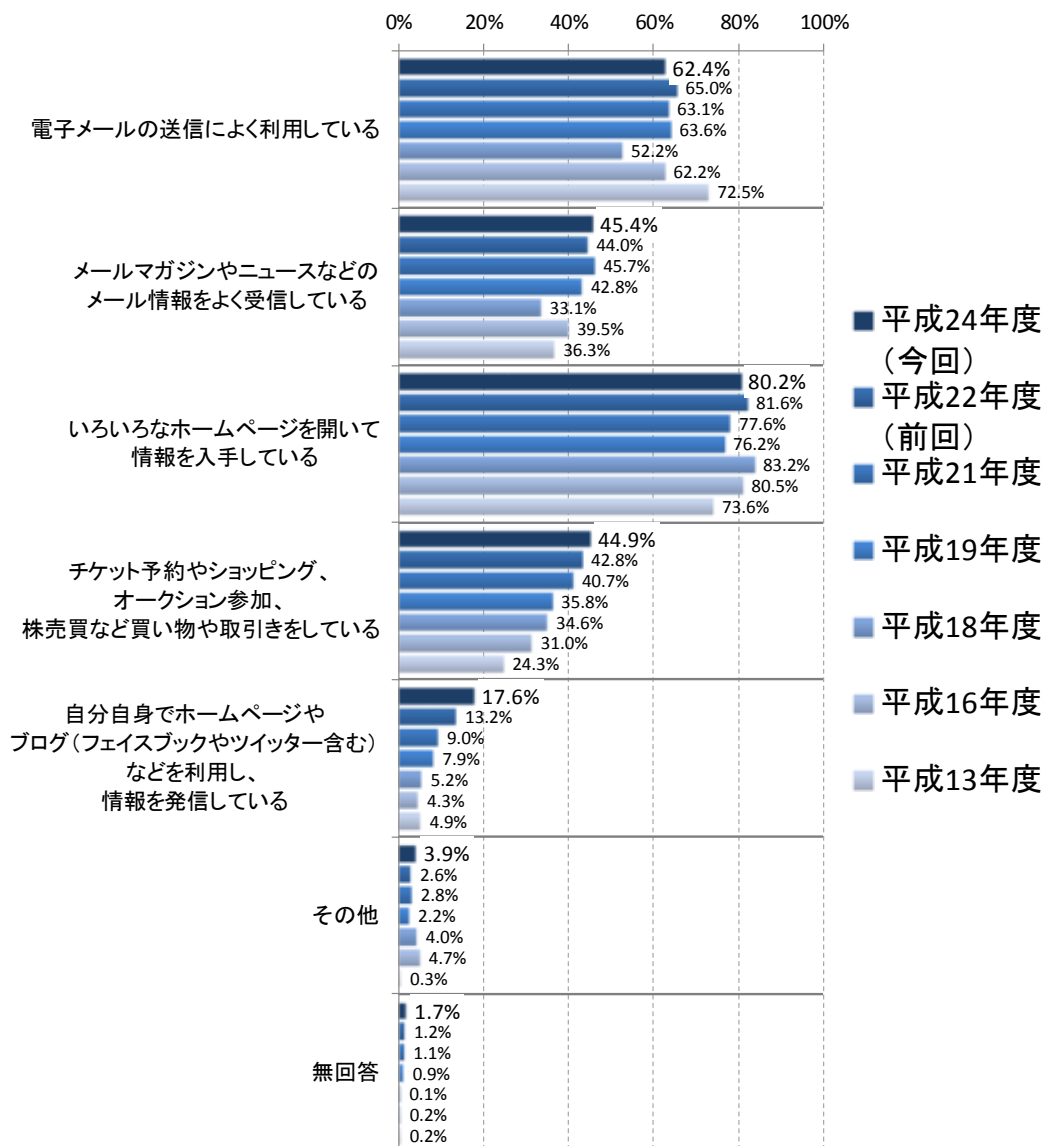
インターネットの利用状況を見ると、“毎日のように利用している”との回答が44.8%で最も多くなっていますが、前回調査と比べると回答の割合がわずかに減少しています。“時々利用している”(12.9%)、“たまに利用している”(6.3%)とあわせると、64.0%と6割以上がインターネットを利用していると回答しています。



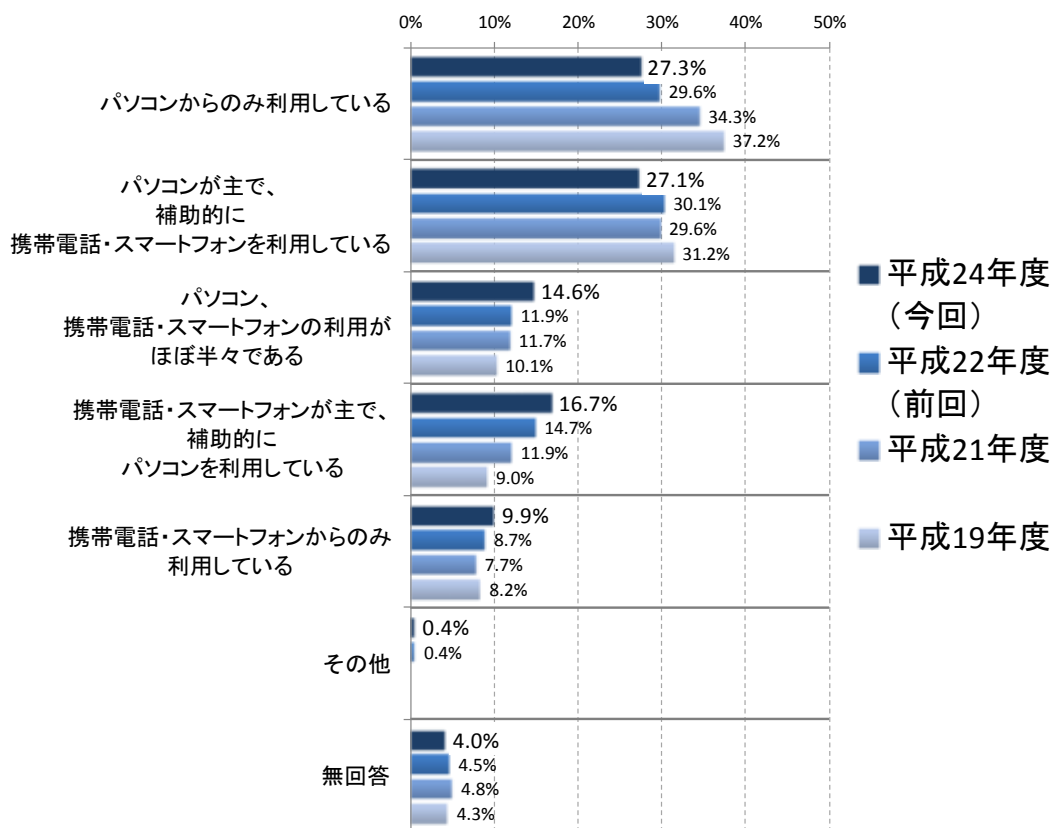
インターネット利用者の利用目的は前回調査と同様に“いろいろなホームページを開いて情報を入手している”(80.2%)が最も多く、次いで“電子メールの送信によく利用している”(62.4%)となっています。

“自分自身でホームページやブログ(フェイスブックやツイッター含む)などを利用し、情報を発信している”への回答は前回調査の13.2%から17.6%と、自身で情報発信を行う人は増加しています。

また、“チケット予約やショッピング、オークション参加、株売買など買い物や取引きをしている”(44.9%)への回答も年々増加しており、ネットショッピングが買い物の主要な手段の一つになっている状況がうかがえます。

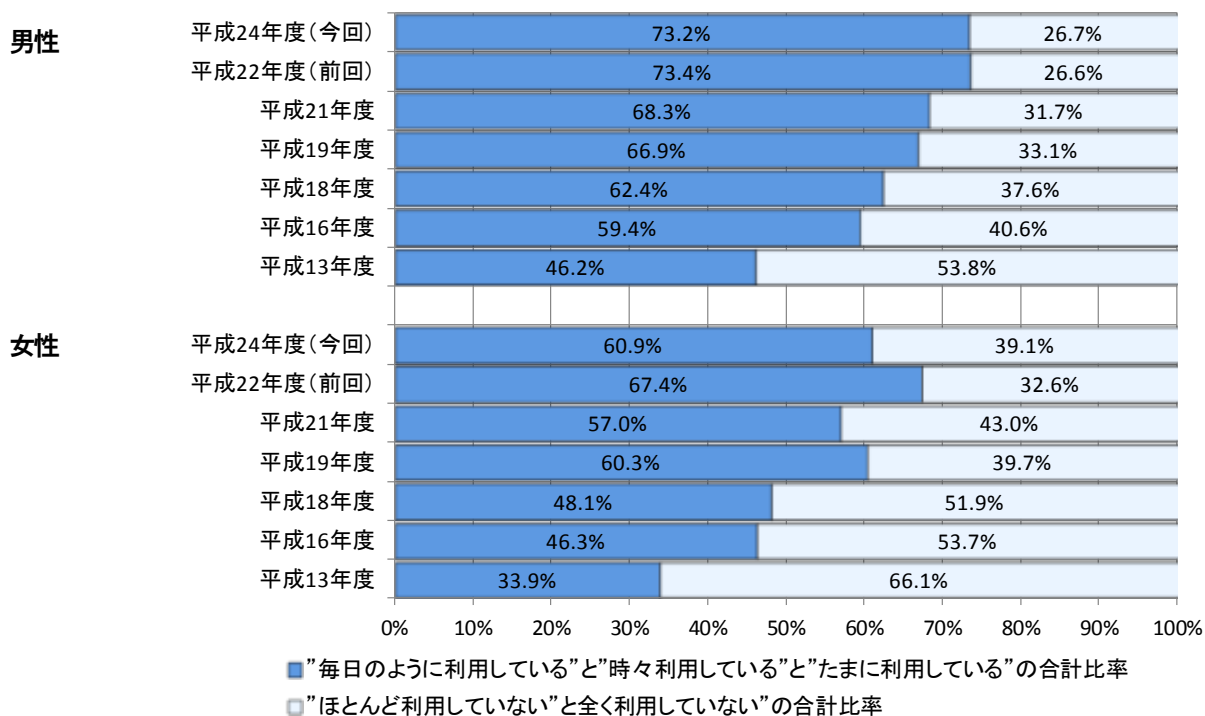


インターネット利用者のネットにアクセスする主な媒体についてみると“パソコンからのみ利用している”と回答する人の割合は徐々に減少しています。逆に“携帯電話・スマートフォンが主で補助的にパソコンを利用している”と回答する人の割合は増えています。



性別で見ると、前回調査と同様に女性よりも男性の方が利用している人の割合が多くなっています。女性では前回調査に比べ 67.4%から 60.9%と 6.5 ポイント減少していますが、経年変化をみるとインターネットを利用している人は増加傾向にあります。

【インターネット利用×性別】



年齢別にみると、前回調査と同様に若い年齢層ほどインターネットを利用している人の割合が高くなっています。経年変化をみると、50歳以上の年代でもインターネットを利用している割合が徐々に増えてきています。

【インターネット利用×年齢】

